

ANNUAL REPORT 2026

アニュアル レポート

2026 【公表版】

国立大学法人
東京学芸大学

目 次

I. 教育活動

(1) 学部入試状況	2
(2) 入学者の都道府県別選抜経過表	4
(3) 退学・休学別の状況	5
(4) 学部進路状況	7
(5) 大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況	8
(6) 大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況	9
(7) 大学院連合学校教育学研究科入試進路状況	10
(8) 附属学校入学者選抜状況	12
(9) 教員免許取得状況	13
(10) 諸資格取得者数	14
(11) 附属学校の教育実習生受入状況	14
(12) FD研修会	15
(13) 単位互換制度	16
(14) 学生支援	17
(15) キャリア支援	19

II. 研究活動

(1) 文部科学省ミッション実現加速化経費	22
(2) 受託研究	22
(3) 文部科学省等補助金事業	22
(4) 科学研究費助成事業	23
(5) 産学連携研究	24
(6) 研究プロジェクト（教育実践研究推進本部公募）	26
(7) 機構・センターの研究活動	27
(8) 附属学校の研究活動	35
(9) 附属学校研究会	36
(10) 研究活動受賞者	37

III. 社会貢献活動

(1) 地域連携事業	40
(2) 教育者研修（教育者研修推進本部 実施）	41
(3) 受託事業	50
(4) 公開講座	51
(5) 附属学校現職教員研修講座	52

IV. 国際交流活動

(1) 大学間交流協定校	54
(2) 協定校派遣留学状況	55
(3) 短期留学状況	55
(4) 外国人留学生受入状況	56
(5) 教員・研究者の派遣受入状況	57
(6) 国際交流／留学生センター事業	58

V. 大学運営

(1) 役員会 議題一覧	60
(2) 経営協議会 議題一覧	61
(3) 教育研究評議会 議題一覧	62
(4) 委員会等一覧	63
(5) 令和7年度収入・支出予算額	66
(6) 男女共同参画の現状	67
(7) 教職員の年齢構成	69

付：関係資料

(1) 令和8年度機構図	72
(2) 役職員	73
(3) 第4期中期目標・中期計画	74
(4) 大学の目的	79
(5) 行動規範	76
(6) 点検評価規程	80

I. 教育活動

I ー(1)学部入試状況

①一般選抜(令和8年度)

課程	類	コース・プログラム	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
											男	女	
学校教育教員養成課程	A類	国語	80	60	前	50	86	1.7	85	54	50	23	27
					後	10	77	7.7	22	12	12	4	8
		社会	70	70	前	50	102	2.0	101	53	52	31	21
					後	20	129	6.5	51	23	19	6	13
		数学	65	65	前	50	108	2.2	107	53	51	34	17
					後	15	85	5.7	31	16	14	8	6
		理科	85	70	前	60	117	2.0	114	63	62	37	25
					後	10	70	7.0	22	10	9	4	5
		音楽	25	20	前	15	21	1.4	21	16	16	2	14
					後	5	22	4.4	6	6	6	2	4
		美術	25	15	前	15	25	1.7	24	17	17	5	12
					後	5	22	4.4	6	6	6	2	4
		保健体育	40	30	前	30	65	2.2	63	32	30	14	16
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		家庭	15	12	前	12	21	1.8	21	14	12	2	10
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		英語	15	8	前	8	5	0.6	5	5	4	0	4
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		学校教育	20	20	前	15	24	1.6	24	17	16	3	13
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		学校心理	20	15	前	15	20	1.3	20	17	17	3	14
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		国際教育	15	12	前	12	32	2.7	31	14	14	5	9
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		環境教育	20	17	前	17	54	3.2	54	19	17	11	6
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		ものづくり技術	10	7	前	7	21	3.0	21	9	9	6	3
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		幼児教育	20	16	前	16	27	1.7	26	18	18	3	15
					後	5	45	9.0	12	5	4	1	3
		計	525	437	前	372	728	2.0	717	401	385	179	206
					後	65	428	6.6	144	72	64	25	39
	B類	国語	20	15	前	15	36	2.4	36	17	16	8	8
					後	5	50	10.0	16	5	5	3	2
		社会	25	25	前	20	34	1.7	34	23	23	21	2
					後	5	50	10.0	16	5	5	3	2
		数学	25	25	前	20	68	3.4	68	22	22	20	2
					後	5	38	7.6	15	5	3	2	1
		理科	45	40	前	35	46	1.3	45	37	36	26	10
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		音楽	20	15	前	15	28	1.9	27	17	17	4	13
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		美術	20	12	前	12	25	2.1	24	14	13	3	10
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		保健体育	20	12	前	12	20	1.7	20	14	12	8	4
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		家庭	10	8	前	8	11	1.4	11	10	10	3	7
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		技術	10	7	前	7	19	2.7	19	10	10	7	3
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		英語	15	8	前	8	22	2.8	20	9	8	2	6
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		書道	20	16	前	16	26	1.6	26	18	18	3	15
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		情報	20	15	前	15	36	2.4	35	17	17	12	5
					後	5	61	12.2	18	5	5	3	2
		計	250	198	前	183	371	2.0	365	208	202	117	85
					後	15	149	9.9	49	15	13	8	5
	C類	特別支援教育	40	32	前	32	43	1.3	43	34	34	4	30
	D類	養護教育	10	6	前	6	6	1.0	6	4	4	0	4
	合計		825	673	前	593	1,148	1.9	1,131	647	625	300	325
					後	80	577	7.2	193	87	77	33	44
					計	673	1,725	2.6	1,324	734	702	333	369

課程	類	コース	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
											男	女	
教育支援課程	E類	生涯学習・文化遺産教育	35	35	前	30	76	2.5	72	33	31	8	23
					後	5	57	11.4	21	6	4	0	4
		カウンセリング	20	13	前	13	22	1.7	21	16	16	2	14
		ソーシャルワーク	20	18	前	18	21	1.2	21	19	18	4	14
		多文化共生教育	40	40	前	30	35	1.2	33	33	30	8	22
					後	10	89	8.9	18	12	10	7	3
		情報教育	15	15	前	10	21	2.1	21	12	11	5	6
					後	5	24	4.8	7	5	5	2	3
		表現教育	20	15	前	15	26	1.7	24	17	16	3	13
		生涯スポーツ	35	18	前	18	41	2.3	41	20	17	8	9
合計			185	154	前	134	242	1.8	233	150	139	38	101
					後	20	170	8.5	46	23	19	9	10
					計	154	412	2.7	279	173	158	47	111

総計	1,010	827	前	727	1,390	1.9	1,364	797	764	338	426
			後	100	747	7.5	239	110	96	42	54
			計	827	2,137	2.6	1,603	907	860	380	480

③編入学(令和8年度)

類	コース	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
B類	家庭			8		8	2	2
計				8		8	2	2

④国費留学生(令和8年度)

実施なし

⑤追試験(令和8年度)

実施なし

②特別選抜(令和8年度)

課程	類	コース・プログラム	入学定員	学校推薦型選抜					総合型選抜					高大接続プログラム特別入試				帰国生選抜				私費外国人留学生選抜				国際バカロレア選抜			
				募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
学校教育教員養成課程	A類	国語	80	20	46	46	20	20																					
		社会	70											2	2	2	2	1	0	0	0								
		数学	65																										
		理科	85	15	32	32	15	15																					
		音楽	25						5	17	17	5	5																
		美術	25	7	15	15	8	8	3	7	7	3	3																
		保健体育	40	10	28	28	10	10																					
		家庭	15	3	9	9	3	3																					
		英語	15	7	10	10	7	7																					
		学校教育	20														1	1	0	0	1	1	0	0					
		学校心理	20	5	28	28	5	5						1	1	1	1					1	1	0	0				
		国際教育	15	3	9	9	3	3									1	0	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	
		環境教育	20						3	13	13	3	3																
		ものづくり技術	10	2	6	6	2	2	1	3	2	0	0																
		幼児教育	20	4	17	17	5	5													1	1	0	0					
	計	525	76	200	200	78	78	12	40	39	11	11	3	3	3	3	3	1	0	0	4	4	0	0	3	3	0	0	
	B類	国語	20	5	23	23	5	5						1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0				
		社会	25											1	1	1	1								1	1	1	1	
		数学	25																		1	1	0	0					
		理科	45	5	23	23	5	5						1	1	1	1					1	1	0	0	1	1	1	1
		音楽	20						5	31	31	5	5																
		美術	20	5	17	17	5	5	3	8	8	3	3																
		保健体育	20	4	20	19	4	4	4	17	16	4	4																
		家庭	10						2	7	7	1	1	1	1	1	1	1											
		技術	10	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1																
		英語	15	7	16	16	7	7																	1	0	0	0	
		書道	20	4	12	12	4	4																					
		情報	20						5	11	11	5	5																
		計	250	32	113	112	31	31	20	75	74	19	19	4	4	4	4	1	1	0	0	3	2	0	0	3	2	2	2
		C類	特別支援教育	40	8	27	27	8	8									1	1	0	0					1	1	1	0
		D類	養護教育	10	4	20	20	5	5																				
	合計			825	120	360	359	122	122	32	115	113	30	30	7	7	7	7	5	3	0	0	7	6	0	0	7	6	3
教育支援課程	E類	生涯学習・文化遺産教育	35																		3	2	0	0	1	0	0	0	
		カウンセリング	20	7	27	26	7	7									1	1	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	
		ソーシャルワーク	20	2	8	6	2	2																					
		多文化共生教育	40														1	1	1	1	14	9	3	3	1	1	1	0	
		情報教育	15														1	1	1	1									
		表現教育	20	5	7	7	5	5													1	1	0	0					
		生涯スポーツ	35						17	45	44	17	17					1	1	1	0					1	1	1	1
	合計		185	14	42	39	14	14	17	45	44	17	17	0	0	0	0	4	4	3	2	20	14	3	3	4	2	2	1
総計		1,010	134	402	398	136	136	49	160	157	47	47	7	7	7	7	9	7	3	2	27	20	3	3	11	8	5	3	

I－(2) 入学者の都道府県別選抜経過表

(令和8年度)

都道府県	学校教育教員養成課程						教育支援課程					
	志願者			入学者			志願者			入学者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
01 北海道	18	12	30	10	8	18	4	7	11	2	5	7
02 青森県	4	5	9	3	3	6	1	1	2	1	1	2
03 岩手県	15	8	23	8	7	15	2	1	3	1	1	2
04 宮城県	11	16	27	6	11	17	3	3	6	2	1	3
05 秋田県	5	5	10	2	1	3	2	2	4	0	2	2
06 山形県	3	3	6	2	2	4	1	1	2	0	1	1
07 福島県	17	15	32	7	10	17	3	3	6	2	2	4
08 茨城県	31	31	62	15	14	29	3	21	24	2	9	11
09 栃木県	14	15	29	7	8	15	5	4	9	2	4	6
10 群馬県	27	21	48	9	7	16	3	7	10	1	3	4
11 埼玉県	82	110	192	35	41	76	16	29	45	5	10	15
12 千葉県	35	33	68	10	13	23	7	8	15	1	0	1
13 東京都	316	306	622	102	114	216	45	75	120	11	25	36
14 神奈川県	110	91	201	29	38	67	16	32	48	4	10	14
15 新潟県	12	7	19	7	2	9	1	3	4	0	1	1
16 富山県	6	13	19	3	6	9	1	5	6	0	3	3
17 石川県	4	10	14	1	6	7	1	6	7	1	4	5
18 福井県	2	3	5	1	1	2	1	2	3	0	0	0
19 山梨県	9	4	13	4	1	5	2	2	4	1	1	2
20 長野県	24	19	43	13	11	24	3	6	9	0	2	2
21 岐阜県	2	3	5	0	0	0	0	3	3	0	2	2
22 静岡県	28	23	51	17	14	31	5	6	11	1	4	5
23 愛知県	11	15	26	4	11	15	4	4	8	0	3	3
24 三重県	6	3	9	2	1	3	0	0	0	0	0	0
25 滋賀県	2	1	3	2	1	3	0	0	0	0	0	0
26 京都府	3	2	5	2	0	2	0	0	0	0	0	0
27 大阪府	5	1	6	1	1	2	1	1	2	0	1	1
28 兵庫県	3	2	5	0	1	1	3	3	6	2	3	5
29 奈良県	0	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
30 和歌山県	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0
31 鳥取県	3	1	4	1	1	2	0	1	1	0	0	0
32 島根県	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	1	1
33 岡山県	6	4	10	2	2	4	3	1	4	1	0	1
34 広島県	3	10	13	1	5	6	4	1	5	2	1	3
35 山口県	2	2	4	1	2	3	2	2	4	2	0	2
36 徳島県	2	2	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0
37 香川県	1	3	4	1	2	3	1	1	2	0	1	1
38 愛媛県	9	3	12	4	1	5	1	0	1	1	0	1
39 高知県	2	2	4	1	1	2	1	1	2	0	1	1
40 福岡県	17	12	29	7	6	13	0	5	5	0	1	1
41 佐賀県	3	0	3	2	0	2	0	1	1	0	0	0
42 長崎県	2	3	5	2	3	5	0	1	1	0	1	1
43 熊本県	2	4	6	0	2	2	1	2	3	0	1	1
44 大分県	4	1	5	3	0	3	0	2	2	0	1	1
45 宮崎県	1	2	3	0	1	1	0	2	2	0	2	2
46 鹿児島県	5	4	9	2	3	5	2	2	4	2	2	4
47 沖縄県	6	5	11	2	1	3	2	1	3	0	1	1
検定	6	4	10	1	1	2	1	0	1	0	0	0
その他	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
計	880	845	1,725	333	369	702	152	260	412	47	111	158

(注) 学校推薦型選抜、総合型選抜、高大接続プログラム特別入試、帰国生選抜、外国人留学生選抜、国際バカロレア選抜、国費留学生は含まない。

I－(3)退学・休学別の状況

①教育学部(令和7年度)

類	選修・専攻	学生数	退学者数					休学者数				
			1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
A類	国 語	340				4 (3) 【1】	4 (3) 【1】			3	2	5
	社 会	298				1 (1)	1 (1)			1	1 (1)	2 (1)
	数 学	282	1			1 (1) 【1】	2 (1) 【1】		1	1	4 (3)	6 (3)
	理 科	371				2 (2) 【1】	2 (2) 【1】			3 <1>	5 (4)	8 (4) <1>
	音 楽	106									2 (2) <1>	2 (2) <1>
	美 術	110		1		1 【1】	2 【1】			1	2	3
	保健体育	174									1 (1)	1 (1)
	家 庭	66							1		1 (1)	2 (1)
	英 語	72								1 <1>	1 <1>	2 <2>
	学校教育	87								1		1
	学校心理	88								1	3 (2) <1>	4 (2) <1>
	国際教育	72							1			1
	情報教育	27				1	1					
	環境教育	87										
	ものづくり技術	42				1 (1) 【1】	1 (1) 【1】				2 (2)	2 (2)
	幼児教育	89										
B類	国 語	88							1			1
	社 会	108				1 (1)	1 (1)				2 (1)	2 (1)
	数 学	108				1	1				1 (1)	1 (1)
	理 科	199				5 (3) 【1】	5 (3) 【1】			1	3 (3)	4 (3)
	音 楽	84		1		1	2					
	美 術	90						1				1
	保健体育	93										
	家 庭	48										
	技 術	43										
	英 語	69									1	1
	書 道	92									1 (1)	1 (1)
	情 報	62			1		1			1		1
C類	特別支援教育	168								1		1
D類	養護教育	48			1 【1】		1 【1】			2		2
教育系・学校教育系計		3,611	1	2	2 【1】	19 (12) 【6】	24 (12) 【7】	1	4	17 <2>	32 (22) <3>	54 (22) <5>
E類	生涯学習	148								1		1
	カウンセリング	93			1		1				2	2
	ソーシャルワーク	81										
	多文化共生教育	180	1		2 【1】		3 【1】		1 <1>	3 <1>	3 <2>	7 <4>
	情報教育	69									1	1
	表現教育	87									1 (1)	1 (1)
	生涯スポーツ	147				1	1					
教養系・教育支援系計		805	1	0	3 【1】	1	5 【1】	0	1 <1>	4 <1>	7 (1) <2>	12 (1) <4>
総計		4,416	2	2	5 【2】	20 (12) 【6】	29 (12) 【8】	1	5 <1>	21 <3>	39 (23) <5>	66 (23) <9>

令和7年5月1日現在の学生数。

()は卒業延期者で内数。休学は重複カウントしない。退学者には除籍者を含む。

【 】は休学中に退学した者で内数、休学者数にも含む。

< > は語学研修等のため休学した者で内数。

②修士課程（令和7年度）

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
学校教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
学校心理	0 (0)	－	－	－	－	－	－
特別支援教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
家政教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
国語教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
英語教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
社会科教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
数学教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
理科教育	1 (1)	－	1	1	－	0	0
技術教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
音楽教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
美術教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
保健体育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
養護教育	0 (0)	－	－	－	－	－	－
総合教育開発	0 (0)	－	－	－	－	－	－
次世代日本型教育システム研究開発	53 (8)	0	2	2	2	6	8
教育支援協働実践開発	188 (19)	0	4 【2】	4 【2】	2	8	10
計	241 (25)	0	7 【2】	7 【2】	4	14	18

令和7年5月1日現在の学生数。

()は修了延期者及び在籍3年以上の長期履修学生で内数。休学は重複カウントしない。

退学者には除籍者を含む。【 】は休学中に退学した者で内数、休学者数にも含む。

③教職大学院（令和7年度）

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
教育実践専門職高度化専攻	426	0	3 【1】	3	2	7	9

令和7年5月1日現在の学生数。【 】は休学中に退学した者で内数、休学者数にも含む。

④特別支援教育特別専攻科(令和7年度)

	学生数	退学者数	休学者数
特別支援教育	19	0	0

令和7年5月1日現在の学生数。

I - (4) 学部進路状況

◎進路状況(令和7年3月卒業生)

[学部] *留学生及び前年9月卒業生は除く

＜課程別進路状況(学校教育系)＞令和7年9月30日現在 (人)

課程 進路		初等教育 教員養成 課程 (A類)	中等教育 教員養成 課程 (B類)	特別支援 教育教員 養成課程 (C類)	養護教育 教員養成 課程 (D類)	合計
教員(非常勤含む)	幼稚園	8	0	0	0	8
	幼保連携型認定 こども園	2	0	0	0	2
	小学校・義務 教育学校	198	17	8	4	227
	中学校・中等 教育学校	47	50	0	2	99
	高等学校	30	45	0	0	75
	特別支援学校	2	0	21	0	23
	日本人学校	5	0	0	0	5
	教員小計	292	112	29	6	439
保育士		6	0	0	0	6
公務員		20	5	1	0	26
企業等		129	43	1	3	176
進学		59	43	10	2	114
その他		27	21	1	1	50
小計		241	112	13	6	372
計		533	224	42	12	811

※教育支援職(「学び」の支援に関わる業務がある職、または、学校・教育現場における課題解決への提案、協働等を行っている業務がある職)への就職は138人(教員就職者は含まない)。

＜コース別進路状況(教育支援系)＞令和7年9月30日現在 (人)

コース 進路	生涯学習 コース (E類)	カウンセリング コース (E類)	ソーシャル ワークコース (E類)	多文化共生 教育コース (E類)	情報教育 コース (E類)	表現教育 コース (E類)	生涯スポーツ コース (E類)	合計
教員(非常勤含む)	0	0	0	8	0	0	3	11
公務員	11	1	8	2	0	1	0	23
企業等	22	3	13	27	6	16	23	110
進学	2	15	0	3	7	1	4	32
その他	3	0	0	2	1	3	3	12
計	38	19	21	42	14	21	33	188

※教育支援職(「学び」の支援に関わる業務がある職、または、学校・教育現場における課題解決への提案、協働等を行っている業務がある職)への就職は103人(教員就職者は含まない)。

I 一(5)大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況

①修士課程(令和8年度)

専攻	プログラム	募集人員	志 願 者										受 験 者										
			一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般 (第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計	一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般 (第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学
次世代日本型教育システム研究開発		20	12	1		1	43	9			1	67	10	1		1	25	7				1	45
教育支援協働実践開発	教育AI研究	35	29	5		1	22	10				67	22	4		1	17	4					48
	臨床心理学	20	60				1					61	47										47
	教育協働研究	34	27	1		1	20	14				63	23	1		1	16	12					53
	計	89	116	6		2	43	24				191	92	5		2	33	16					148
合 計		109	128	7		3	86	33		1	258	102	6		3		58	23				1	193

専攻	プログラム	募集人員	合 格 者										入 学 者											
			一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般 (第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計	一般	現職教員	派遣教員	社会人	教育支援人材	留学生等 外国教育を受けた者	一般 (第2次募集)	北京DP	ソウルDP	10月入学	合計
次世代日本型教育システム研究開発		20	8			1	12		2			1	24	6			1	11					1	19
	教育AI研究	35	20	2		1	7		2				32	18	2		1	7		1				29
	臨床心理学	20	22										22	20										20
	教育協働研究	34	15				4		5				24	14				3		4				21
	計	89	57	2		1	11		7				78	52	2		1	10		5				70
合 計		109	65	2		2	23		9			1	102	58	2		2	21		5			1	89

②教職大学院(教育実践専門職高度化専攻)(令和8年度)

入学定員:210名

選抜試験日程	募集人員	志 願 者						受 験 者						合 格 者						入 学 者					
		特別	一般	現職教員	派遣教員	留学生等	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	留学生等	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	留学生等	計	特別	一般	現職教員	派遣教員	留学生等	計
A 日 程	205	48	218	24	24	23	337	45	191	23	24	19	302	45	135	23	24	8	235	45	124	22	24	8	223
B 日 程	5				3		3				3		3				3		3				3		3
計	210	48	218	24	27	23	340	45	191	23	27	19	305	45	135	23	27	8	238	45	124	22	27	8	226

③教職大学院入学者の出身大学等状況

出身大学	人数
東京学芸大学	71
その他国公立大学	27
私立大学	62
計	160

出身大学の人数は現職教員を含まない。

派遣元機関	人数
東京都教育委員会	22
埼玉県教育委員会	1
静岡県教育委員会	1
高知県教育委員会	1
さいたま市教育委員会	1
附属学校	1
計	27

④教職大学院入学者の教員免許取得状況(学生数 226名)

	のべ人数
幼稚園	21
小学校	108
中学校	187
高等学校	245
特別支援学校	23
養護教諭	6
計	590

のべ人数には2種免許状取得者を含まない。

⑤修士課程・10月入学(令和8年度)

①修士課程の表に記載しております。

⑥特別支援教育特別専攻科(令和8年度)

入学定員 (募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者
20	17(0)	14(0)	12(0)	10(0)

()の数字は学校教員に対する学力検査の特例措置適用者を内数で示す。

I ー(6) 大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況

① 大学院修士課程(教職大学院を除く)進路状況(令和7年3月修了生)

令和7年9月30日現在(人)

進路 \ 専攻	研究次 育世 開シ 発ス 専テ 攻ム 型	実教 実践 育開 支 援 協 攻 働	合計
教員(非常勤含む)	1	6	7
保育士	0	0	0
公務員	0	7	7
企業等	4	30	34
進学等	0	2	2
その他	0	7	7
計	5	52	57

※教育支援職(「学び」の支援に関わる業務がある職、または、学校・教育現場における課題解決への提案、協働等を行っている業務がある職)への就職は35人(教員就職者は含まない)。

※現職教員、留学生及び前年9月修了生は含まない。

② 教職大学院進路状況(令和7年3月修了生)

令和7年9月30日現在(人)

教育実践専門職高度化専攻		現職	一般	計
教員 (非常勤含む)	小学校・義務教育学校	21	31	52
	中学校・中等教育学校	6	42	48
	高等学校	5	42	47
	特別支援学校	4	3	7
	幼稚園	0	0	0
	養護教諭	1	1	2
	教員小計	37	119	156
日本人学校		0	1	1
教育委員会		6	0	6
公務員		0	1	1
企業等		1	8	9
進学		0	3	3
その他		0	3	3
計		44	135	179

③ 特別支援教育特別専攻科進路状況(令和7年3月修了生)

令和7年9月30日現在(人)

専攻科		計
教員 (非常勤含む)	小学校	2
	中学校・中等教育学校	0
	高等学校	0
	特別支援学校	7
	教員小計	9
公務員		0
企業等		0
進学		2
その他		0
計		11

※現職教員及び留学生は含まない。

I ー(7)大学院連合学校教育学研究科入試進路状況

①指導教員有資格者数および入学者選抜経過(令和8年度)

入学定員:30名

講座名	指導教員 有資格者数 [主指導/副指導]	志願者	受験者数	合格者数	入学者数	配置大学			
						学芸	埼玉	千葉	横国
教育構造論	17 [16 /1]	4 (1・1)	3 (0・1)	3 (0・1)	3 (0・1)	3 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
教育方法論	21 [21 /0]	13 (0・8)	13 (0・8)	5 (0・3)	5 (0・3)	4 (0・2)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・1)
発達支援	20 [19 /1]	7 (1・1)	7 (1・1)	4 (0・1)	4 (0・1)	3 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)
言語文化系教育	30 [30 /0]	12 (0・8)	10 (0・7)	4 (0・3)	4 (0・3)	2 (0・2)	0 (0・0)	1 (0・0)	1 (0・1)
社会系教育	23 [22 /1]	4 (1・2)	4 (1・2)	3 (1・1)	3 (1・1)	3 (1・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
自然系教育	35 [33 /2]	16 (0・5)	15 (0・5)	5 (0・1)	4 (0・1)	1 (0・1)	1 (0・0)	0 (0・0)	2 (0・0)
芸術系教育	33 [32 /1]	18 (3・5)	17 (3・4)	5 (0・2)	5 (0・2)	3 (0・0)	1 (0・1)	1 (0・1)	0 (0・0)
健康・スポーツ系教育	19 [18 /1]	5 (0・1)	5 (0・1)	3 (0・1)	3 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	3 (0・1)
生活・技術系教育	30 [30 /0]	8 (0・1)	8 (0・1)	4 (0・1)	4 (0・1)	3 (0・1)	0 (0・0)	1 (0・0)	0 (0・0)
計	228 [221 /7]	87 (6・32)	82 (5・30)	36 (1・14)	35 (1・14)	22 (1・9)	2 (0・1)	3 (0・1)	8 (0・3)

()内の左側は外国人留学生、右側は現職教員で内数。

②学位授与の状況

講座名	平成8～ 令和5年度まで の入学者数 (A)	令和7年度まで の学位授与者数 (B)	学位授与率 (%) (B)/(A)	令和7年度 学位授与者数 (C)	令和7年度 標準修業年限 修了者数 (D)	令和7年度 標準修業年限 修了者率 (%) (D)/(C)	令和2～ 令和7年度 学位授与者数	令和2～令和7年度 学位授与者 平均在学年数 (休学期間を含む)
教育構造論	77 (9)	46 (7)	59.7 (77.8)	2	1	50.0	12	4.8
教育方法論	92 (10)	59 (6)	64.1 (60.0)	3	2	66.7	14	3.9
発達支援	75 (4)	70 (3)	93.3 (75.0)	1	0	0.0	12	3.7
言語文化系教育	106 (26)	66 (21)	62.3 (80.8)	4	0	0.0	18	4.6
社会系教育	62 (12)	17 (5)	27.4 (41.7)	0	0	0.0	4	5.2
自然系教育	80 (3)	53 (2)	66.3 (66.7)	3	1	33.3	11	4.5
芸術系教育	98 (11)	55 (8)	56.1 (72.7)	3	0	0.0	17	5.8
健康・スポーツ系教育	83 (2)	49 (2)	59.0 (100.0)	1	0	0.0	17	5.5
生活・技術系教育	96 (12)	68 (9)	70.8 (75.0)	6	3	50.0	30	4.6
計	769 (89)	483 (63)	62.8 (70.8)	23 0	7 0	30.4 (0.0)	135	4.7

()内は外国人留学生で内数。

③ 修了生の就職先・就職率(開設～令和8年3月)

講座名	種別	修了・退学者数	大学教員	短大教員	研究員、教員以外の研究職	小・中・高校教員	非常勤講師	進学	その他	未定	常勤就職率(%)	研究職就職率(%)
教育構造論	修了	46	33	3	2	2	4 (1)	0	1	1	89.1	82.6
	単位修得満期退学	21	9	1	2	2	2	0	4 (1)	1	85.7	57.1
	退学	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0.0	0.0
	計	68	42	4	4	4	7 (1)	0	5 (1)	2	86.8	73.5
教育方法論	修了	59	41	1	4	3 (1)	5	0	2	3 (1)	86.4	78.0
	単位修得満期退学	18	8	1	1	1	1	0	2	4 (1)	72.2	55.6
	退学	5	2	0	0	2	0	0	0	1	80.0	40.0
	計	82	51	2	5	6 (1)	6	0	4	8 (2)	82.9	70.7
発達支援	修了	70	45 (2)	1	4	7 (2)	4	0	8	1	92.9	71.4
	単位修得満期退学	4	2	0	0	1	0	0	0	1	75.0	50.0
	退学	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0	0.0
	計	75	47 (2)	1	4	8 (2)	4	0	8	3	90.7	69.3
言語文化系教育	修了	66	38	0	1	9 (1)	9	0	4	5 (1)	78.8	59.1
	単位修得満期退学	19	12	0	0	2	2	0	0	3	73.7	63.2
	退学	5	0	0	0	1	1	0	1	2	40.0	0.0
	計	90	50	0	1	12 (1)	12	0	5	10 (1)	75.6	56.7
社会系教育	修了	17	8	0	1	1	3	0	1	3	64.7	52.9
	単位修得満期退学	33	10 (1)	0	2	7	1	0	5	8 (1)	72.7	36.4
	退学	4	1 (1)	0	0	0	0	0	1	2	50.0	25.0
	計	54	19 (2)	0	3	8	4	0	7	13 (1)	68.5	40.7
自然系教育	修了	53	33 (1)	0	3	12	4	0	0	1	90.6	67.9
	単位修得満期退学	12	2	0	2	4 (1)	1	1	1	1	75.0	33.3
	退学	3	0	0	0	1	0	0	0	2	33.3	0.0
	計	68	35 (1)	0	5	17 (1)	5	1	1	4	85.3	58.8
芸術系教育	修了	55	31 (1)	1	0	6 (1)	10 (1)	0	3	4	74.5	58.2
	単位修得満期退学	29	12	1	2	1	2	1	4	6 (1)	69.0	51.7
	退学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	---	---
	計	84	43 (1)	2	2	7 (1)	12 (1)	1	7	10 (1)	72.6	56.0
健康・スポーツ系教育	修了	49	43 (4)	1	0	3 (2)	1	0	0	1	95.9	89.8
	単位修得満期退学	22	13	2	0	3	2	0	1	1	86.4	68.2
	退学	2	0	0	0	0	0	0	1	1	50.0	0.0
	計	73	56 (4)	3	0	6 (2)	3	0	2	3	91.8	80.8
生活・技術系教育	修了	68	40 (4)	0	0	10 (1)	5 (1)	0	9 (1)	4	86.8	58.8
	単位修得満期退学	20	5	1	2	3	2	0	2	5	65.0	40.0
	退学	4	0	0	1	2	0	0	1	0	100.0	25.0
	計	92	45 (4)	1	3	15 (1)	7 (1)	0	12 (1)	9	82.6	53.3
総計	修了	483	312 (12)	7	15	53 (8)	45 (3)	0	28 (1)	23 (2)	85.9	69.2
	単位修得満期退学	178	73 (1)	6	11	24 (1)	13	2	19 (1)	30 (3)	74.7	50.6
	退学	25	3 (1)	0	1	6	2	0	4	9	56.0	16.0
	計	686	388 (14)	13	27	83 (9)	60 (3)	2	51 (2)	62 (5)	81.9	62.4

1. ()内は、令和6年度中の修了者、単位修得満期退学者及び退学者の人数で内数。

2. 常勤就職率は、「大学教員」から「小・中・高校教員」までの合計に「その他」を加えた就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

3. 研究職就職率は、「大学教員」から「研究員・教員以外の研究職」までの合計就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

I — (8) 附属学校入学者選抜状況

(令和8年度)

学校名		入学 定員		募集人員	入学志願者			受験者(A)			合格者(B)			受験倍率(A/B)			入学者		
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	全体	男	女	計
幼稚園	小金井	3才	50	男女あわせて50			56			53			48			1.1			40
				障 若干名			1			1			0						0
	竹早	4才	30	男15 女15	144	151	295	126	121	247	15	15	30	8.4	8.1	8.2	15	15	30
小学校	世田谷		105	応募多 ^が 53 他方を52	519	467	986	418	343	761	53	52	105	7.9	6.6	7.2	53	52	105
	小金井	内	105	応募多 ^が 53 他方を52	14	13	27	13	10	23	6	3	9	2.2	3.3	2.6	4	2	6
		外			495	451	946	343	305	648	49	50	99	7.0	6.1	6.5	49	50	99
	大泉		90	男女各45	784	831	1,615	784	831	1,615	45	45	90	17.4	18.5	17.9	45	45	90
	竹早	内	70		15	14	29	15	14	29	15	14	29	1.0	1.0	1.0	14	14	28
		外		男女各20程度	1,013	1,056	2,069	1,013	1,056	2,069	21	21	42	48.2	50.3	49.3	21	19	40
中学校	世田谷	内	140				92			92			89			1.0			89
		外		男女あわせて約60			235			148			66			2.2			51
	小金井	内	140	男女あわせて約100			69			69			69			1.0			69
		外		男女71			121			91			88			1.0			64
	国際中等教育学校	内	105	45			46			46			45			1.0			45
		外		約60			268			246			68			3.6			62
		帰	編入	2年 数名			22			21			4			5.3			3
		帰		3年 数名			15			14			4			3.5			4
		帰		4年 数名			21			15			5			3.0			3
		帰		5年 数名			2			2			2			1.0			1
		帰		6年 数名			1			1			1			1.0			1
	竹早	内	140		37	37	74	37	37	74	37	37	74	1.0	1.0	1.0	37	37	74
		外		男女あわせて約70	115	125	240	92	87	179	35	35	70	2.6	2.5	2.6	33	33	66
高等学校	高等学校	内	320	200			252			249			201			1.2			201
		外		120			1,472			1,369			407			3.4			114
		留		なし															
	帰	15	15	15			91			65			35			1.9			11
特別支援学校	幼稚部		5	4才児男女あわせて若干名	1	3	4	1	3	4	1	2	3	1.0	1.5	1.3	1	2	3
				5才児男女あわせて若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	小	内	3		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1.0	1.0	1.0	1	2	3
		外		男女あわせて若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
	中	内	6		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1.0	1.0	1.0	1	2	3
		外		男女あわせて若干名	4	5	9	4	5	9	2	2	4	2.0	2.5	2.3	2	2	4
	高	内	8		3	2	5	3	2	5	3	2	5	1.0	1.0	1.0	3	2	5
		外		男女あわせて若干名	5	0	5	5	0	5	3	0	3	1.7		1.7	2	0	2

I 一(9)教員免許取得状況

(令和8年3月卒業者)

類	選修・専攻	卒業 者数	免許取 得者数	免許種							一人当たり免許状取得数					平均 取得数
				小学校	中学校	高校	幼稚園	特別支援	養護	計	1枚	2枚	3枚	4枚	5枚	
A類	国 語	77	74	74	65	65	9	3		216	9		54	10	1	2.9
	社 会	70	66	66	59	114	1	2		242	5	2	6	50	3	3.7
	数 学	68	66	66	57	56	5	3		187	9	1	48	8		2.8
	理 科	91	87	87	72	72	11			242	13	4	61	7	2	2.8
	音 楽	21	21	21	16	16	4			57	4	1	13	3		2.7
	美 術	26	26	26	20	26	3			75	5	1	12	8		2.9
	保健体育	42	41	41	34	34	5			114	7		29	5		2.8
	家 庭	17	17	17	16	16	7	3		59	3	1	2	7	4	3.5
	英 語	15	15	15	15	15	2			47			13	2		3.1
	学校教育	18	18	18	7	8	6	3		42	5	6	3	4		2.3
	学校心理	16	16	16	3	3	6	1		29	8	4	3	1		1.8
	幼児教育	21	21	13	1	1	21	4		40	4	16		1		1.9
	国際教育	16	16	16	9	9	7			41	5	2	4	5		2.6
	情報教育	24	24	24	14	14	1			53	10		13	1		2.2
	環境教育	22	22	22	13	22	4	1		62	6	2	5	8	1	2.8
	ものづくり技術	6	6	6	2	2	1			11	3	2		1		1.8
B類	国 語	22	22		22	22		1		45		21	1			2.0
	社 会	25	24	1	24	46				71		1	23			3.0
	数 学	24	24	1	24	24				49		23	1			2.0
	理 科	43	43	1	43	43				87		42	1			2.0
	音 楽	17	17	2	17	17				36		15	2			2.1
	美 術	21	20	1	21	32		1		55		8	9	3		2.8
	保健体育	24	24	6	24	24				54		18	6			2.3
	家 庭	13	13	6	13	13	4			36		7	2	4		2.8
	技 術	6	6	1	7	7				15		4	1	1		2.5
	英 語	15	15	8	16	18		1		43		5	8	1	1	2.9
	書 道	24	24	6	24	46	1	1		78		1	17	5	1	3.3
C類	特別支援教育	42	41	41	10	10	16	41		118		18	13	7	3	2.9
D類	養護教育	12	12		13	13			12	38			11		1	3.2
教育系・学校教育系/計		838	821	602	661	788	114	65	12	2,242	96	205	361	142	17	2.7

E類	生涯学習	26														
	文化遺産教育	9														
	カウンセリング	21														
	ソーシャルワーク	19														
	多文化共生教育 多言語多文化サブコース	23	8		7	8				15	1	7				1.9
	多文化共生教育 地域研究サブコース	16	8		7	14				21	1	1	6			2.6
	情報教育	15	9			9				9	9					1.0
	表現教育	21														
	生涯スポーツ	35	25		25	25				50		25				2.0
教養系・教育支援系/計		185	50	0	39	56	0	0	0	95	11	33	6	0	0	1.9

総計		1,023	871	602	700	844	114	65	12	2,337	107	238	367	142	17	2.7
----	--	-------	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-------	-----	-----	-----	-----	----	-----

免許取得者数等は一括申請分(大学で卒業年次の学生の免許申請をとりまとめ、東京都教育委員会へ申請したもの)のみ。

I－(10)諸資格取得者数

区分	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和7年度の内訳	
										教育系・学校教育系	教養系・教育支援系
司書教諭	84	122	150	138	168	115	135	128	137	133	4
司書	27	18	29	40	37	38	37	40	36	18	18
社会教育主事(社会教育士)	42	36	34	29	29	31	39	42	31	3	28
学芸員	32	26	35	31	27	25	32	19	24	9	15
社会福祉士 (受験資格)	20	16	19	17	19	18	17	18	19	0	19
スクールソーシャルワーカー	2	3	6	9	3	2	2	10	6	0	6
保育士 (幼児教育選修のみ)	22	21	19	21	19	22	21	22	18	18	
公認コーチングアシスタント (共通科目Ⅲ取得者)	1	4	5	9	21	29	22	29	12	7	5
公認ジュニアスポーツ指導員	0	0	0	0	5	25	15	26	10	7	3
公認スポーツプログラマー	0	0	0	6	4	12	3	10	6	4	2
公認水泳コーチ	0	4	3	2	3	5	4	5	0	0	0

学部学生のための数。

I－(11)附属学校の教育実習生受入状況

(令和7年度)

学校名	教員数	学級数	園児・児童・ 生徒数	教育実習生配当数					
				必修前半	必修後半	必修合計	選択	教職大学院 小免コース	計
幼稚園小金井園舎	9	6	136	8	8	16			16
幼稚園竹早園舎	3	2	60	3	3	6			6
世田谷小学校	26	18	618 (5)	83	71	154	15	2	171
小金井小学校	26	18	614 (3)	80	77	157	17	1	175
大泉小学校	38	22 <4>	569 (16)	80	76	156	18	1	175
竹早小学校	19	12	410 (1)	56	46	102	12	1	115
世田谷中学校	23	12	419	45		45	56		101
小金井中学校	23	12	406	66		66	65		131
竹早中学校	22	12	420	48		48	63		111
高等学校	57	24	948 (18)	59		59	128		187
国際中等教育学校	64	24	715 (43)	71		71	114		185
特別支援学校	34	11	66	25		25	19		44
計	344	173 <4>	5,381 (86)			905	507	5	1,417

< >内は、帰国児童学級の数で内数。()内は、海外帰国児童・生徒の数で内数。

I ー(12)FD研修会

No.	日時	場所	研修会名	担当部局
1	5月28日(水) 14:50～16:20	第4会議室 (飯島会館2階)	STEM教育からSTEAM教育へ	アート・アスレチック教育 センター
2	6月25日(水) 15:20～16:20	C203教室 C204教室	XRで広がる学びの世界:学校現場での 実践と課題	アート・アスレチック教育 センター
3	6月25日(水) 15:00～17:00	オンライン	令和7年度附属学校研究会全体会	附属学校課
4	7月23日(水) 14:40～16:20	東京学芸大学 講義棟	1年生対象教員就職セミナー	学生キャリア支援室
5	9月17日(水) 15:30～17:10	学芸の森ホール	芸術・スポーツ科学系 研究交流研修	芸術・スポーツ科学系
6	9月24日(水) 13:00～14:40	C401教室	「教員就職に向けた研修会」	学生キャリア支援室
7	10月7日(火) 13:00～14:40	S102教室	「教育支援職就職に向けた研修会」	学生キャリア支援室
8	10月15日(水)・22日(水) 11月5日(水)・12日(水)・ 19日(水)・26日(水) 12月10日(水)・17日(水) 各回14:40～15:10	図書館 セミナー エリア・教室 ※11月26日のみ 講義棟S304教室	「手話講習会」	PD推進推進本部
9	12月11日(木) 17:30～19:00	オンライン	第44回 東京学芸大学教育実習研究 シンポジウム	先端教育人材育成推進機構 教育実習グループ
10	12月19日(金) 16:00～17:00	東京学芸大学附 属国際中等教育 学校	「働きやすい附属学校をめざして-大泉地区 からの提言-」	D&I推進本部
11	12月23日(火) 14:40～16:00	大学院アクティ ブラーニングセン ターAL1教室・オン デマンド配信	「「はたらく」から考える障がい」	障がい学生支援室
12	12月24日(水) 15:30～16:45	S103教室	「ダイバーシティ・インクルージョン推進本部 主催 若手教職員交流会」	D&I推進本部
13	2月12日(木) 10:00～12:00	S303教室	「令和7年度ダイバーシティ・インクルージョ ンフォーラム」	D&I推進本部
14	2月13日(金) 14:30～16:00	オンライン	「教職大学院FD研修講演会」	教職大学院
15	3月16日(月)～ 3月31日(火)	オンデマンド配信	「教育実習協力校訪問に当たっての連絡 教員としての業務」	PD推進本部

I - (13) 単位互換制度

①多摩地区国立5大学単位互換に伴う派遣・受入学生数(学部)

年 度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数
一橋大学	派遣	8	16	15	13	18	21	12	21
	受入	3	5	3	3	5	3	0	0
東京外国語大学	派遣	4	5	5	4	2	2	8	12
	受入	0	0	1	1	2	2	2	2
電気通信大学	派遣	2	4	1	1	2	2	0	0
	受入	1	2	0	0	1	1	1	1
東京農工大学	派遣	0	0	0	0	6	9	4	5
	受入	1	1	0	0	0	0	0	0
計	派遣	14	25	21	18	28	34	24	38
	受入	5	8	4	4	8	6	3	3

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立5大学単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。

②多摩地区国立大学大学院単位互換に伴う派遣・受入学生数(大学院)

年 度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数
東京外国語大学	派遣	1	1	1	2	2	3	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
電気通信大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	2	2	0	0	0	0	0	0
東京農工大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
計	派遣	1	1	1	2	2	3	0	0
	受入	2	2	0	0	0	0	0	0

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立大学大学院単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。

③その他の単位互換(学部)

年 度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
協定校	受入	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数
玉川大学								1	1
計								1	1

玉川大学とは、本学への学生の受け入れについて令和7年度より単位互換の協定を締結している。

I ー(14) 学生支援

①学芸むさしの奨学金

年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
区分	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援
学部	4	13	2	13	2	12
修士課程	0	4	0	9	0	4
教職大学院	0	0	0	0	0	0
特別専攻科	0	0	0	0	0	0

②-1 日本学生支援機構奨学金(貸与型)

年度	令和5年度				令和6年度				令和7年度			
区分	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用
学部	237	113	102	20	272	114	112	31	302	93	102	47
修士課程	19	16	2	1	16	13	1	2	22	18	0	2
教職大学院	23	21	0	2	104	94	2	3	157	136	2	7
博士課程	5	4	0	1	6	6	0	0	3	2	0	1
特別専攻科	4	4	0	0	0	0	0	0	4	2	2	0

予約採用者も申請者数と各採用者数に含む。
併用は重複カウントせず1名と数える。

②-2 日本学生支援機構奨学金(給付型)

年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
区分	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数
学部	119	94	157	117	878	812

※国の高等教育の修学支援新制度により令和2年度より実施

③入学料免除及び徴収猶予

年度		令和5年度					令和6年度						令和7年度				
区分		申請者数	全額	2/3	半額	1/3	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	1/4	申請者数	全額	2/3	半額	1/3
入学料免除	学部	87	49	13	0	11	114	43	26	0	18	6	353	294	19	3	15
	修士課程	19	1		6		25 (1)	2		6 (1)			22	3		3	
	教職大学院	16	7		1		16	4		5			28	8		2	
	博士課程	6	0		2		5	1		0			2	0		0	
	特別専攻科	2	1		0		1	1		0			1	0		1	
徴収猶予	学部	1	1				1	1					1	1			
	修士課程	0	0				2	1					0	0			
	教職大学院	0	0				0	0					1	0			
	博士課程	0	0				0	0					0	0			
	特別専攻科	0	0				0	0					0	0			

学部学生の入学料免除は、R2年度から実施された、国の高等教育の修学支援新制度による免除分を含む。
教職特待生の免除分は含まない。
()は被災学生に係る免除枠で内数。

④授業料免除

年度	令和5年度						令和6年度								令和7年度						
区分	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	不許可	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	1/4	その他	不許可	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	その他	不許可
学部	709 【2】	356 【2】	141	10	100	102	746 (2)	345 (2)	159	3	94	35	2	108	2,206	1,813	150	0	85	0	158
修士課程	140	85		26		29	121 (2)	54		41 (2)				26	127 (1)	58		42 (1)			27
教職大学院	88	49		21		18	79 (1)	43		18				18 (1)	104	48		29			27
博士課程	63	26		19		18	47	15		14				18	38	8		15			15
特別専攻科	6	4		2		0	2	2		0				0	3	2		0			1

学部学生の授業料免除は、R2年度から実施された、国の高等教育の修学支援新制度による免除分を含む。
教職特待生の免除分は含まない。
()は被災学生に係る免除枠で内数。
【 】は新型コロナウイルスによる家計急変世帯学生に係る免除枠で内数。

⑤-1 保健管理センターの利用状況

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
保健管理センター	2,040	2,116	2,315

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。

⑤-2 保健管理センター月別利用状況(令和7年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度	257	335	300	362	91	83	165	185	185	156	101	95

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。

⑥-1 学生相談室の利用状況

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生相談室	1,970 (190)	1,921 (203)	2,280 (191)

延べ人数。()は実人数。(令和7年度からオンライン、メール及び電話での対応を含む人数を計上。)

⑥-2 学生相談室月別利用状況(令和7年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度	192	223	231	223	125	156	216	172	203	204	157	178

延べ人数。(オンライン、メール及び電話での対応を含む)

⑦-1 障がい学生支援室の利用状況

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
障がい学生支援室	2,937	2,412	1,681

相談・対応延べ人数。(学生サポーターとの連絡・調整は含まず)

⑦-2 学生サポーターの説明会およびサポート講習会の開催

年度	令和7年度
障がい学生支援室	18回

⑦-3 障がい学生支援室月別利用状況(令和7年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度	373	169	95	112	61	173	130	65	84	125	142	152

相談・対応延べ人数。(学生サポーターとの連絡・調整は含まず)

《令和7年度 物価高に対する学生支援》

⑧物価高に対する学生支援

年度	令和7年度
学部	266

対象者: 非課税または非課税に準じる世帯の学生(日本学生支援機構給付型奨学金受給者)

支援内容: 生協電子マネー(8,270円/1人)を配布

配布期間: 令和7年11月27日

支援総額: 219万9千円(自己財源+助成金)

キャリア支援行事

(令和7年度)

	行 事 名	対 象
キャリア支援 ガイダンス等	1年生キャリア支援セミナー	学部1年生(教員志望等)
	2年生キャリア支援セミナー	学部2年生(教員志望等)
	1・2年生キャリア支援セミナー	学部1・2年生(企業・公務員等志望者)
	3年生キャリア支援セミナー	学部新3年生(教員志望等)
	4年生キャリア支援セミナー	学部3年生(企業・公務員等志望者)
	学部新4年生(教員志望者)	
	学部新4年生(学部3年生)(企業等志望者)	
	教育支援ボランティア・学校インターンシップ説明会	学年等不問
教員関係 説明会	企業・官公庁等インターンシップガイダンス	学年等不問
	就活不安解消講座	学年等不問
	春季教員採用試験説明会(春季)	学年等不問
	全国教育委員会教員採用試験説明会(11～2月)	〃
	特別区幼稚園教諭採用試験説明会(冬季)	〃
	日本私学小学校連合会説明会	〃
東京教師養成塾	私学教員採用ガイダンス	〃
	私立学校教員志望者向け説明会	〃
教採対策講座等	東京教師養成塾説明会	学部3年以下、大学院1年生
	春の論文作成講座	学年等不問 (特にR7実施教採受験予定者)
	直前対策講座	R7実施教採受験者
	直前講座	〃
	教員採用試験対策オンライン講座(教職教養及び面接)	学年等不問
	教員採用1次試験対策学内模試	R8・R9実施教採受験予定者
教師力養成特別講座	令和7年度2年生向け教採対策講座	学部2年生
	第33回 教師力養成特別講座(有料・全15回)	R7実施教採受験予定者
企業・公務員就職対策講座	第34回 教師力養成特別講座(有料・全18回)	R8実施教採受験予定者
	企業・公務員就職対策講座「インターンシップ・就職活動で会いたいと思わせるエントリーシート(ES)の書き方」	学年等不問
	企業・公務員就職対策講座「あなたの強みは何ですか?ー自己分析と職業適性ー」	〃
	企業・公務員就職対策講座「あなたにあった企業を探そうー業界・職種・企業研究ー」	〃
	企業・公務員就職対策講座「公務員になろうー公務員試験攻略法ー」	〃
	企業・公務員就職対策講座「秋から始める就活本番スタートアップ」	学部2年生
	企業・公務員就職対策講座「元人事採用責任者が語る、面接突破に向けた実践的アドバイス」	学年等不問
	企業・公務員就職対策講座「秋から始めるエントリーシート対策」	〃
	企業・公務員就職対策講座「内定者報告会」	〃
	企業・公務員就職対策講座「SPI・適性検査・一般常識を本番形式で対策」	〃
企業・公務員面接対策講座	企業・公務員就職対策講座「アルバイト等のガクチカを例に学ぶ社会人基礎力」	学部1・2年生
	面接対策講座(企業・公務員編)「話し方・魅せ方が選考のカギ」	〃
(留学生対象)企業就職対策講座	面接対策講座(公務員編)「公務員面接を知る!」	〃
	(留学生対象)企業就職対策講座「日本の就活」	〃
公務員説明会等	(留学生対象)企業就職対策講座「面接対策」	〃
	国家公務員採用試験説明会	学年等不問
合同説明会等	東京都職員採用試験説明会	〃
	特別区職員採用試験説明会	〃
企業・公務員面接特別練習会	教育支援系お茶会	学年等不問
	企業・公務員 面接特別練習会(WEB面接) ※1回上限10名×1日3回×合計3日間	学年等不問
	企業・公務員 面接特別練習会(集団面接) ※1回上限4名×1日3回×合計3日間	〃
	企業・公務員 面接特別練習会(個別面接) ※1回上限4名×1日3回×合計4日間	〃

Ⅱ. 研 究 活 動

Ⅱ－(1) 文部科学省ミッション実現加速化経費

① ミッション実現戦略分

(令和7年度)

事業名	
①	新たな教師の学びの姿の実現に向けた研修開発
②	OECD日本共同研究プロジェクト
③	こどもの学び困難支援センター事業
④	XR・メタバースによる新たな教育・研修手法の開発
⑤	外国人児童生徒等に対する日本語指導の校種間接続のための調査研究
⑥	教員・教育支援人材育成リカレント事業

② 教育研究組織改革分

事業名
教育人材育成の先端的な研究開発・普及を先導する大学としての拠点機能整備
アート・アスレチックの特性を活用した教育パッケージ及びその実践のための教育者養成・研修の仕組みを開発・普及するための体制整備

Ⅱ－(2) 受託研究

(令和7年度)

区分	委託機関名	事業名	事業期間		
独立行政法人等	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	バイオ炭／微生物の親和性評価及び作物特性に応じた配合レシピ開発	R5.4.1	～	R8.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	大規模言語モデル上での学習者の思考過程シミュレーションによる教育変革基盤技術	R5.10.1	～	R9.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点に関する国立大学法人東京学芸大学による研究開発	R5.4.1	～	R9.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	子どもの繋がりのための教育プログラム	R7.10.1	～	R9.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	メタン排出削減型水管理システムによるメタン排出削減量の広域推定手法を開発する	R6.4.1	～	R9.3.31
	国立大学法人 北海道大学	日本・アジア太平洋地域の将来変化に関わる複合的な極端気象・気候現象の定量化と理解	R6.4.1	～	R8.3.31
	国立大学法人 京都大学	感染症対策に資する数理モデルの実装と臨床感染症学との協働	R5.4.1	～	R8.3.31
	独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター	ICTを活用した身体的・心理的・社会的(Bio-Psycho-social)なメンタルヘルス予防的支援「こころの学校健診」社会実装と非言語ツールによる心身健康評価の開発	R7.6.2	～	R8.3.31

Ⅱ－(3) 文部科学省等補助金事業

(令和7年度)

区分	事業名	事業期間
文部科学省	令和6年度国立大学法人情報機器整備費補助金(GIGAスクール構想の推進)	R7.1.21 ～ R8.3.31
	令和7事業年度授業料等減免費交付金	R7.4.1 ～ R8.3.31
	令和7年度高等学校等修学支援事業費補助金(高校生等臨時支援)	R7.9.17 ～ R8.3.31
広島県	令和7年度広島県カーボンリサイクル関連技術研究開発支援事業補助金	R7.4.1 ～ R8.3.31
山形県	令和7年度山形県教育旅行誘致促進助成金	R7.4.1 ～ R8.3.22
大熊町	令和7年度大熊町連携協定締結大学活動支援補助金	R7.11.26 ～ R8.3.31

①新規採択研究課題

(令和7年度)

	研究種目	研究課題名
総合教育科学系	基盤研究(C)	近代日本の師範教育制度改革と師範教育の実態—師範学校長会議の検討を中心に—
	基盤研究(C)	健康リスクに対する学校園での対応に関する国際比較研究
	基盤研究(C)	子どもの「動かせる」と「動き回る」に基づく自律集団的な保育環境の構築に関する研究
	基盤研究(C)	聴覚障害児の日本語理解に及ぼす視覚・聴覚情報認知の影響
	基盤研究(C)	知的障害者の実行機能の発達機序の解明
	基盤研究(C)	誤情報におけるナラティブ型情報提示の効果と認知プロセス
	若手研究	子どもと教師の修復的対話の実現を目指した教員研修プログラムとの開発と検証
	若手研究	特別支援学校女性教師のキャリア継続と子育ての両立過程の解明
人文社会科学系	基盤研究(C)	タイ北部、ミエンの歌謡における歌謡語彙と歌詞の言語人類学的研究
	若手研究	説話集生成と口承活動の関連研究
自然科学系	基盤研究(B)	物理教育におけるジェンダーギャップの定量化とその克服法の開発
	基盤研究(C)	古墳時代儀礼の総合的研究
	基盤研究(C)	大学入門物理受講生の物理概念獲得のための思考ツールとしての多重表現の研究
	基盤研究(C)	多元環の準傾変異理論の解明
	基盤研究(C)	曲面結び目とカンドルコサイクル不変量
	基盤研究(C)	放物型-放物型走化性方程式系における有限時間での特異性発現のメカニズムの解明
	基盤研究(C)	光励起状態と陽電子の相互作用に関する研究
芸術・スポーツ科学系	基盤研究(B)	日本における雅楽と琴楽の音楽学的・文献学的アプローチによる総合的研究
	基盤研究(C)	音名表記と音組織構造:中世・ルネサンスのギリシャ音名の位置づけと洋楽導入期の日本
	基盤研究(C)	戦後オーストリアにおける元ナチス党員のオリンピック出場に関する歴史的研究
	基盤研究(C)	体育科授業研究における教師エージェンシーの育成と実践的力量形成に関する研究
	基盤研究(C)	骨格筋由来細胞外小胞を用いて寝たきり0(ゼロ)社会を目指す
	若手研究	造形遊びの再配置化に向けたカリキュラム論的検討
教職大学院	基盤研究(B)	幼児の運動能力発達の時代推移と運動発達に関与する要因の運動創造性媒介モデルの検証
	基盤研究(C)	音楽演奏不安と社会的支援に関する日・米・欧の比較研究
	基盤研究(C)	ニュージーランドにおける自律的学校経営システム下での学校管理職の養成に関する研究
	基盤研究(C)	道徳教育における子どもが自己の生き方についての考えを深めるプロセスの解明
	基盤研究(C)	プログラム論理エラーの学習者自身による解決支援のためのLLMを用いた手がかり生成
	若手研究	探究的な学習のための生成AIの活用法とその指導法に関する研究
	研究活動スタート支援	道徳的現実と根差した道徳教育とは何でありうるか—一人々の社会的実践に注目して
機構・センター等	基盤研究(B)	多文化共修の学びをうながす学生サポーター育成プログラムの開発
	若手研究	学びの多様化学校における体育の特別的教育課程に関する研究
附属学校	奨励研究	「真実」「事実」の構築プロセスを批判的に検討するデジタル・シティズンシップ教育
	奨励研究	「ポピュラーな洋楽」に「空耳」でアプローチする英語の歌活動の開発
	奨励研究	中学校・高等学校数学科における拡張の考えに焦点を当てた平面図形教材の開発

本学で「交付決定通知」を受けた研究課題の他、令和7年度中の転入者を含む。転出者及び辞退者は含まない。

交付決定額は研究期間全体(複数年度)の額(直接経費のみ)。

学内異動により所属の変更があった者は、異動前の所属に記載している。

戦略的配置教員は機構・センター等に記載している。

「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

②採択件数

	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数
総合教育科学系	21	8	28	14	9	12	23	15	14	13	7	24
人文社会科学系	13	6	14	19	9	15	18	7	20	14	3	20
自然科学系	30	11	16	25	6	21	26	6	21	34	8	16
芸術・スポーツ科学系	6	1	8	7	3	8	8	3	7	13	6	10
教職大学院				8	1	12	12	3	10	18	6	7
機構・センター等	12	2	13	12	5	8	17	5	9	12	2	12
附属学校等	16	4		12	2		18	8		21	5	
計	98	32	79	97	35	76	122	47	81	125	37	89

新規採択件数は本学で「交付内定通知」を受けた分に限る(4月1日付の他大学等への転出者分を含み、4月1日付の転入者分は含まない)。

継続件数は転出者を除き、転入者を含む。

学内異動により所属の変更があった者は、異動前の所属に算入している。

戦略的配置教員は機構・センター等に算入している。

補助事業期間延長承認を受けた研究課題は含まない。

上記の件数に「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

Ⅱ－(5)産学連携研究

(令和7年度)

	題 目	契約相手方
共同研究	1 小学校における実証実験を通じた新聞作成システムの開発	東京ソフトウェア株式会社
	2 クラウド技術を活用した生徒一人一台PC環境における学習支援システムの研究	チエル株式会社
	3 総合的な学習の時間と特別活動における映像利用のアクティブラーニング共同研究	株式会社新宿スタジオ
	4 大学教育向け次世代eラーニングシステムの開発	日本データパシフィック株式会社
	5 新体力テスト集計システム「Alpha」の成果検証	PestalozziTechnology株式会社
	6 教育・学習クラウドを活用した、ラーニングアナリティクスのための学習記録・履歴データの蓄積のあり方および利活用の研究	Dynabook株式会社
	7 新問題解決学習を支援するVRコンテンツの開発	SOLIZE PARTNERS株式会社
	8 学校情報システムによる学校経営支援に関する研究	BIPROGY株式会社
	9 学校行事における効果測定	株式会社JTB
	10 旅行行事におけるeポートフォリオを用いた学習活動の共同研究	株式会社JTB
	11 STEAM教育における学習内容・目標マップと指導者の資質・能力マップの開発	アルー株式会社
	12 学びが交錯するラボに参加することによる人材育成のモデルの開発	アルー株式会社 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	13 拡張型学習と学生のキャリア形成	株式会社ノヴィータ 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	14 放課後活動における活動の質的向上に寄与するための教材開発	株式会社学研ホールディングス 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	15 公園がもつ教育的意義に関する調査研究	公益財団法人東京都公園協会 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	16 子どもの遊びと子育て支援に関する産学連携研究	株式会社おもちゃ王国
	17 最先端のSTEAM教育を取り入れた学校教育・地域教育・家庭教育支援方法の実践研究	株式会社ヴァイトハート 株式会社おもちゃ王国 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	18 算数・数学教育における自己向上機能を備えた授業研究推進者の育成プログラム開発研究	Lesson Study Alliance
	19 学校教員を主な対象とする外部と連携した業務活動支援に関する研究	ジブラルタ生命保険株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	20 保育園におけるSTEAM教育の実践的な研究	株式会社ニチイ学館 立正大学
	21 新しい学校外教育のモデル(環境、教育支援人材、学校教育と連動した学習カリキュラム)開発	株式会社パソナフオスター 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	22 教員志望の鍵盤初学者への演奏指導に関する研究	ヤマハ株式会社
	23 産学連携によるクリエイティブ教育のメソッド及び事業プログラムの研究・開発	丸善雄松堂株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	24 美術工芸の授業で使用する手道具に対する補助器具の共同開発	国立研究開発法人情報通信研究機構
	25 身近なアウトドア体験に対する学びの効果	カシオ計算機株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	26 専門学校におけるSTEAM教育の導入に関する実践的な研究	学校法人辻料理学館 辻調理師専門学校
	27 児童の音読音声の評価アプリケーションの開発と実証研究	Fairy Devices 株式会社
	28 継続的に運営可能な教育メディアの構築	株式会社FIREBUG
	29 探究学習に関する実践型研修と研修プログラムの開発	社会福祉法人にんじんの会
	30 子どもの学び困難支援におけるICT/AI技術の実証に関する研究	株式会社日立製作所
	31 大学施設内保育園における外部連携の手法や実践に関する実証研究	特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	32 図書館蔵書を対象とした背表紙画像データベースの構築と、図書検索システムへの活用	学校法人南山学園南山大学 京セラコミュニケーションシステム株式会社
	33 低GWP冷媒の不均化反応および不均化反応の抑制機構に関する研究	パナソニック株式会社 空質空調社
	34 アスリートのランニングフォームに関する研究	日本郵政株式会社
	35 粘土鉱物が持つナノ空間の利用および粘土の結晶構造が有する新規特性探索に関する研究	クニミネ工業株式会社
	36 東京湾における河川起源の堆積物供給の影響の空間変化の解明	国立大学法人東京海洋大学
	37 教育用3Dプリンタに特化した強度試験機の開発	国立研究開発法人情報通信研究機構
	38 児童生徒の知識の定着をサポートする記憶アプリの学校教育現場での活用方法の明確化	モノグサ株式会社
	39 教師とAIによるティームティーチングシステムの開発と検証	株式会社みんがく
	40 近世有田における「窯焼き」及び「赤絵屋」跡に見る肥前磁器の製作技術に関する研究	国立大学法人東京芸術大学 学校法人帝京大学 地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター

	題 目	契約相手方
	41 教育関係者の事業創造力向上プログラムの開発と実践	TORIX株式会社
	42 トンレサップ湖西部水田における広域的水田水管理システムの確立による温室効果ガス排出削減技術の開発と社会実装	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター
	43 発達障害児を対象とした特別水泳教育プログラムの実証研究	Swimmy株式会社
	44 有機フッ素化合物の高感度分析法に関する基礎検討	室町ケミカル株式会社
	45 学校現場におけるICT活用のためのデジタル教材に関する研究	チエル株式会社
	46 次世代校務DX支援システムの研究	スズキ教育ソフト株式会社
	47 情報活用能力を育成する教材に関する研究	広島県教科用図書販売株式会社
	48 個別最適な学びに役立つデジタル教材に関する研究	株式会社教育同人社
	49 子供用デジタルノートに関する研究	株式会社MetaMoJi
	50 GIGAスクール構想下での教育における新しいICT活用に関する研究	教育出版株式会社
	51 デジタル教科書・教材の企画・開発	株式会社三省堂
	52 1人1台端末を活用した児童生徒1人ひとりの学習状況やニーズに応じた教育の実現に関する研究	株式会社電算システム
	53 探求型学習/STEAM教育におけるファシリテーターの育成モデル開発	アルー株式会社 株式会社RePlayce G-FLAP株式会社 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	54 メタバースを活用した不登校児童生徒への支援に関する開発研究	国立大学法人東京科学大学
	55 探究学習のテーマの傾向分析と学校の外部連携に関する研究	株式会社CURIO SCHOOL
	56 二酸化炭素直接空気回収技術およびメタネーション技術の開発	タテホ化学工業株式会社
	57 教育用XRコンテンツの開発と検証	株式会社アルファコード
共同研究	58 ブロック教材を用いたSTEAM教育の手法や実践に関する実証研究	特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	59 三次元不均質粘弾性構造を考慮した地殻ダイナミクス研究	国立研究開発法人海洋研究開発機構
	60 個別最適な指導計画自動作成機能に関する研究	富士ソフト株式会社
	61 地域創生事業における関係者の学習効果とウェルビーイング向上に関する実践と研究	株式会社MISO SOUP
	62 コミュニティが生み出す学習効果とウェルビーイング向上に関する実践と研究	コミュニン株式会社
	63 「学習者用デジタル教科書・教材」の学習成果物と学習活動の関係性の検証	光村図書出版株式会社
	64 不登校支援におけるオンライン活用およびリアルとの接続の可能性に関する実践と検証	ワオフル株式会社
	65 水環境における環境遺伝子計測データの遺伝的多様性の調査、情報発信と環境教育への貢献	株式会社日立製作所
	66 ハートレートモニターの学校体育における活用に関する研究	ポラール・エレクトロ・ジャパン株式会社
	67 SHARPデバイス用のXRコンテンツの開発と検証	シャープ株式会社
	68 高校家庭科における住生活分野の教材開発とワークショップ実践に関する共同研究	株式会社CHINTAI
	69 AIおよびXR技術を活用した多文化協働型教育プログラムの開発と国際的検証	BEAK Education and Consulting LLC
	70 観察を通じた問題発見力を養うワークショップ・アプローチに関する実践と研究	三菱鉛筆株式会社 TORIX株式会社
	71 ICT機器を用いた遠隔スポーツ部活動の実証研究	近畿日本ツーリスト株式会社
	72 「音×レクリエーション」を活用した音楽活動の実践開発	鈴木楽器販売株式会社
	73 デジタル教科書の学習ログの解析に関する研究	東京書籍株式会社
	74 デジタルドリル・テストの学習履歴を元にした効果分析及び可視化手法の研究	株式会社ジャストシステム
	75 XRコンテンツの開発	株式会社meleap
	76 二酸化塩素ガスの定量発生装置と高感度センサーの開発に関する基礎検討	大幸薬品株式会社
	77 個別最適な学びを支援するためのAI技術の社会実装	株式会社カナメプロジェクト
	78 教育現場のためのゲームフルイノベーションProjectに関する実践と検証	株式会社セガエックスディー
	79 「メタバースとリアルキャンパスを融合したハイブリッド型教育環境における個別最適な探究学習の実証研究—子どもの独自性と専門性を育む新たな学びの場の構築に向けて—」	株式会社NIJIN NIJINアカデミー

寄附講義等	題 目	契約相手方
1	みずほフィナンシャルグループ寄附講義	株式会社みずほフィナンシャルグループ

①特別開発研究プロジェクト

	研究題目	期間
①	AIロボットがもたらす生徒の心身の安定に関する研究—新たなコミュニケーションの可能性に着目して—	7～8
②	「つながるチカラ」スクールサイネージプロジェクト	7
③	屋間の一等星の観察を可能にする観測システムの開発と教育実践	7～8
④	牽引走を用いた知的障がい児の走る能力を改善する体育授業の開発：インクルーシブ体育の実現を視野に入れて	7～8
⑤	課題解決学習となる家庭科授業の開発と実践	7～8
⑥	知的障害特別支援学校における理科教育の充実～授業開発および実態調査を中心に～	7
⑦	特別支援教育におけるICT活用の促進に関する研究—アクセシブルなインタラクティブ教材の活用を中心として—	7～8
⑧	小学校国語科学習指導の充実に資する教材開発	7～8
⑨	エコクリティシズムを活用した新たな国語教育実践モデル	7～8
⑩	教科の目的達成に資する学習者用デジタル教科書と生成AIを組み合わせた授業の開発	7～8
⑪	特別支援教育における探究的学びの体系化と教育カリキュラムへの展開	7
⑫	児童・生徒の数学観の変容を図る実践的研究	7～8
⑬	困難を抱えた子供たちのSOSに応える—不登校対策の新たな展望の試み—	6～7
⑭	高等学校国語科における探究的な学びの実現に向けた授業開発の研究	6
⑮	学校における一人ひとりの生き方が見える！—子供の「居たい・居られる場所」を意識した参加型授業開発—	6～7
⑯	知的障害特別支援学校における理科教育の充実—中学部と高等部における学びの連続性を踏まえた実践—	6
⑰	教育実習を通した学生の「教える経験」の構造変容と実習支援の方策についての研究	6
⑱	メタバースを活用した先端教育人材育成研修カリキュラムの開発	6～7
⑲	東京学芸大学及び附属学校の岩石鉱物標本・岩石園のデータベース化と教材セットの構築による実習プログラムの開発	6～7
⑳	地球市民育成を目指した初学者向けのVR外国語教育教材の開発と普及	6～7
㉑	ゲーミフィケーションを活用した小学校社会科における授業モデル及び教材開発	6

②学習指導要領、幼稚園教育要領及び教科書に関する研究プロジェクト

	研究題目	期間
①	国語科の主体的学びを支援する、教科書との往還的活用をデザインしたデジタル学習材の開発と検証	7
②	国語科書写から芸術科書道への円滑な接続を図る教育課程の研究プロジェクト	7
③	知的障害児用教科書のデジタル教材開発	7
④	小学校における学習指導要領と教科書の変遷をふまえたカリキュラム・オーバーロードの研究	7
⑤	高等学校の教科における探究的な学びに関する現職教育プログラム開発に関する研究	6
⑥	図画工作・美術科におけるデジタルデバイスを用いた新しい学びの検証～教科の特性をいかした幼小中高一貫カリキュラムの提案～	6～7

③大学院教育改善に関する研究プロジェクト

	研究題目	期間
①	国語科教員養成における文学研究の専門的知見に接続した指導法の構築	7～8
②	アートグラフィーに基づく美術制作と教育実践研究の統合による美術科教育研究の高度化	7～8
③	教職大学院におけるリーダーシップ教育の実践研究—教育委員会と連携した学校管理職ならびに指導主事養成—	7～8
④	教科教育・教科専門担当者の協働による家庭科SPカリキュラムの検討：現代的課題に対応した家庭科における教材・授業開発能力の育成を目指して	7～8
⑤	チーム・ティーチングを取り入れた「カリキュラムデザイン」の授業改善	7
⑥	教職大学院における実習科目を充実させるための学習動画コンテンツの開発	6～7
⑦	学校の自律化を推進する次世代管理職・ミドルリーダー養成プログラム開発	6～7
⑧	地質標本の展示・デジタルアーカイブ化の技術・技能取得プログラムの開発と実践	6～7
⑨	保健体育における「教科教育学」と「教科専門」を統合した大学院教育の在り方の検討—保健の授業づくりの焦点を当てて—	6～7

Ⅱ－(7) 機構・センターの研究活動

(令和7年度)

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
国際交流／留学生センター	研究プロジェクト	発話時における日本語テンスの「ル」形と「タ」形の使い分けに関する研究	対面開催
		AIを活用した日本語教育の方法と実践	リモート開催あり
		社会連携の体験活動の参加によるコミュニケーション力向上の研究(社会連携支援事業)	対面開催
ICT／情報基盤センター	研究プロジェクト	学生サポートDXプロジェクト(学生の教員養成に関するデータを蓄積・分析・可視化する「TGUポートフォリオ」の開発)	
		未来の学校DXプロジェクト(未来の学校みんなで創ろう。プロジェクトの推進)	
		プログラミング教育で育む資質能力の系統化とそれをもとにしたカリキュラムの開発	
		情報科と数学科の教科横断的な統計教育の開発と教員養成プログラムへの適用	
		教育・学習クラウドを活用した、ラーニングアナリティクスのための学習記録・履歴データの蓄積のあり方及び利活用の研究	
		デジタルドリル・テストの学習履歴を元にした効果分析及び可視化手法の研究	<データ駆動型教育・政策推進室>と連携して実施
		「学習者用デジタル教科書・教材」の学習成果物と学習活動の関係性の検証	<データ駆動型教育・政策推進室>と連携して実施
		生成AIを活用して自己調整しながら理解を深める個別最適な作問学習支援システムの開発	
		大学教育向け次世代eラーニングシステムの開発	
		小学校における実証実験を通じた新聞作成システムの開発	
		個別最適な学びと協働的な学びを充実させ成長を見える化する新時代AI学習評価システム	
		旅行行事におけるeポートフォリオを用いた学習活動の共同研究	
		最先端技術及び教育データ利活用に関する研究	<データ駆動型教育・政策推進室>と連携して実施
環境教育研究センター	研究プロジェクト	教材植物園の利活用実態調査	
		地域連携の環境教育実践に関する調査研究	
		理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プランの推進	
		環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(GLOBE)の推進	
		森林草原生態系の一体的保全に関する調査研究	
		「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	
		流域思考を促す教育ツールの開発と官学共創支援	
		水環境における環境遺伝子計測技術の確立	
		水循環に関するパネル・映像展示セット活用推進業務	
		日常生活から放出されるマイクロプラスチックについて	
	公開研究会等	2025年度「環境教育セミナー」『自然農法の取り組みから学ぶ地球で生きるための農』(2025年6月28日)	対面開催
		第17回小金井・国分寺・小平「環境教育実践フォーラム」『2025年度GLOBE観測講習会』(2025年8月18日)	対面開催
		理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン2025年度成果発表会(2026年1月12日)	対面開催
特別支援教育・教育臨床サポートセンター	研究プロジェクト	「特別支援教育に関わる教育者研修事業【講義型・ゼミ型研修】特別支援教育に関わる「newsな専門研修」「スキルup研修」	対面(1回)・リモート(10回)の開催
		境界知能の児童生徒のための学習と生活支援のためのマニュアルの開発	一部リモート
		特別支援教育に関する教育実習の調査研究(学芸大・千葉大・群馬大・宮城教育大・明治学院大・目白大・順天堂大・農工大の8大学共同研究)	一部リモート
		不登校と発達障害に関する実態把握と支援プログラムの開発	
		知的障害特別支援学校・学級における☆本や学習指導のためのデジタル教材の開発(東京教育委員会・国立特別支援教育総合研究所・附属特別支援学校との共同研究)	
		特別支援教育におけるICT活用の促進に関する研究—アクセシブルなインタラクティブ教材の活用を中心として—	一部リモート開催
		盲ろう児教育に関する情報の一元的な収集・整理	一部リモート開催
		『インクルーシブ保育・教育』の教師向け専門的マニュアルの開発(ミニハンドブックの刊行)	
		『特別支援教育』支援事業室の運営(アウトリーチ型スーパービジョン/アセスメント報告書の提供)	一部リモート
		『学校不適応に関する研究』支援事業室の運営(教師のためのメール相談/大学院生の派遣)	一部リモート
		言語・コミュニケーション機能(LCSA学齢版言語コミュニケーション発達尺度)と認知機能(鈴木ビネー知能検査)のアセスメント法に関する開発研究(出版社との共同研究)	
		両耳性聴覚処理の心理生理学的研究	
		附属学校における読み書き支援の実践研究	
		ICT活用事業室の運営(特別支援教育におけるICT活用のコンサルテーション/機器貸出、情報提供/機材・教材等の開発研究)	
	公開研究会等	公開講座「特別支援教育の知恵を深める」『学校心理臨床の知恵を深める』	対面開催(2回)
		特別支援教育・インクルーシブ教育専門講座『支援法・アセスメント・専門的支援技法』	リモート開催(8回)、対面開催(3回)
		現代的教育課題に関わる東京学芸大学教育講演会(全3回)	記録配信(1回)、対面開催(2回)
		防災学習事業(全13回)	
		特別支援教育におけるICT活用講座(3)	対面・リモートのハイブリッド開催(1回)

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
理科教員高度支援センター	研究プロジェクト	小学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	対面及びリモート開催
		中・高等学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	対面及びリモート開催
		研修参加者の傾向の分析	進行中
		小学校理科に関する教材開発	進行中
		中・高等学校理科に関する教材開発	進行中
		研修検索・登録のWeb化プロジェクト	進行中
	公開研究会等	現職教員研修(学校教員に対する理科研修)	対面及びリモート開催
	第17回 理科教育シンポジウム(シンポジウム型教員研修)「実験・観察を中心とした授業づくり～うまくいかないとき、どうする?～」	対面開催	
先端教育人材育成推進機構	研究プロジェクト	<機構全体> 人口減社会における学校システム創成プロジェクト	
		<教職専門性基準開発ユニット> Society5.0を想定した教職専門性基準開発(教員育成指標への提案) 教育実習を効果的に進めるための教員の資質能力基準の開発	
		<教育・学習デザイン開発ユニット> 学習者(子供)中心の対話型授業研究法の開発 学習者(子供)中心の個別最適な学びと協働的な学びの融合カリキュラム開発	
		<外国人児童生徒教育推進ユニット> ミッション実現戦略経費「外国人児童生徒等に対する日本語指導の校種間接続のための調査研究」事業 外国人児童生徒等の「心と身体の健康支援」に関するアンケート調査の実施と分析 研究発表「文化的言語的マイノリティの子どもの心身の健康に関する関係者の認識～質問紙調査の結果から～」(異文化間教育学会 6/22) 特別支援教育における外国人児童生徒等教育に関するヒアリング調査の実施と分析 高等学校における「特別的教育課程」による日本語指導の実施状況に関する調査・事例収集(研修会にて紹介) 子どものことはの教育に関する研修の内容・構成に関する調査(本ユニットにおける研修のアンケートをもとに) 研究発表「外国人児童生徒等の日本語指導に関するオンライン研修—資質・能力の「豆の木モデル」にもとづく研修デザインの提案—」(子ども日本語教育研究会 2/28) 高等学校における日本語指導の先進事例の収集と日本語学習活動・ユニットプランの開発、Webサイトでの公開 小中学校における日本語指導の実践事例の収集、日本語プログラム「トピック型、技能・タスク型」の開発、日本語学習活動・ユニットプランの作成、Webサイトでの公開 外国人児童生徒等のための日本語指導に関する研修プログラムの開発 「手引き」「ガイドライン」、動画コンテンツの研修会向けの活用方法の検討	浜松市養護教諭研修会参加、浜松市立浜北北部中学校視察
		<高校教育開発推進ユニット> 高等学校の教科における探究的な学びに関する現職教育プログラム開発に関する研究(機構紀要第77集投稿) 湘南白百合学園中・高等学校において、教科の授業研究会の実施(数学:6/18, 11/20,2/9 地歴:11/11) 北海道教育委員会との連携における授業研究の実施(国語、歴史×生物、地理×物理、数学、化学、外国語) 大分県教育委員会との連携における授業研究の実施(国語、数学、生物、歴史、外国語)	対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催
		広島県教育センター、青森県総合学校教育センター、鳥取県教育センター、大分県教育委員会、沖縄県立総合教育センターの協働・共創型研修 の実施(6/20, 8/26, 10/23, 1/29, 検討会18回)	オンライン開催
		地域を超えた指導主事による「協働・共創コミュニティ」の創出・成長モデルの開発 「これからの授業研究を共に拓く」オンライン授業検討会の実施(2/10, 申込者244名) 公募によって編成した数学科授業づくりチームの授業研究の実施(10チーム, 検討会85回, 研究授業23回) 公募によって編成した地歴科授業づくりチームの授業研究の実施(検討会7回, 研究授業3回) 公募によって編成した国語科授業づくりチームの授業研究の実施(検討会11回, 研究授業2回)	オンライン開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催
		静岡県家庭科教育研究会との共催における授業研究の実施(検討会3回, 研究授業3回) 公民科チームメンバーによる授業研究会・ツールの開発(検討会4回, 研究授業1回) 近畿日本ツーリストとの連携における学校支援コーディネーター(初級・上級)養成研修プログラムの開発および研修会の実施(初級:7/7～10, 1/26, 上級:7/28～31,1/28) 各教科及び「総合的な探究の時間」、データサイエンスにおける研修教材(ツールキット)を開発し、高校探究プロジェクトWebページにて公開 活動内容等を紹介するニュースレター(45～56号)を発行し、配信するとともに、高校探究プロジェクトWebページにて公開	検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催 検討会:オンライン開催 研究授業:対面開催
		<教師教育高度化ユニット> 新しい実習科目「自己創造のための教育体験活動」の運営 教職大学院を活用した教師教育の高度化のためのプログラム開発普及 次世代学校リーダー養成コース及び教員養成高度化大学間連携コースのプログラムの拡充整備	
		<教育者研修プラットフォーム開発ユニット> 「IDigEdu～教育者の主体的な学びのためのプラットフォーム～」の運用及び広報活動	
		<次世代組織マネジメント研究開発ユニット> 映像教材「チーム学校と多職種協働」の改訂版制作(編集・完成) 研究図書「『学校』～多様性をいかした包摂性」刊行(学文社)	
		<データ駆動型教育・政策推進室> 初等・中等教育におけるAI・先端技術を活用した学習支援/学習評価方法の開発 マルチモダリティAIを活用した学びと人をつなぐデジタルサイネージ活用モデルの開発 学生本位の学びの振り返りのためのAIを活用した学びの振り返り支援モデルの開発 学びの振り返りの記述を起点とするAIを活用した教育の質保証支援モデルの開発 デジタルドリル・テストの学習履歴を元にした効果分析及び可視化手法の研究	ICT／情報基盤センターと連携して実施

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
先端教育人材育成推進機構	研究プロジェクト	「学習者用デジタル教科書・教材」の学習成果物と学習活動の関係性の検証	ICT／情報基盤センターと連携して実施
		生成AIを活用した幼児の行動記録から資質・能力を可視化する手法の研究	
		生成AIを活用した小学校算数立体図形の学習支援ツールの研究	
		生成AIを活用した漢字学習支援ツールの研究	
		地域連携ICT活用研究会	教育インキュベーションセンター、ICT／情報基盤センターと連携して実施
		令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)」において、教員の授業振り返り支援システム、探究的な学びの伴走振り返り支援システムの実証実験を実施。プロダクト化を準備開始。動画教材「入門 統計的推定の考え方を身につける」の開発・公開	
		生成AIを活用した授業フィードバックシステムの開発・運用研究	
		さいたま市スマートスクールプロジェクトへの参画・指導助言	
		統計・エキスパート人材育成コンソーシアム 大学教員研修への参画	
		統計・データサイエンス科目のカリキュラム開発、授業運営、ならびに改善	
		国立大学法人岩手大学・岩手県教育委員会との3者による連携協定締結、岩手県におけるデータやAIの活用による教育政策・教育実践高度化の支援・研究	
		葉山町教育委員会におけるデータやAIの活用による不登校施策高度化の支援・研究	
		＜上廣道徳・倫理教育研究開発推進室＞	
		先進的、次世代型道徳教育、倫理教育についての学問的背景を生かした理論研究	
		道徳教育を展開する学校や教員の教育課程における課題意識の変化等の傾向分析	
		効果的な実践事例の収集・検討と次世代型道徳教育への改善・充実方策の研究開発	
		＜教育実習グループ＞	
		教育実習の質の向上を図るための指導の工夫	
		教育実習を効果的に進めるための教員の資質・能力基準の開発	
		教育実習サポートノートの作成	
		＜次世代教育研究グループ＞	
		企業等の無償教材における情報のバイアスに関する研究	
		教員養成大学・学部における大学教授職の在り方と組織開発	
		在外教育施設における教育実習プログラムの開発	
		「大学における教員養成」のカリキュラムの社会学	
		＜国際教育グループ＞	
		異文化理解を促す「対話型」交流実践の理論的・実践的統合	
		多様化する社会におけるシティズンシップ教育の比較研究	
		在外教育施設における教育の新展開に関する研究	
		教育への異文化間アプローチの可能性の研究	
	公開研究会等	＜外国人児童生徒教育推進ユニット＞	
		「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」研修会(第1回)(6/8)	オンライン開催
		「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」研修会(第2回)(7/6)	オンライン開催
		「多様な言語的文化的背景をもつ高校生のための学習環境づくり」研修会(第3回)(8/3)	オンライン開催
		「幼少中高の学びの連続性を保障することばの教育」研修会(第1回)(6/8)	オンライン開催
		「幼少中高の学びの連続性を保障することばの教育」研修会(第2回)(7/6)	オンライン開催
		「幼少中高の学びの連続性を保障することばの教育」研修会(第3回)(8/3)	オンライン開催
		「多様性が活かすことばの教育実践2025」私の実践を語り・子どもの姿に学ぶ実践交流会(第1回)(10/4)	対面開催 東京
		「多様性が活かすことばの教育実践2025」私の実践を語り・子どもの姿に学ぶ実践交流会(第2回)(10/19)	対面開催 名古屋
		「多様性が活かすことばの教育実践2025」私の実践を語り・子どもの姿に学ぶ実践交流会(第3回)(11/1)	対面開催 神戸
		2025年度 シンポジウム 外国人児童生徒等教育を担う教育者・支援者の育成—『多様性の包摂』の実現に向けて—(1/31)	オンライン開催
		2025年度日本語プログラム開発事業報告会(3/21)	オンライン開催
		越谷市教育委員会との共催研修(7/22、10/10)	対面開催
		富山県総合教育センターとの共催研修(7/25、9/26)	対面開催
		小金井国際支援協会・府中JSL協会との共催研修(8/24、8/31)	対面開催(8/24)、オンライン開催(8/31)
		新潟県教育庁との共催研修(8/5、10/6、12/26)	対面開催(8/5)、オンライン開催(10/6、12/26)
		上越市教育委員会との共催研修(9/3、10/10)	対面開催
		愛知県岩倉市立南部中学校との共催研修(2/6)	対面開催
		＜高校教育開発推進ユニット＞	
		「総合的な探究の時間」に関わる「ミニ探究」デザインワークショップ実施(5/24・68名、9/15・39名、1/30・55名)	オンライン開催
		「教科の視点で社会課題にアプローチ」オンラインセミナー(6/20、参加申込者:92名)	オンライン開催
		「教科の視点で社会課題にアプローチ」第2弾」オンラインセミナー(1/23、参加申込者:69名)	オンライン開催
		「『探究的な問い』に基づく単元デザイン」オンラインセミナー(5/11、参加申込者:153名)	オンライン開催
		授業研究の改善&ツールキット活用のためのオンラインセミナー(6/21、参加申込者:76名)	オンライン開催
		「概念理解を軸とした探究的な授業」オンラインセミナー(10/25、参加申込者:207名)	オンライン開催
		研修プログラム開発ワークショップの開催(6/22、8/31、2/28、参加申込者38名)	オンライン開催
		「探究共創イベント in Summer～バーチャルポスターセッション」開催(7/21、発表者61名、参加者80名)	オンライン開催
		「探究の共創 in Winter～ポスターセッション＆ワークショップ～」(12/21、発表者134名、参加者109名)	対面開催
		探究的な学びの実践コミュニティ拡大支援プログラム「探究のアップデート『探究2.0』を共創しよう」オンラインイベント(3/7、参加申込者307名)	オンライン開催
		東海大学菅生高等学校中等部校内研修(ビジョン共有)(4/18)	対面開催
		滋賀県立東大津高等学校 DXハイスクール事業「総合的な探究の時間」ワークショップ(4/21、4/22)	対面開催
		山梨県立甲府南高等学校校内研修(教科横断の学び)(5/21)	対面開催
		カンオとのオンラインセミナー開催(主催:未来の先生フォーラム)「探究や探究的な学びの実装化～高校探究プロジェクトに見る実践的アプローチ～」(5/31、参加申込者:300名)	オンライン開催
		大分県教育センター学校ミドルリーダー研修「ファンリテーションスキルの理論と実践」(6/24)	対面開催
		福井県教育委員会 授業改善推進のための研修会「教科における探究的な学びと教科横断・文理融合の学び」(7/2)	対面開催

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
先端教育人材 育成推進機構	公開研究会等	三菱みらい育成財団アニュアルレポート2025座談会「探究学習の現在地と未来へのアプローチを語る」(7/13)	対面開催
		明法中学・高等学校校内研修(ビジョン共有)(7/24)	対面開催
		北海道教育委員会教科横断の授業実践に向けた勉強会(7/30)	オンライン開催
		大阪府貝塚市教育センター、各教科における「探究的な学び」「教科横断的な学び」の実現(8/5)	対面開催
		愛知県立旭野高等学校校内研修(教科横断)(8/19)	対面開催
		明法中学・高等学校高校生対象講座「探究的な学びとは」(9/6)	対面開催
		青森県学校総合教育センター総合的な探究の時間研修講座(9/17)	対面開催
		滋賀県教育委員会第2回 学びの最適化・高度化推進セミナー「授業文化のアップデート」(9/24)	オンライン開催
		北海道教育委員会BRIDGE構築事業「教科等横断」推進プロジェクトに係る伴走支援充実事業オンライン講習「ファシリテーションとリフレクション」(9/26、参加申込者:290名)	オンライン開催
		「第12回科学技術教育フォーラム」日本品質管理学会TQE特別委員会と共催(10/5、参加申込者:170名)	ハイブリッド開催
		沖縄エンカレッジ事業・高校2年生対象にワークショップ実施(10/15)	オンライン開催
		鳥取県立倉吉西高等学校校内研修(10/22)	対面開催
		さんすう数学あそび座 Autumn 2025 共催(11/1、参加申込者:110名)	対面開催
		OECDティーチング・コンパス日本語訳完成記念ローンチ第2部パネルディスカッション(11/3)	オンライン開催
		静岡県立浜名高等学校校内研修(教科のビジョン共有)(11/11)	対面開催
		沖縄エンカレッジ事業・高校1年生対象にワークショップ実施(11/12)	対面開催
		北海道札幌西高等学校「探究リーダー養成研修」高校1・2生16名対象にワークショップを実施(11/13)	対面開催
		山形県教育委員会「探究型学習推進事業」探究型学習推進研究会(12/10)	対面開催
		大分県教育委員会「地域における個別最適な学び推進事業に係る教科探究プログラム」高校生向け講演(12/20)	オンライン開催
		山梨県総合教育センター「探究文化を芽吹かせる学校づくり—これからの『探究』を考える—」(2/19)	オンライン開催
		東京都立武蔵野北高等学校高校2年生「探究発表大会」(3/11)	対面開催
		「あそび・まなびフェスタ」共催(3/14、参加申込者:100名)	対面開催
		ドキュメンタリー映画「Counted Out」上映会後援(3/22、参加申込者:150名)	ハイブリッド開催
		<教育者研修プラットフォーム開発ユニット>	
		IDigEdu1周年記念セミナー第1弾「教室」と「校内居場所」—多様な学びを考える(9/12)	オンライン開催・オンデマンド配信
		IDigEdu1周年記念セミナー第2弾民間人材の教育参画による探究的な学びの深化(10/21)	オンライン開催・オンデマンド配信
		IDigEdu1周年記念セミナー第1弾「中核的な概念」と「教育課程の弾力化」～次期学習指導要領に向けて議論されていること(11/26)	オンライン開催・オンデマンド配信
		<次世代組織マネジメント研究開発ユニット>	
		第25回 保健室登校・不登校の子どもの心身の健康(20250425)	
		第26回 不登校支援におけるコミュニケーションツールとしてのゲーム(20250516)	
		第27回 すべてのこどもがつながる「多様な学び」のこれから(20250613)	
		第28回 「学びの多様化学校」開校から1年が経過して～不登校を経験した生徒にとことん寄り添いながら～(20250714)	
		第29回 こどもの自立・こどものウェルビーイング(20250919)	
		第30回 もくせい教室における大学生のボランティア活動の広がりと今後の展望(20251007)	
		第31回 学生と地域が共創する『居場所』の可能性-東京学芸大学と名護市さくら教室の協働実践から見える学び(20251110)	
		第32回 学びの多様化学校におけるKFS(20251219)	
		第33回 「子どもの自立」と「大人の関わり」(20260119)	
		令和7年度シンポジウム「学ぶ」の多様性について考える(20260301)	
		<データ駆動型教育・政策推進室>	
		東京学芸大学・3市連携ITコンソーシアム「教育フォーラム2025」(2月)	対面開催
		教員研修「学校教育・現場における生成系AIの活用講座(ベーシック)」の実施(8月)	オンライン開催
		教員研修「学校教育・現場における生成系AIの活用講座(アドバンス)」の実施(12月)	オンライン開催
		第16回横幹連合コンファレンス 発表(12月)	
		日本学校教育学会第39回研究大会 研究発表(7月)	
		<上廣道徳・倫理教育研究開発推進室>	
		シンポジウム「世界の教育はどこへ向かうか」(7月)	
		シンポジウム「言語を持つ心を明らかに」(9月)	
		シンポジウム「人はどうやって生きていくべきか」(11月)	
		<次世代教育研究グループ>	
		公開セミナー「諸外国における児童生徒のデジタル環境とその規制」(12月)	オンライン開催
		<教育実習グループ>	
		日本教育大学協会 全国教育実習研究部門第39回 研究協議会(9月)	オンライン開催
		第44回東京学芸大学教育実習研究シンポジウム(12月)	オンライン開催
		<次世代教育研究グループ>	
		公開セミナー「諸外国における児童生徒のデジタル環境とその規制」(12月)	オンライン開催
		<国際教育グループ>	
		オセアニア教育学会第29回大会(12月)	対面開催
		第46回海外子女教育セミナー(2月)	オンライン開催
		第2回 在外教育施設教員オンライン交流会(8月)	
		第3回 在外教育施設教員オンライン交流会(2月)	

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
教育インキュベーションセンター	研究プロジェクト	Explayground事業の推進／HIVE事業 ○HIVE関連イベント「験祭」の開催(北海道教育大学との共催で開催)(2025年12月) ○修士課程「教育支援協働学概論」の一環として「ラボフェス」の開催。(2025年7月) ○中学生・高校生・大学生・大学教職員・現職教員・企業人・市民で構成される65のラボが活動。・放課後の子ども達の活動をラボ化していくラボ「BeHappyDoHappyラボ」等11ラボが活動開始。 ○一般社団法人人間人材教育参画推進機構を設立し、「探究創造コーチ」認定制度をスタート。 ○北海道教育大学で17のラボが活動。岡山大学 大学院教育学研究科との連携協定締結に向けての協議開始。(2026年4月締結予定) ○神奈川県葉山町、東京都渋谷区等の探究的な学び／総合的な学習の時間支援 ○茨城県銚田第一中学校のGSNP(学校の先生になろうプロジェクト)支援 ○延岡市STEAMラボ支援 ○東京都小金井市本町小学校チャレンジ部支援	
		Explayground事業の推進／未来の学校みんなで創ろう。PROJECT ○これまでに45の法人が研究に参画し、設備や人材等のリソースを提供、今年度も5つの法人が新規に参画し、研究成果のプロダクト化を検討。2025年度現在、公開研究会において7つの研究発表と23の授業実践と協議会を実施する等、30を超える多様なプロジェクトを推進。教室DX「SUGOI部屋」、生成AIによる授業評価・コーチング評価のシステムのプロダクト化、多方向からの授業記録の配信「授業図書館」、民間人材の教育参画を促す為の「探究創造コーチ認定制度」等、多数の研究成果の社会実装を開始。 ○令和7年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)「児童・生徒の記述に対する教員の総合的な評価を、生成系AI技術を活用した分析・数値化によって支援するシステムの構築と検証」を実施。	
		未来の学校みんなで創ろう。PROJECT輪読会 4本の動画公開／1377回再生	
		未来の学校みんなで創ろう。Ongoingカンファレンス／7月と3月の2回実施／200名参加	
		基盤的設備等整備分予算 ○附属特別支援学校／SUGOI部屋の設置	
		XR/メタバースを活用した新たな教育・研修手法の開発 ○受託事業 ・文部科学省:令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業) ・スポーツ庁:令和7年度令和の日本型学校体育構築支援事業(共に学ぶ体育授業の指導方法の改善充実)	
		○論文 ・「生成AIを活用した小学校外国語VR教材開発のための基礎調査ー地球市民性の育成を目指してー」日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要, 第44号pp.161-176.(査読有), 阿部始子・福島崇・名瀬浩司他, 2025年11月 ・「メタバースと生成AIを統合した道德学習環境の試作と実践分析ー友人関係場面を題材としたアバター対話のログ分析を通して」情報教育(日本情報教育学会)6巻2号, pp23-28.(査読有), 岩井祐一, 福島崇, 荻上健太郎, 金子嘉宏, 2026年2月 ○口頭発表 ・地球市民育成のためのVR・生成AI外国語教材の開発 (中間報告), 第25回小学校英語教育学会(JES)東北・秋田大会, 2025年7月 ・その他(国内発表10回、国際発表15回) ○書籍・雑誌掲載:3件	
		共同研究／新しい学校外教育のモデル(環境、教育支援人材、学校教育と連動した学習カリキュラム)開発(学童保育音実践研究)／株式会社パソナフォスター	
		共同研究／STEAM教育における学習内容・目標マップと指導者の資質・能力マップの開発／アルー株式会社	
		共同研究／学びが交錯するラボに参加することによる人材育成のモデルの開発／アルー株式会社、一般社団法人Explayground推進機構	
		共同研究／拡張型学習と学生のキャリア形成／株式会社ノヴィータ、一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構	
		共同研究／保育園におけるSTEAM教育の実践的な研究／株式会社ニチイ学館、立正大学	
		共同研究／小学校低学年期の放課後における探究型学習、STEAM教育の導入の実践研究／ヒューマンスターチャイルド株式会社	
		共同研究／探究学習/STEAM教育におけるファシリテーターの育成モデル開発／アルー株式会社、株式会社RePlayce、G-FLAP株式会社、一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構	
		共同研究／個別最適な指導計画自動作成機能に関する研究／富士ソフト株式会社	
		共同研究／「メタバースとリアルキャンパスを融合したハイブリッド型教育環境における個別最適な探究学習の実証研究」株式会社NIJIN NIJINアカデミー	
		共同研究／専門学校におけるSTEAM教育の導入に関する実践的な研究／学校法人辻料理学館 辻調理師専門学校	
		共同研究／個別最適な学びを支援するためのAI技術の社会実装／株式会社カナメプロジェクト	
		共同研究／探究学習に関する実践型研修と研修プログラムの開発／社会福祉法人にんじんの会	
		共同研究／継続的に運営可能な教育メディアの構築／株式会社FIREBUG	

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
教育インキュベーションセンター	研究プロジェクト	共同研究／教育関係者の事業創造力向上プログラムの開発と実践／TORiX株式会社	
		共同研究／教育用XRコンテンツの開発と検証／株式会社アルファコード	
		共同研究／新問題解決学習を支援するVRコンテンツの開発／SOLIZE株式会社	
		共同研究／教師とAIによるティームティーチングシステムの開発と検証／株式会社みんがく	
		共同研究／観察を通じた問題発見力を養うワークショップ・アプローチに関する実践と研究／三菱鉛筆株式会社とTORiX株式会社	
		共同研究／不登校支援におけるオンライン活用およびリアルとの接続の可能性に関する実践と検証／ワオフル株式会社	
		共同研究／地域創生事業における関係者の学習効果とウェルビーイング向上に関する実践と研究／株式会社MISO SOUP	
		共同研究／コミュニケーション株式会社／地域創生事業における関係者の学習効果とウェルビーイング向上に関する実践と研究	
	公開研究会等	公式Webマガジンedumotto 学生組織の人数:28名 【年度末までの見込み数】 年間のPV数:87000 年間記事数:29本(学生チーム記事数:25本)	
		Explayground事業の推進／HIVE験祭 1回／大学の新しい公開講座Explayhub(この指とまれ型公開講座) 2回／Explayground説明会 9回／Explayground Bar 1回等を実施、のべ約200名が参加	
		未来の学校みんなで創ろう。PROJECT輪読会 4本の動画公開／1377回再生	
		未来の学校みんなで創ろう。Ongoingカンファレンス／7月と3月の2回実施／200名参加	
		XR/メタバースを活用した新たな教育・研修手法の開発 ○シンポジウム・ワークショップ等 ・GIGAフェスティバル2025、愛媛県四国中央市立江小学校(8月30日) ・教育イノベーションフォーラム「最先端技術を活用した新たな教育手法の提案」、東京学芸大学(1月31日) ・次世代体育授業・教育実践発表会「未来の体育を考えるシンポジウム」、大阪教育大学(3月22日) ・第1回グローバル・メタバース・ラボラトリーシンポジウム、オンライン(3月22日) ○研修 ・生成AI・VRを活用した体育教員研修、東京都市大学(7月26日) ・生成AI・VRを活用した小学校外国語授業の研修、新潟県糸魚川市立糸魚川中学校(7月31日) ・生成AI・VRを活用した小学校外国語授業の研修、埼玉県戸田市立笹目東小学校教員(8月21日) ・生成AI・VRを活用した小学校外国語授業の研修、愛媛県四国中央市立川之江小学校教員(8月29日) ○実践 ・メタバースダンス実践を静岡西高校で実施(6月27日) ・英語VR実践を附属小金井小学校で実施(7月3日) ・スポーツ庁・文科省受託研究アプリ実践を静岡西高校で実施(9月26日) ・初夏フェスワークショップを羽田イノベーションシティで実施(5月24日) ・University of Santo Tomasにてパネル登壇・ワークショップを実施(5月14日～16日) ・GIGASCHOOLフェスに出展(四国中央市立川之江小学校、8月30日) ・GIGAフェスティバル2025にて実践・展示を実施(四国中央市立川之江小学校、8月30日) ・高校地学の授業にてVRを活用した授業を実施(松山女子高等学校、2026年1月15・16日) ・メタバースを活用したSTEAMの教育プログラムを実施(文化学園杉並中学・高等学校、2026年3月26・27日) 公式WEBマガジンedumotto 27名の学生記者によるマガジン配信サイトの運営(発信記事数26本)／オープンキャンパスでの高校生向けワークショップを開催	
こどもの学び困難支援センター	研究プロジェクト	①養成・研修に係る取組 (1)教育・研修用映像教材を活用した研修等の実施 ・映像教材シリーズ「チーム学校と多職種協働」「こどもの学び困難と教育支援」「学校教育と地域連携」を活用して、教育委員会等が主催する研修会・講座を実施。 ・研修受講者からのフィードバックを活用して教材をアップデート (2)映像教材・サブテキストを活用した大学・大学院授業の実施 ・映像教材を活用して学部授業「チーム学校と多職種協働」「こどもの学び困難と教育支援」「学校教育と地域連携」を実施 ・映像教材とサブテキスト「あなたならどうする?～こどもの学び困難支援実践事例集」を活用して大学院授業「チーム学校と多職種協働」を実施	
		②各研究課題における実践研究の推進	
		(1)学びの創造実践開発研究 ・遠隔コミュニケーションシステム「窓」やメタバース技術を活用した沖縄県名護市子ども食堂利用児童、現地ボランティアとセンタースタッフ、本学学生による遠隔学習支援の実施と手法開発 ・地域企業・団体等と連携したプロジェクトベース型の学習支援の実施と手法(ビールの麦芽粕をアップサイクルした食品開発プロジェクトや、沖縄県伝統木造船「サバニ」づくり)の開発 ・これらを通じた子どもの支援情報の集約・蓄積と活用のあり方を検討し、後述する支援ツール・アーカイブの実用化に向けた取り組みに反映 (2)学びのための自立チェックリスト開発研究 ・複数の支援専門機関や第三の居場所でフィールドトライアルを経て、「子どもの自立に向けたチェックリスト」の支援者版・子ども版を作成 ・また、③の支援ツールにチェックリスト機能を組み込むとともに、AIによる自動フィードバック機能の開発に取り組んでいる (3)学びの支援者養成実証研究 ・小金井市教育支援センター(適応指導教室)「むくせい教室」の学内設置や沖縄県名護市子ども食堂と協働した「フィールド研究」「自己創造のための教育体験活動」の提供、学生のサービスマーケティングの実施 ・名護市子ども食堂・民間企業(ホテル)と連携したインターンシッププログラムの実施と参加者の学習効果の検証 ・インターンシッププログラムの他大学への横展開(学芸大モデルを踏襲して他大学でもインターンシッププログラムを実施)	

		事業等名称(活動内容等)	リモート開催等の状況
こどもの学び困難 支援センター	研究プロジェクト	(4)学びのコーディネート研究 以下の研究を取りまとめた著作「多様な「学ぶ」が生まれる「学校」～こども一人ひとりがいきる 包摂のかたち」(加瀬進監修、入江優子・箱山智美・田島大樹編、学文社)を2026年3月に刊 行。 ・名古屋市「学びのコンパス」「自由進度学習」や岩手県山田町「やまだの学び」に関する観 察・インタビュー調査を通じた「ゴール提示型」の学びのコーディネート機能に関する研究を実施 ・沖縄県浦添市、名古屋市の校内居場所の組織構造・連携協働の事例検討を通じた「校内居 場所媒介型」の学びのコーディネート機能に関する調査研究を実施 ・八王子市立高尾山学園(学びの多様化学校)・市適応指導教室、大阪市立心成中学校にお ける参与観察・インタビューを通じた学びの場の移行支援のあり方に関する調査研究を実施	
		第25回 保健室登校・不登校の子どもの心身の健康(20250425)	
	公開研究会等	第26回 不登校支援におけるコミュニケーションツールとしてのゲーム(20250516)	
		第27回 すべてのこどもがつながる「多様な学び」のこれから(20250613)	
		第28回 「学びの多様化学校」開校から1年が経過して～不登校を経験した生徒にとことん寄 り添いながら～(20250714)	
		第29回 こどもの自立・こどものウェルビーイング(20250919)	
		第30回 もくせい教室における大学生のボランティア活動の広がりと今後の展望(20251007)	
		第31回 学生と地域が共創する『居場所』の可能性-東京学芸大学と名古屋市さくら教室の協働 実践から見える学び(20251110)	
		第32回 学びの多様化学校におけるKFS(20251219)	
		第33回 「子どもの自立」と「大人の関わり」(20260119)	
		令和7年度シンポジウム「学ぶ」の多様性について考える(20260301)	
		ホームページの逐次更新及びSNSによる情報発信(Band、Instagram、facebook、メルマガ surefriends)	
アート・アスレチック 教育センター	研究プロジェクト	ICTを活用した文字文化に関わる教育パッケージ(拡大提示教材及びその活用方法)の開発	領域横断
		「ことば」と「音楽」の関連に基づいた教科横断型教育パッケージの開発	領域横断・産学連携
		「音の出る仕組み」に着目したSTEAM教育コンテンツの開発	領域横断・産学連携
		動作分析アプリを用いた技の理解及び運動感覚認識に関する研究	領域横断・産学連携
		MetaFusion: 仮想空間で実現する教科横断型共創学習	領域横断・産学連携
		月経時の体育・スポーツ活動との関わり方を児童生徒が自ら意思決定することを促す指導方 法の開発	領域横断・産学連携
		「ことばあそびうた」による音楽科と国語科の教科横断的アプローチの研究	領域横断
		児童の学びを連携してサポートする図画工作科の在り方研究	領域横断
		野外環境をフィールドとした「総合知」育成のための教科横断型教育パッケージの開発	領域横断
		美術と音楽の芸術的往還を通じたコミュニケーション能力育成のための教科横断型教育パッ ッケージの開発	領域横断・産学連携
		技術科・理科・社会科を横断した木材利用に関するSTEAM教育パッケージの開発	領域横断
		過疎地の中学生・高校生・特別支援学校生に対する、ICT機器を活用した遠隔部活指導の 実証研究	地域連携・産学連携
		ICT機器を活用した都市部の遠隔部活指導の実証研究(教員養成大学と中学校との連携 事例)	地域連携・産学連携
		絵本の読み聞かせコンサート	地域連携・産学連携
		「地域の子ども・学生・演奏家の連携によるオペラ上演プロジェクト	地域連携・領域横断
		ベトナム×バスケットボールプロジェクト	国際連携・産学連携
	公開研究会等	HIVE棟コンサート 6月14日 於:本学HIVE棟	国際連携・対面開催
		ザルツブルク・モーツァルテウム大学 Barbara Dobretsberger博士 音楽分析特別セミナー 5月21・22日 於:芸術館ホール	国際連携・領域横断・対面開催
		ふれあいコンサート 7月20日 於:芸術館ホール	地域連携・領域横断・対面開催
		音楽教材研究ゼミ 中学校訪問演奏 7月10日 於:小金井市立第一中学校	地域連携・対面開催
		公開講座「第4回 歌曲コンサートの今 イタリア・ドイツ歌曲コンサート ～歌物語の世界へ ようこそ～」 8月2日 於:芸術館ホール	領域横断・対面開催
		「モダニズムでつながる」特別本棚の設置 8月25日-9月25日 於:附属図書館1Fロビー	地域連携・対面開催
		Cinema Cafeteria Project 10月29日、11月26日、12月24日、2月4日 於:note café	地域連携・対面開催
		ふれあう世界、こえる未来:特別支援教育とバラスポーツが出会うとき 11月5日 於:芸術館 ホール	領域横断・地域連携・産学連携・ 対面開催
		東京学芸大学 合唱特別講座 講師:田中達也先生 12月2日 於:芸術館ホール	地域連携・産学連携・対面開催
		ふれるもつかんじる展～絵本のなかのふしぎなせかい～ 12月4日-7日 於:アート・ギャラ リー	地域連携・対面開催
		ヘンリック・ヴィーゼ氏(バイエルン交響楽団首席)による公開講座 12月5日 於:芸術館ホール	国際連携・対面開催
		ジャム!! コンサート&音楽ワークショップ 12月7日 於:芸術館ホール	地域連携・産学連携・対面開催
		オペラ「ヘンゼルとグレーテル」～演出家によるプレトーク付き～ 12月20日 於:芸術館ホール	地域連携・産学連携・対面開催
		合唱・オーケストラ合同演奏会 2月17日 於:芸術館ホール	地域横断・対面開催
		おもって つたえて モンスター! ～みんながちがう みんなのせかい～ 2月19日～24日 於:小金井 宮地楽器ホール	地域連携・産学連携・対面開催
		ファミリーコンサート 音楽教材研究ゼミ 3月1日 於:芸術館ホール	地域連携・対面開催
		国際書教育フォーラム「東アジアにおける書の教員養成学 東アジアにおける文字文化の 教育」 3月28日 於:芸術館ホール	国際連携・ハイブリッド開催

		事業等名称（活動内容等）	リモート開催等の状況
OECD 日本共同研究 プロジェクト	研究プロジェクト	＜日本OECD共同研究＞ 能登半島地震で被災した県立輪島高校と国内外の学校の共創による教育復興プロジェクト 「日本OECD共同研究 OECD能登スクールプロジェクト」を継続実施。日本OECD共同研究の下、連携校である石川県立輪島高校とポルトガルのMoimenta da Beira校の交流プログラム（OECD本部訪問、Moimenta da Beira校訪問）を実施（2025年5月）	
		日本OECD共同研究の下、国内の学校を中心に、国外の学校との交流も含めた未来の教育の実装を目指す実践プロジェクトを推進。ポルトガルのMoimenta da Beira校から高校生2名の日本企業インターンシップ受け入れ支援を実施（2025年5～6月）	
		2か所の教育委員会（群馬県教育委員会、石川県教育委員会）と、研究委員会および連携プロジェクトを継続	
		特定プロジェクト基金（株式会社内田洋行、デロイトトーマツコンサルティング合同会社）による、実践プロジェクトの支援を実施	
		2025年5月に公表された「OECD ティーチング・コンパス」への日本からの貢献と、日本国内への周知（日本語への翻訳やワークショップ開催など）を実施	
		2023～2024年に実施された「OECD Education2030 プロジェクト∞無限大」を通じて構築した国内外のネットワークを活用し、2025年からスタートした「OECD Education2040 プロジェクト∞無限大」における国内基盤への支援を行った。	
		＜教育ウェルビーイング研究開発プロジェクト＞	
		教育効果指標開発について、「教育ウェルビーイング研究開発プロジェクト」として、教育委員会との連携協定の締結など、推進基盤の強化を実施	
		教育効果指標開発について、教育委員会との連携のもと、地域ごとの開発を行う方式で進めており、葉山町と泉大津市では、学校評価を活用した指標を開発	
		連携先教育委員会である山梨市（岐阜県）と延岡市（宮崎県）と協力し、公立小中学校の教員を対象としたインタビューを実施し、教育効果指標の開発に向けた分析を実施	
		教育委員会との連携を確かなものとするため、連携する3自治体（中頓別町（北海道）、大熊町（福島県）、山梨市（岐阜県））との連携協定を締結	
		教育委員会との連携：①実施段階：6箇所（中頓別町（北海道）、大熊町（福島県）、葉山町（神奈川県）、山梨市（岐阜県）、延岡市（宮崎県）、泉大津市（大阪府））、②調整段階：3箇所（山形県、滑川市（富山県）、長崎県）	
	公開研究会等	＜日本OECD共同研究＞	
		「OECD Education2040 プロジェクト∞無限大」に基づく「Teaching Compass in Action OECD ティーチング・コンパスの実践と理解へ -日本とルーマニアの学校の学び合い」ワークショップを開催（2025年7月）	リモート開催
		OECDティーチングコンパス日本語訳完成ローンチンポジウムの開催（2025年11月）	リモート開催
		過去を超え、常識を超え、国境を超え2040年の日本をデザインするシンポジウム ー今を生きる私たちのミッションーの開催（2025年12月）	対面及びリモート開催
		能登スクールinバリオおよびキックオフ特別セッションの開催（2026年1月）	対面開催及びリモート開催
		プロジェクト無限大2.0 能登Emergency Relief Clubの開催（2026年3月）	対面及びリモート開催
		日本OECD共同研究月間の開催（2026年1月～3月）（上記能登スクールとプロジェクト無限大2.0以外に10回開催予定）	リモート及び対面開催
		＜教育ウェルビーイング研究開発プロジェクト＞	
		プロジェクトキックオフミーティングを開催（2025年7月）	リモート開催
		教育ウェルビーイング学生トークセッションを開催（2025年8月）	リモート開催
		滑川市教育委員会主催による研修会を開催（2025年11月）	対面開催
		中頓別町教育ウェルビーイングワークショップを開催（2025年11月）	対面開催
		山梨市教育委員会主催によるワークショップでの発表を実施（2026年2月）	対面開催
		山形県教育委員会主催による研修にて講演を実施（2026年3月）	対面及びリモート開催

Ⅱ－(8) 附属学校の研究活動

(令和7年度)

	公開研究会	受託事業・産学連携事業 等
幼稚園 (小金井園舎)	「環境を通した保育を見直す～共に場をつくる・楽しむ～」学年別保育検討会 ① 令和7年5月29日(木) (対面実施 参加者 約30名) 令和7年6月 2日(月) (対面実施 参加者 約30名) 令和7年6月12日(木) (対面実施 参加者 約30名) ② 研究協議会 令和8年1月29日(木) (対面実施 参加者 約100名)	なし
幼稚園 (竹早園舎)	東京学芸大学竹早地区附属学校園 2025年度 公開研究会「未来の学校みんなで創ろう。PROJECT 2025」 令和7年11月15日(土) (対面形式で実施 参加者561名) ① 拡大活動研 子どもの材へのこだわりを生み出す自己実現活動の創造～材が「我事」から「我ら事」へと変容する教師の関わりとは～ ② 令和8年1月30日(金) (対面形式で実施 参加者80名)	① 産官学連携「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」～未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び～
世田谷小学校	「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程の創造～Laboratory, Home, Classにおける学習環境デザイン～ ① 令和8年2月7日(土) (対面形式で実施 参加者345名)	教育課程特例校(文部科学省の指定) ① 「学びを自分でデザインする子ども」を育む教育課程の創造～Laboratory, Home, Classにおける学習環境デザイン～
小金井小学校	研究発表会「学びを創る」～一人一人が本質を味わう授業づくり～ ① 令和8年1月31日(土) 参加者1179名(対面829名、オンライン350名)	① 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業) ② 特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業
大泉小学校	研究発表会 「来る世界の中で問題を前に立ち尽くし、そこから一歩を踏み出す子どもの育成～概念的理解を生み出すPYPの教育課程～」 ① 令和8年1月24日(土) (対面形式で実施 参加者370名)	① IBワールドスクールPYP認定校 ② 教育課程特例校(文部科学省 指定) ③ ユネスコスクール加盟校
竹早小学校	東京学芸大学竹早地区附属学校園 2025年度 公開研究会「未来の学校みんなで創ろう。PROJECT 2025」 令和7年11月15日(土) (対面形式で実施 参加者561名) ① 拡大活動研 子どもの材へのこだわりを生み出す自己実現活動の創造～材が「我事」から「我ら事」へと変容する教師の関わりとは～ ② 令和8年1月30日(金) (対面形式で実施 参加者80名)	① 教育課程特例校(文部科学省の指定) ② 産官学連携「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」～未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び～
世田谷中学校	公開授業研究会 ① 令和7年6月14日(土) (対面形式で実施 参加者360名)	① 令和7年度教育課程実践検証協力校(教科等名:数学・理科)
小金井中学校	公開授業研究会 研究主題 「学び問い続ける」生徒の育成 ① ー世界に私として存在するためにー 令和7年11月21日(金) (対面形式で実施 参加者160名)	① 東京学芸大学・Explayground・教育インキュベーションセンターとの連携 ② 東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト
竹早中学校	竹早地区幼小中連携公開研究会 「未来の学校 みんなで創ろう。PROJECT 2025」 ① 令和7年11月15日(土) (対面形式で実施 申込者数561名)	① 「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」日本初の産官学連携の学校システム改革チーム ② 令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)
高等学校	令和7年度スーパー・サイエンス・ハイスクール事業報告会 令和7年11月29日(土) (対面形式で実施 参加者105名) ① 第24回公開教育研究大会「生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント③～生徒エージェンシーをどう育て、どう評価するか～」 ② 令和7年11月29日(土) (対面形式で実施 参加者356名) 第12回授業実践研究会『生成AI・教育工学』生成AIが変える教育の可能性～東京学芸大学附属 ③ 高等学校での試み～ 令和8年1月21日(水) (オンライン形式で実施 参加者64名)	① 令和6年度指定スーパー・サイエンス・ハイスクール研究開発(Ⅲ期目2年次)「生徒エージェンシーを育む次世代理数カリキュラムの開発と普及」 ② 令和7年度教育課程実践検証協力校(教科等名:工芸) ③ 令和7年度教育課程実践検証協力校(教科等名:物理)
国際中等教育学校	令和7年度 授業研究会 ① 令和8年1月21日(水) (対面形式で実施 参加者199名)	① 教育課程特例校(文部科学省の指定) ② 《国際バカロレア機構》MYP/DP(デュアルランゲージDP)認定校 ③ 国際連合教育学文化基金・ユネスコスクール加盟「持続可能発展教育(ESD)」実践及び研究 ④ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校 ⑤ WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム被提供校 ⑥ 令和7年度教育課程実践検証協力校(教科等名:数学、理科) ⑦ 現職教員研修推進機構IBプロジェクト
特別支援学校	研究協議会 知的障害教育における探究的な学びの創造 ① <1年次> 令和8年1月23日(金) (対面形式で実施 参加者200名)	なし

Ⅱ－(9)附属学校研究会

＜令和7年度 附属学校研究会全体会＞ オンラインでの発表

令和6年度 附属学校研究会プロジェクト研究成果発表会

- ① 不登校傾向早期発見と予防的介入 ―ICTを使用した健康観察との紐づけの試み―
- ② 国際バカロレアの学校図書館から検討する附属学校図書館の課題と可能性―学習支援とデジタル化のあり方
- ③ 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の各教科学習等の横断的な学習の調査と子どもの学び ～部署及び学部間連携を中心とした取り組みⅡ～
- ④ 学びを社会へとつなげる探究的な理科学習の ―高等学校における化学と生物、総合的探究の時間の融合を視野に入れて―
- ⑤ 算数・数学科における同一題材を用いた小中高の数学的活動の接続(2年次)―接続を意図した授業の成果・課題の整理―
- ⑥ 宇宙教育を軸としたPBL型探究プログラムの開発
- ⑦ 小中外国語教育における自律的な学習態度の育成への挑戦的実践研究(2年次) ―持続可能な多読学習の導入―
- ⑧ 『中学校学習指導要領解説(平成29年告示)外国語編』と『中等教育プログラム(MYP)「言語の習得」指導の手引き』の比較分析

	全体・地区別	研究テーマ等
国 語	全 体	国語科の新しい授業作りの視点 ～縦と横の連携を意識して～
	世田谷地区	文学教材の可能性～ 語り手概念に対する調査と理論に基づいた分析
	小金井地区	言葉で豊かに学ぶ授業 学びの過程に着目して(2年次)
	大泉地区	国語科の学習における探究的な学び
	竹早地区	未来を切り拓く子どもの主体性が活きる国語科の授業
社 会	世田谷地区	「社会科としての学び意義」を意識した授業実践～小中高の接続～
	小金井地区	“問い”をつくる社会科授業の実践 ～社会的な見方・考え方を養い、主体的に追究できる生徒の育成を目指して～
	大泉地区	IBのPYP(初等教育プログラム)からMYP(中等教育プログラム)DP(高等教育プログラム)を含めた12年間のIB教育への連続性に着目した社会科(Ⅳ)
	竹早地区	未来の学校における社会科教育で目指す子どもの主体性
算数・数学	世田谷地区	算数・数学科における同一題材を用いた小中高の数学的活動の接続 ―教員研修や教員養成への貢献に焦点を当てて―
	小金井地区	学校数学における式の理解に関する研究 小学校の式の理解に焦点を当てた調査問題の検討
	大泉地区	国際バカロレアの理念に基づいた算数・数学のあり方
	竹早地区	数学的な見方・考え方を発揮させるための手立て ～事象を統計的に考察する場面を通して～
理 科	世田谷地区	小学校・中学校・高等学校の学校種を見通した理科授業における探究的な学習の理論構築
	小金井地区	附属小中連携による粒子領域の概念形成(3年次)
	大泉地区	IB(国際バカロレア)のグローバルな文脈に基づく理科授業の接続
	竹早地区	「未来の主体性」を育む理科学習のアプローチ
音 楽	全 体	大学と連携した教育実習のあり方(継続)
図画工作・美術	全 体	図画工作・美術科におけるデジタルデバイスを用いた新しい学びの検証 ～教科の特性をいかした幼小中高一貫カリキュラムの提案～
保健体育	世田谷地区	附属学校における教育実習の在り方についての検討(2)
	小金井地区	より良い授業を求めて～「授業の振り返り」に着目して(2年次)～
	大泉地区	概念的理解を促す保健体育科授業実践
	竹早地区	9年間を見通した、ボール運動の面白さに迫るカリキュラムの構想
技 術	全 体	「次期学習指導要領における教育課程検討会から探る今後の技術科教育の実践の在り方について」 「大学と附属学校の連携によるより良い教員養成の在り方について」
家 庭	全 体	①課題解決学習となる家庭科授業の開発と実践の研究 ②教育実習における附属と大学の連携について ③特別開発プロジェクトの参加
外国語・国際理解教育	全 体	小学校英語科の教科化を受けた小・中・高の連携と研究体制の確立
道 徳	全 体	自己の生き方を切り拓く道徳教育の創造～子どもの探求心を揺さぶる教師の手立て～
学校保健	全 体	「不登校傾向早期発見と予防的介入 ～ICTを使用した健康観察との紐付けの試み～」 「養護実習の学びを探究する ～デジタルポスター形式での発信～」
幼児教育	全 体	附属幼稚園と学生をつなぐプログラムの再構築
書写・書道	全 体	共同実践研究におけるより高度な実習内容の実現を見据えた、教職専門実習の在り方・形態に関する研究
教育と福祉	全 体	特別支援学校における学校司書との連携
学習評価	全 体	東京学芸大学附属特別支援学校における個別教育計画の運用に関する教員アンケート
生活・総合	全 体	思いや願いをもち、仲間との関わりを通して、豊かなくらしをつくる子
情報教育	全 体	GIGAスクール構想とデジタル学習基盤
食 育	全 体	教育実習における給食指導に関する考察

Ⅱ－(10)研究活動受賞者

(令和7年度)

所属	受賞者	賞の名称	授与機関	受賞年月
総合教育科学系	平田 正吾	第60回研究大会優秀発表賞	日本発達障害学会	2025年11月
総合教育科学系	萬羽 郁子	研究奨励賞 (30周年記念柳澤幸雄賞)	室内環境学会	2025年12月
自然科学系	山元 孝佳	Top Viewed Article: Ndst1, a heparan sulfate modification enzyme, regulates neuroectodermal patterning by enhancing Wnt signaling in Xenopus	Development, Growth & Differentiation	2025年4月
自然科学系	佐藤 公法	Best Poster Award	The 20th International Conference on Positron Annihilation (ICPA-20)	2025年6月
自然科学系	狩野 賢司	Journal of Etology Editor's Choice 2025	日本動物行動学会	2025年11月
芸術・スポーツ科学系	鈴木 直樹	Peace and Sport Awards 2025	World Society for Peace (South Korea)	2025年10月
芸術・スポーツ科学系	森山 進一郎	2025年度年次大会 最優秀論文発表賞	日本水泳・水中運動学会	2025年10月
芸術・スポーツ科学系	鈴木 直樹	2025 International Eminence Awards	International Association of Physical Education and Sports	2025年11月
芸術・スポーツ科学系	横田 浩子	第71回陶彫展 大田原市芸術文化研究所賞	日本陶彫会	2026年2月
教職大学院	大谷 忠	木材利用システム研究会賞	木材利用システム研究会	2025年9月
教職大学院	宮寺 庸造	Best Paper Award	IEEE International Conference on Computing	2025年10月
保健管理センター	大森 美湖	優秀発表賞	日本精神神経学会	2025年6月
ICT／情報基盤センター	森本 康彦	学会誌編集貢献賞	教育システム情報学会	2025年8月
ICT／情報基盤センター	森本 康彦	全国大会奨励賞	教育システム情報学会	2025年9月
特別支援教育・教育臨床サポートセンター	橋本 創一	第11回優秀論文賞	日本発達障害学会	2025年11月
先端教育人材育成推進機構	山下 雅代	第48回年会発表賞	日本科学教育学会	2025年9月
附属高等学校	栗山 絵理	教育普及賞	日本地図学会	2025年6月
附属国際中等教育学校	鮫島 朋美	2025年度日本国際バカロレア教育学会論文賞	日本国際バカロレア教育学会	2025年9月
附属国際中等教育学校	野島 淳司	優秀賞(2025年度統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰)	統計情報研究開発センター	2026年3月

Ⅲ. 社会貢献活動

Ⅲ－(1)地域連携事業

(令和7年度)

事業名称		連携先機関等
① 東京都教育職員免許法認定講習（小学校・中学校・養護教諭部門）（R7.8.7～8.29）		東京都教育委員会
② 東京都教育職員免許法認定講習（特別支援学校教諭部門）（R7.8.7～8.29）		東京都教育委員会
③ 東京都教職員研修センターと国立大学法人東京学芸大学との連携による講座 ①(R7.7.14) ②(R7.7.28) ③(R7.7.30) ④(R7.8.27) ⑤(R7.9.29)		東京都教職員研修センター
④ 第17回小金井・国分寺・小平環境教育実践フォーラム『2025年度GLOBE観測講習会』 (R7.8.18)		小金井市教育委員会 小平市教育委員会 国分寺市教育委員会
⑤ 2025年度環境教育セミナー（R7.6.28）		じねん道斎藤ファミリー農園
⑥ 教材植物園をフィールドとした食農教育		辻調理師専門学校
⑦ 人権講座「子どもたちの声を聴く」		国分寺市光公民館
⑧ 2025「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井（R7.9.21）		小金井市 小金井市教育委員会 国際ソロプチミスト 東京ー小金井
⑨ サマースタディ・復興教育プログラム		二戸市教育委員会
⑩ 教育フォーラム2025（R8.2.15）		小金井市教育委員会 国分寺市教育委員会 小平市教育委員会
⑪ 令和7年度東京学芸大学主催3市交流サッカーフェスティバル（R7.11.16）		小金井市サッカー協会 国分寺市サッカー協会 小平市サッカー協会 FC東京 こども未来研究所
学芸大クラブ	⑫ 前期サッカー教室（R7.4.17～6.26）	小金井市教育委員会 FC東京
	⑬ 後期サッカー教室（R7.9.25～12.4）	小金井市教育委員会 FC東京
	⑭ ジュニア陸上教室（R8.2.28～3.7）	小金井市教育委員会

Ⅲ－(2)教育者研修(教育者研修推進本部 実施)

【集合研修】

(令和7年度)

プロジェクト名等	タイトル
推進本部実施	特別支援学級（情緒固定）研修会
推進本部実施	学校マネジメント向上研修Ⅱ
推進本部実施	小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級研修会
推進本部実施	道徳教育推進委員会
推進本部実施	葛飾教師塾
推進本部実施	主幹教諭任用時研修
推進本部実施	日本語学級担当指導教員研修
推進本部実施	小学校英語Ⅰ（演習型）
推進本部実施	道徳教育推進委員会
推進本部実施	生活指導主任研修
推進本部実施	3年次研修
推進本部実施	豊島区マネジメント講座
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業2
推進本部実施	3年次教員研修
推進本部実施	特別活動研修
推進本部実施	初任者研修
推進本部実施	3年次研修
推進本部実施	日本学級担当教員研修会
推進本部実施	道徳教育推進委員会
推進本部実施	キャリア教育担当者連絡協議会
推進本部実施	学校図書館担当教諭研修
推進本部実施	道徳教育推進委員会
推進本部実施	人権教育推進委員会
推進本部実施	体育健康教育連絡協議会
推進本部実施	校長研修
推進本部実施	初任者研修
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修
推進本部実施	不登校対応に関する研修
推進本部実施	副校長研修
推進本部実施	主幹教諭研修会
推進本部実施	巡回指導教員研修会
推進本部実施	初任者研修
推進本部実施	若手教員育成研修（1年次）
推進本部実施	「人権に関する研修」
推進本部実施	特別支援教育委研修
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修Ⅰ
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修
推進本部実施	研究主任会
推進本部実施	「服務事故防止についての研修」
推進本部実施	特別支援教育研修③
推進本部実施	みんなで学ぼう！学校司書講座2025「生成AIと著作権」

プロジェクト名等	タイトル
推進本部実施	教育課題研修（体力向上）
推進本部実施	特別支援教育研修会②
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修
推進本部実施	キャリア教育担当者研修会
推進本部実施	学校マネジメント講座
推進本部実施	通級による指導専門性向上研修
推進本部実施	特別支援教育におけるＩＣＴ活用講座（３）
推進本部実施	世田谷中学校・現職研修セミナー 美術と著作権 ～「教科」と「コンテンツ」をどうつなげるか～
推進本部実施	理科実技研修
推進本部実施	理科実技研修
推進本部実施	特別支援学級研修会
推進本部実施	特別支援教室研修会
推進本部実施	学校教育・現場における生成系AIの活用講座（ベーシック）
推進本部実施	小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級研修会
推進本部実施	２年次研修
推進本部実施	特別支援学級（情緒固定）研修会
推進本部実施	みんなで学ぼう！学校司書講座2025 「これからの学校図書館」
推進本部実施	特別支援教育研修（中級）１
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業7
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業8
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業9
推進本部実施	小学校の読書教育の現状と課題
推進本部実施	生活指導主任研修
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業10
推進本部実施	教務主任会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業11
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業12
推進本部実施	通常学級における児童・生徒の支援
推進本部実施	☆I Dig Edu1周年記念セミナー☆「教室」と「校内居場所」－多様な学びを考える
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業13
推進本部実施	副校長研修会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業14
推進本部実施	日本学級担当教員研修会
推進本部実施	生活指導主任会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業3
推進本部実施	インクルーシブ教育推進
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業15
推進本部実施	道徳教育推進委員会
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修
推進本部実施	特別支援教育研修（中級）２
推進本部実施	副校長スキルアップ研修会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業（追加）
推進本部実施	２年次研修

プロジェクト名等	タイトル
推進本部実施	情報教育担当者連絡会
推進本部実施	☆I Dig Edu1周年記念セミナー☆民間人材の教育参画による探究的な学びの深化
推進本部実施	日本語指導推進委員会
推進本部実施	日本語学級担当指導教員研修
推進本部実施	学力向上推進委員会
推進本部実施	副校長研修会
推進本部実施	☆I Dig Edu1周年記念セミナー☆「中核的な概念」と「教育課程の弾力化」 ～次期学習指導要領に向けて議論されていること
推進本部実施	日本語適応指導に係る研修
推進本部実施	学校教育・現場における生成系AIの活用講座（アドバンス）
推進本部実施	情報教育主任研修
推進本部実施	豊島区マネジメント講座
推進本部実施	中堅教諭等資質向上研修Ⅰ
道徳	＜上廣道徳教育アカデミー＞令和の道徳教育、道徳科授業の可能性をひらく
道徳	＜上廣道徳教育アカデミー＞心理学の知見を生かした道徳教育
道徳	＜上廣道徳教育アカデミー＞授業実践とリフレクションで探る、新しい道徳科授業
道徳	上廣道徳教育アカデミー 第15回 道徳授業パワーアップセミナー
道徳	《上廣道徳教育アカデミー》「令和の道徳科授業の充実方策と新たな工夫」
道徳	＜上廣道徳教育アカデミー＞次世代の道徳授業の構想 ～日本思想史の知見から思考力を鍛える授業の展開～
道徳	上廣道徳教育アカデミー 「道徳教育の未来」セミナー（第4回）
教育課程・授業改善	特別支援学級における「探究的な学び」の授業づくり
教育課程・授業改善	教育委員会における教育委員の役割と責務
教育課程・授業改善	指導主事の職務と役割について考える ～他の自治体の若手指導主事とのディスカッションを通して～
小学校英語	担任が進める外国語活動・外国語の授業（オンライン）
小学校英語	新潟県糸魚川市：小学校・中学校の外国語の授業で地球市民を育てる～人とつながるための外国語教育を～
小学校英語	担任が進める外国語活動・外国語の授業（対面）
小学校英語	小・中学校で地球市民を育てる新しい異文化体験型教材の体験会～VR×生成AIを使って～
小学校英語	第7回 小学校英語プロジェクト主催 小学校英語研修
小学校英語	第8回 小学校英語プロジェクト主催 小学校英語研修
小学校英語	外国語活動・外国語 授業改善セミナー
小学校英語	小・中学校の外国語授業で地球市民を育てるための授業研究会：授業をデザインする→深める→実践する→発信する
推進本部実施	生活指導主任研修
推進本部実施	小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級研修会
推進本部実施	副校長研修会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業（追加）
推進本部実施	東京学芸大学附属小金井小学校 令和7年度研究発表会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業4
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業（追加）
推進本部実施	2 年次研修
推進本部実施	算数・理科デジタル教科書まるわかり！セミナー ～基本操作から応用実践例まで～
推進本部実施	地図帳で発見！紙×デジタル＝”ワクワクする学び”デジタル教科書・教材の体験

プロジェクト名等	タイトル
推進本部実施	音楽科デジタル教科書・デジタルコンテンツの紹介と音楽づくりの教材体験
推進本部実施	デジタル教科書の研修を企画しよう～研修パッケージの活用（外国語編）～
推進本部実施	令和7年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進：東京学芸大学（附属学校課） 成果報告会
推進本部実施	特別支援学級（情緒固定）研修会
推進本部実施	授業力向上アドバイザー事業1
専門職養成	漢文教育において読解力を育てるとはということか
専門職養成	博物館・美術館と学校との連携ー学芸員からの提案
特別支援教育・インクルーシブ教育	【ゼミ型】特別支援教育の支援スキルup研修2025
特別支援教育・インクルーシブ教育	特別支援教育newsな専門研修2025
IB	新人教職員対象IB研修会
IB	外部教育関係者対象IB研修会
IB	附属国際中等教育学校授業研究会
理科	小学校理科（物理分野）のポイント ～「ふりこ」と「ものの重さ」を中心に～
理科	次の日子ども達に話したくなる大地のおはなし -地表の物質の循環-（オンライン：Zoom使用）
理科	Pythonによる数値シミュレーション入門ー放物運動を予測しようー
理科	次の日子ども達に話したくなる大地のおはなし -簡単なものでできる実験編-
理科	情報通信技術（ICT）研究の実際と理科教育への応用 ー情報通信研究機構バーチャル技術展示等見学と意見交換ー（オンライン：Zoom使用）
理科	次の日子ども達に話したくなる大地のおはなし ー身近に見られる地層から柱状図を作成するー ＊現地集合、現地解散（雨天中止）
理科	電池の化学ーボルタ電池とダニエル電池の理論と実験ー
理科	栄養生殖を学ぶための実験教材と教育実践
理科	明日から使える教材作りと授業のヒント ～人の体のつくりと運動～
理科	初任者研修会：理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法
理科	子どもには内緒。実験して手回し発電の秘密をさぐる
理科	太陽・月・星の動き
理科	魅力的な導入部を作るために（基礎編） ～物理における貫く視点～（オンライン：Zoom使用）
理科	魅力的な導入部を作るために（発展編） ～物理と学際的視点～（オンライン：Zoom使用）
理科	顕微鏡のメンテナンスとスマホ顕微鏡アダプターの作成
理科	生態系のしくみの考察
理科	植物野外観察会・木本編ー標本をつくって植物をたくさん覚えようー
理科	環境変化を理解する指導の工夫 ーICTを使った河川環境づくりー
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法①ー物質の管理法と実験操作ー
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法②ー薬品の管理法と実験操作ー
理科	フラーレン C 60の化学反応と分離精製
理科	物の溶け方
理科	セミナー① 身近な植物の親しみ方ー植物観察のポイントー
理科	セミナー② 物理分野に強くなる
理科	セミナー③ 太陽・月・星の動き
理科	セミナー④ 地震についての基礎知識

プロジェクト名等	タイトル
理科	Pythonによる数値シミュレーション入門－気候区分を調べよう－
理科	Pythonによる数値シミュレーション入門－放物運動を予測しよう－
理科	セミナー⑤ 電気回路を考える
理科	セミナー⑥ 理科室の管理と安全な実験方法
理科	Pythonによるデータ解析入門－振り子の運動を予測しよう－
理科	天気図で学ぶ天気予報と気象学（台風編）（オンライン：Zoom使用）
理科	ICTと宇宙～どう使おう？～
理科	宇宙・航空を学校教育に活用するために～宇宙が子どもの心に火をつける～
理科	風とゴムの力を考える～弱いゴムでの実践～
理科	水溶液の性質
理科	ものの燃え方
理科	「物と重さ」と「温度と体積」
理科	ものの溶け方
理科	教師と子どもの評価活動
理科	実験の安全と化学教育の最前線with アルケミストの会
理科	物理分野に強くなる
理科	振り子の運動
理科	SonyのMESHでIoTプログラミングして遊ぶ
理科	これではっちり地球の学習
理科	放射線の基礎と霧箱
理科	光の進み方
理科	生物観察のICT利用
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法（小学校）
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法（中学校）
理科	わかる・できるを引き出す 物理分野の授業づくり
理科	生物と環境－微小藻類「ケイソウ」を題材として
理科	生徒の相互作用を重視した物理授業の展開
理科	「てこのはたらき」をいろいろ試す
理科	地震についての基礎知識（オンライン：Zoom使用）
理科	接触グロー放電による前生物学的なアミノ酸の合成
理科	野外における動植物の観察～視点を変えて
理科	感染症の基礎
理科	天気図で学ぶ天気予報と気象学（低気圧編）（オンライン：Zoom使用）
理科	天体望遠鏡実習
理科	放射線の基礎と霧箱（オンライン：Zoom使用）
理科	第17回 理科教育シンポジウム 「実験・観察を中心とした授業づくり～うまくいかないとき、どうする？～」
理科	ウィンタースポーツのための天気図入門講座（オンライン：Zoom使用）
理科	先生のためのScratch入門講座－プログラミング教育の必修化を受けて－
理科	国立研究開発法人情報通信研究機構見学
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法①－物質の管理法と実験操作－
理科	理科室の安全な管理の仕方と安全な実験方法②－薬品の管理法と実験操作－
理科	電気回路を考える

【eラーニング】

(令和7年度)

プロジェクト名等	コース名
推進本部	STEAMファシリテーター研修（必修）STEAMとは
推進本部	STEAMファシリテーター研修（必修）学校教育について
推進本部	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について
推進本部	指導と評価の一体化について
推進本部	いじめ問題への対応について
推進本部	外国語活動授業風景（小学校4年生）
推進本部	令和3年度東京学芸大学附属学校 初任者研修テキスト
推進本部	中学校家庭科 保育学習 ふれあい体験編
推進本部	国際的な環境観測プログラム：グローブティーチャーへの挑戦（気圏編）
推進本部	国際的な環境観測プログラム：グローブティーチャーへの挑戦（水圏編）
推進本部	国際的な環境観測プログラム：グローブティーチャーへの挑戦（生物圏編）
推進本部	国際的な環境観測プログラム：グローブティーチャーへの挑戦（土壌圏編）
推進本部	外国人児童生徒等の日本語指導
推進本部	子ども家庭福祉の基礎～子ども家庭福祉とはなにか～
推進本部	データサイエンス（統計）第1回
推進本部	データサイエンス（統計）第2回
推進本部	データサイエンス（統計）第3回
推進本部	データサイエンス（統計）第4回
推進本部	データサイエンス（統計）第5回
推進本部	データサイエンス（統計）第6回
推進本部	データサイエンス（統計）第7回
推進本部	特別支援教育の現在
推進本部	新任校長のための学校マネジメント術【基礎編】
推進本部	新型コロナウイルス感染症を含む学校保健・学校安全について
推進本部	汎用電子パーツで製作する教育用ラジオ
推進本部	学校運営のための教育政策・行政・法制と教育経営
推進本部	教員のためのデータサイエンス入門
推進本部	「生きる力」を育む体験活動の考え方～「エッジワーク理論」を交えて～
推進本部	冊封使が琉球へもたらした中国書跡
推進本部	学校組織の意思決定過程について
推進本部	学校組織の基本的な構造について
推進本部	教員の指導力を高める指導・助言のあり方（八王子市教育委員会 認定指導教員研修）
推進本部	国語科書写におけるICTの活用を考える
推進本部	LDの子どもへの指導・支援
推進本部	ADHDの子どもへの指導・支援
推進本部	自閉症スペクトラムの子どもへの指導・支援
推進本部	期限内で成果を出す巡回指導の在り方
推進本部	多様な子どもへの関わり方のヒント
推進本部	認知特性に応じた授業のユニバーサルデザイン
推進本部	特別な支援を要する幼児への関わり方の具体的方法
推進本部	学校教育におけるファシリテーション
推進本部	教科等横断的な指導とSTEAM教育
推進本部	“Hey Jude”における英国の「コドモ」はグローバル・シティズンになれるのか？
推進本部	児童生徒との関係性
推進本部	保護者・地域住民による学校支援の枠組み
推進本部	AI時代の教育
推進本部	現在完了形: 現在と過去の関連性
推進本部	明日も行きたくなる学校
推進本部	キャリア教育の基本的な考え方とキャリア・パスポートの活用について
推進本部	【アーカイブ配信版】オープニングキャンペーン「探究的な学びと個別最適な学びをどう実践するか？」

プロジェクト名等	コース名
推進本部	【アーカイブ配信版】オープニングキャンペーン「教育におけるAIの活用について」
推進本部	未来の学校みんなで創ろう1 学校とは何か？なぜ学ぶのか？
推進本部	未来の学校みんなで創ろう2 個別最適な学びとは？
推進本部	未来の学校みんなで創ろう3 STEAM教育のすゝめ
推進本部	学校リーダーに必要なマネジメントの視点について
推進本部	家庭科住生活領域 健康・快適・安全な温熱環境と空気環境
推進本部	家庭科住生活領域 健康・快適・安全な光環境と音環境
推進本部	AIが問い直す教育
推進本部	未来の学校みんなで創ろう4 学校と地域の協働の話をしよう
推進本部	未来の学校みんなで創ろう8 テクノロジーの教育への活用
推進本部	未来の学校みんなで創ろう5 新しい学校空間-1 主体性を育む学習環境・働く環境
推進本部	未来の学校みんなで創ろう6 新しい学校空間-2 学びの多様化と学びの空間
推進本部	未来の学校みんなで創ろう7 新しい学校空間-3 ウェルビーイング向上のための学校施設づくりについて
推進本部	1人1台端末上での「雑談」を通したメディアリテラシー教育を考える
推進本部	すべてのこどもがつながる「多様な学び」のこれから ―こどもの学び困難支援センター 第27回公開研究会―
推進本部	文化・歴史学派ヴィゴツキーの文化・歴史性 ―発達のグランド・セオリーの鑑賞学―
推進本部	GIGAスクール時代の情報教育とICT活用
推進本部	いじめの予防と対応
推進本部	学校における事故防止と安全教育の在り方
推進本部	発達障害のある児童生徒の理解と支援
推進本部	教育実習指導～はじめての一步～
推進本部	体験活動と子ども集団の発達
推進本部	リーガルマインドと危機管理
推進本部	多様性を尊重した学校づくり
推進本部	【アーカイブ配信版】1周年記念セミナー 「教室」と「校内居場所」―多様な学びを考える
推進本部	【アーカイブ配信版】1周年記念セミナー 民間人材の教育参画による探究的な学びの深化
推進本部	【アーカイブ配信版】1周年記念セミナー 「中核的な概念」と「教育課程の弾力化」～次期学習指導要領に向けて議論されていること
推進本部	入門 統計的推測の考え方を身につける―推定・検定と統計用語の正しい理解を目指して―
推進本部	【アーカイブ配信版】小学校の読書教育の現状と課題
推進本部	特別支援教育の視点で考える学級担任の役割
推進本部	「探究的な問い」にもとづく単元デザイン～『歴史総合』の試みを事例として～
推進本部	概念理解を軸とした探究的な授業～IB教育における概念型探究から学ぶ～
推進本部	島しょ部にある学校の経営―子供・地域・学校組織・教員に焦点をあてて―
推進本部	東京学芸大学附属学校情報教育部 2025年度公開セミナー「GIGAスクール構想とデジタル学習基盤」
推進本部	授業研究の改善と研修用動画の活用
教育課程・授業改善	「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の進め方について
教育課程・授業改善	人権教育を通して児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成
教育課程・授業改善	教員の服務に関する理解と服務事故の防止
教育課程・授業改善	子どもの認知特性や優位な感覚の理解
教育課程・授業改善	ワーキングメモリの視点による学習支援
教育課程・授業改善	【リニューアル】ユニバーサルデザインの考え方を授業に応用する
教育課程・授業改善	【リニューアル】学校における合理的配慮
教育課程・授業改善	【リニューアル】発達障害のある子どもへの自立活動の指導の方法
教育課程・授業改善	【リニューアル】校内委員会の機能から考える校内支援体制の構築
教育課程・授業改善	【リニューアル】子ども視点での授業改善の方法 学びのユニバーサルデザインUDL
教育課程・授業改善	個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用について
道徳	道徳教育を考える(1)
道徳	道徳教育を考える(2)
小学校英語	外国語活動・外国語の指導を4技能の観点で見直す
小学校英語	【日本語版】地球市民を育成する小学校外国語教育 1／全14回 イン트로ダクション
小学校英語	【English ver.】地球市民を育成する小学校外国語教育 1／全14回 イン트로ダクション

プロジェクト名等	コース名
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 2 / 全14回 This is ME!
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 3 / 全14回 Welcome to Japan!
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 4 / 全14回 Where do you want to go?
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 5 / 全14回 What do you have on Monday?
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 6 / 全14回 We all live on the Earth.
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 7 / 全14回 What do you want to be?
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 8 / 全14回 What would you like?
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 9 / 全14回 Let's think about our food.
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 10 / 全14回 My Vacation
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 11 / 全14回 She can sing well.
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 12 / 全14回 This is my town.
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 13 / 全14回 I want to visit there!
小学校英語	地球市民を育成する小学校外国語教育 14 / 全14回 まとめ
小学校英語	「聞くこと」から「書くこと」まで 子どもに無理をさせない小学校外国語の授業(1/4)
小学校英語	「聞くこと」から「書くこと」まで 子どもに無理をさせない小学校外国語の授業(2/4)
小学校英語	「聞くこと」から「書くこと」まで 子どもに無理をさせない小学校外国語の授業(3/4)
小学校英語	「聞くこと」から「書くこと」まで 子どもに無理をさせない小学校外国語の授業(4/4)
附属学校	小学校外国語科読むことー教材「ごんぎつね」のラストシーンを扱った授業展開例ー
附属学校	ICTを活用した学習支援
附属学校	スクールソーシャルワーカー（SSW）とスクールロイヤー（SL）の対談動画
附属学校	授業開始時のルーティンに活用できる「模写ワーク」の教材共有動画
附属学校	ディスプレイサイズや子どもとの距離の違いなどの情報端末の特性を生かした授業づくり
附属学校	今すぐできる、誰にでもできる、ICTを活用した教育実習生の指導の実例
附属学校	教育実習指導におけるグループウェアの日常的な活用
附属学校	高校教育における1 to 1（1人1台 PC）の導入と活用
附属学校	知的障害特別支援教育におけるICT活用
附属学校	幼稚園におけるICTを使った教材（動画）の活用
附属学校	係活動における日常的なICTを活用した学習環境デザインの方法
附属学校	効果的なオンライン学習
附属学校	ICT機器を活用した生徒の学習効率を高める授業実践（社会科編）
附属学校	ICT機器を活用した生徒の学習効率を高める授業実践（理科編）
附属学校	学校図書館を活用した教科連携事例 東京学芸大学附属国際中等教育学校の実践から
附属学校	「指導と評価の一体化」を目指したカリキュラムづくり(1) ～生徒エージェンシーを育てるための評価～
附属学校	「指導と評価の一体化」を目指したカリキュラムづくり(2) ～生徒エージェンシーを育てるための評価～
附属学校	特別対談『道徳と法律2つの視点から学校でおこる「いじめの防止と予防」を考える』
附属学校	小学校に生成AIを導入するにあたって大切にしたいこと
附属学校	体育学習におけるICTの活用について
特別支援教育	＜特別支援教育＆臨床心理学による研修講座＞ LD限局性学習症
特別支援教育	＜特別支援教育＆臨床心理学による研修講座＞ ADHD注意欠如多動症
特別支援教育	＜特別支援教育＆臨床心理学による研修講座＞ ASD自閉スペクトラム症
特別支援教育	＜特別支援教育＆臨床心理学による研修講座＞ IDD知的発達障害
専門職養成	「専門家としての教師」について考える
外部提供	ロジカルシンキング
外部提供	問題解決思考
外部提供	設定型問題解決
外部提供	仮説思考
外部提供	定量的思考
外部提供	ロジカルコミュニケーション
外部提供	プレゼンテーション
外部提供	ロジカルシンキングドリル
外部提供	問題解決思考ドリル

プロジェクト名等	コース名
外部提供	データ分析Lv1-1 データの意味を知る・整理する
外部提供	データ分析Lv1-2 データを読み取る・予測する
外部提供	データ分析Lv2-1 集計したデータを確認する
外部提供	データ分析Lv2-2 データを加工して意味を読み取る
外部提供	データ分析Lv2-3 データから予測する
外部提供	データ分析Lv2-4 経営データを分析する
外部提供	Microsoft Excel ベーシック編
外部提供	Microsoft Excel アドバンス編
外部提供	Microsoft Word ベーシック編
外部提供	Microsoft Power Point ベーシック編
外部提供	プレイヤーからマネジャーへの脱却
外部提供	理感一致のリーダーシップ
外部提供	部署の目標を設定する
外部提供	メンバーの目標を設定する
外部提供	目標達成のための計画を策定する
外部提供	目標達成のための協働関係を構築する
外部提供	組織運営のモニタリングとフィードバックをする
外部提供	人事考課の基本 目標設定編
外部提供	人事考課の基本 観察・介入・実行支援編
外部提供	人事考課の基本 評価編
外部提供	管理職が知っておくといトピック集
外部提供	未知を切り拓く意識への転換
外部提供	変革型のリーダーシップ
外部提供	組織・事業の重点目標の達成
外部提供	組織の重点戦略の立案
外部提供	ベストプラクティスの実装
外部提供	全社連携
外部提供	成果が出せる組織風土の醸成
外部提供	1on1ミーティングの基本
外部提供	キャリアコンサルタントからみたキャリア教育（授業I）
外部提供	児童・生徒と心が近づき自己決定を促す対話力（授業II）
外部提供	障害がある方の社会教育活動～自己肯定感を高める学びについて考える～
外部提供	GIGAスクールと教育DXの要諦（「学校マネジメントDX講座」レッスン1）
外部提供	教育DX時代のSTEAM教育（「学校マネジメントDX講座」レッスン2）
外部提供	教育DX時代の情報モラル教育（「学校マネジメントDX講座」レッスン3）
外部提供	教育DX時代の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実（「学校マネジメントDX講座」レッスン4）
外部提供	教育DX時代のAI等の新たなテクノロジーの活用（「学校マネジメントDX講座」レッスン5）
外部提供	データにもとづく問題解決の実践的方法論
外部提供	私学小中高におけるSNSトラブルとネットいじめの防止～SNS対策編～
外部提供	私学小中高におけるSNSトラブルとネットいじめの防止～ネットいじめ編～
外部提供	わいせつ教員問題と性暴力の防止

Ⅲ－(3) 受託事業

(令和7年度)

区分	委託機関名	事業名	事業期間
文部科学省	総合教育政策局	令和7年度学校図書館司書教諭講習	R7.4.7～R8.3.31
	総合教育政策局	令和7年度「読書活動推進事業」	R7.5.15～R7.3.10
	初等中等教育局	(情報基盤課) 令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)	R7.7.10～R8.3.20
	初等中等教育局	(附属学校課) 令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)	R7.7.15～R8.3.20
	初等中等教育局	(学系支援課) 令和7年度次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進(最先端技術及び教育データ利活用に関する実証事業)	R7.7.15～R8.3.20
	初等中等教育局	特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業	R7.4.1～R8.3.15
	初等中等教育局	理数好きな児童・生徒を育てる探求学習推進プラン	R7.5.21～R8.3.10
	スポーツ庁	令和7年度令和の日本型学校体育構築支援事業(共に学ぶ体育授業の指導方法の改善充実)	R7.9.3～R8.3.31
	スポーツ庁	令和7年度令和の日本型学校体育構築支援事業(多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化)	R7.6.23～R8.3.31
地方公共団体	東京都教育委員会	令和7年度東京都教育委員会と東京学芸大学との高大接続事業	R7.4.1～R8.3.31
	調布市教育委員会	不登校児童生徒支援プロジェクトSWITCH業務委託	R7.4.1～R8.3.31
その他	内閣官房 水循環政策本部事務局	水循環に関するパネル・映像展示の制作及び活用推進業務	R7.4.1～R8.3.13
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	スーパーサイエンスハイスクール事業(附属国際中等教育学校)	R7.4.1～R8.3.31
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	スーパーサイエンスハイスクール事業(附属高等学校)	R7.4.21～R8.3.31
	公益財団法人東京都教育 支援機構	令和7年度「社会の力活用事業」	R7.4.24～R8.3.31
	株式会社エイチ・アイ・エス	令和7年度任用前専門性向上講座	R7.10.10～R8.3.31
	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	統計エキスパート人材育成プロジェクト	R7.4.1～R8.3.31
	TOPPAN株式会社	令和6年度「小・中高等学校を通じた英語教育強化事業」 (AIの活用による英語教育強化事業/AI英語活用リーダー事業)	R7.4.28～R8.1.31
	東京都立青島 特別支援学校	令和7年度都立青島特別支援学校における芸術教育の推進に関する事業委託	R7.12.3～R8.3.31
	東京都立南大沢学園	令和7年度都立南大沢学園における芸術教育の推進に関する事業委託	R7.12.16～R8.3.31
	株式会社マイファーム	北多摩エリアにおける生物多様性モニタリング指標種の抽出と自然共生サイト間の連携強化事業	R8.1.16～R8.2.28

Ⅲ－(4)公開講座

①学芸公開講座

(令和7年度)

実施責任者所属	講座名
総合教育科学系	楽しく読む技法(B)～詩・物語・絵本・絵画の分析的読解を体験する～
	学び合いを支える実践力を培う コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座
	文化－歴史学派ヴィゴツキーの文化－歴史性－発達のグランド・セオリーの鑑賞学－
自然科学系	気象予報士に挑戦 実技・日本海低気圧編、台風編
	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座(夏空編)」(7/20am)
	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座(台風入門編)」(7/20pm)
	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座(台風入門編)」(8/3am)
	夏休み自由研究教室「親子で学ぶ天気図講座(夏空編)」(8/3pm)
	夏休み探究活動教室「中高生のための天気図講座(台風編)」(7/27pm)
	気象予報士に挑戦～実技・南岸低気圧編、梅雨前線編～
芸術・スポーツ科学系	TGUテニス講座【春】
	TGUテニス講座【夏】
	水泳トレーニング教室①
	水泳トレーニング教室②
	らくらく水泳教室～フラットスイムを楽しもう①
	らくらく水泳教室～フラットスイムを楽しもう②
	こども水泳教室～クロール編①
	こども水泳教室～クロール編②
	こども水泳教室～平泳ぎ編①
	こども水泳教室～平泳ぎ編②
	こども水泳教室～平泳ぎ編③
	こども水泳教室～背泳ぎ・バタフライ編
	こどもアシスト牽引水泳体験教室
	水慣れ教室
	日本泳法を経験しよう～水府流太田派を楽しもう～
	『歌曲コンサートの今』イタリア・ドイツ歌曲コンサート ―歌物語の世界によろこそー
	楽しい浮世絵木版画
教職大学院	図画工作・美術科教育 夏季大学
機構・センター等	学校心理臨床の知恵を深める
	特別支援教育の知恵を深める

②Explayhub

(令和7年度)

実施責任者所属	講座名
総合教育科学系	社会教育士ワークショップ～その4 あなたの持ち味は？～
	社会教育士ワークショップ～その5 支援者のエンパワメント・サイクル～
自然科学系	2025 東京学芸大Explaygroundワークショップ・フェス
附属竹早小学校	第0回 Japan Space Ed Port

Ⅲ－(5)附属学校現職教員研修講座

(令和7年度)

学校名	実施日	講座・研修会等名称
幼稚園 (小金井園舎)	6月12日	3歳児学年公開保育検討会
	6月2日	4歳児学年公開保育検討会
	5月29日	5歳児学年公開保育検討会
	1月29日	研究協議会(3、4、5歳児学年＋養護教諭)
	1月29日	研究協議会(3、4、5歳児学年＋養護教諭)
世田谷小学校	8月18日	世田谷算数夏季授業セミナー
	12月20日	世田谷国語研究会 Vol.4「子どもから学ぶ国語科授業づくり」
	1月10日	世田谷算数授業討論会
	2月7日	研究発表会
	3月26日	世田谷国語研究会 Vol.5「子どもから学ぶ国語科授業づくり」
小金井小学校	7月5日	東京学芸大学附属小金井小学校算数部 授業研究会
	4月16日 他計6回	東京学芸大学附属小金井小学校算数部 授業研究会
	7月26日	小金井国語セミナー「言葉による見方・考え方を問う」
	11月22日	ICT×インクルーシブ教育セミナーvol.8
	11月1日	理科おもしろゼミナール
	5月8日、6月17日、7月30日	理科おもしろゼミナール
	12月26日	新しい道徳教育を考える会 冬季授業研究会
	2月27日	文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援推進事業」中間成果報告会
	2月15日	文部科学省「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育 データの利活用推進」成果報告会
	2月15日	文部科学省「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育 データの利活用推進」成果報告会
大泉小学校	5月17日	東京学芸大学国語教育学会
	6月21日	東京学芸大学国語教育学会
	6月27日	PYP実践研究会①
	8月1日	PYP実践研究会②
	8月31日	附属大泉小学校算数部授業研究会「練馬で算数を語る会」
	9月6日	東京学芸大学国語教育学会
	10月11日	東京学芸大学国語教育学会
	10月31日	PYP実践研究会③
	12月5日	PYP実践研究会④
	1月25日	東京学芸大学国語教育学会
	2月13日	PYP実践研究会⑤
	3月7日	東京学芸大学国語教育学会 公開 研究大会
竹早小学校	8月2日	第16回道徳教育研究会「語ルシス」夏期セミナー
	12月27日	第17回道徳教育研究会「語ルシス」冬期セミナー
	3月28日	第18回道徳教育研究会「語ルシス」春期セミナー
	8月5日	児童造形研究会
	9月22日	東京学芸大学附属竹早小学校算数部主催授業研究会事前検討会
	10月4日	東京学芸大学附属竹早小学校算数部主催授業研究会
	1月13日	東京学芸大学附属竹早小学校算数部主催授業研究会事前検討会
	1月17日	東京学芸大学附属竹早小学校算数部主催授業研究会
	3月20日	茗荷谷三附小算数授業研究会
	12月21日	令和7年度体育授業研究会冬の研修会
	2月21日	第2回小学部会 授業セミナー
	3月21日	日本国語学会第2回公開研究会
世田谷中学校	8月18日	夏期現職研修セミナー数学
	3月20日	春期現職研修セミナー数学
	6月13日	公開授業研究会
	8月29日	現職教員研修セミナー理科
	5月17日	現職教員研修セミナー社会
	7月19日	現職教員研修セミナー社会
	9月27日	現職教員研修セミナー社会
	12月20日	現職教員研修セミナー社会
	1月17日	現職教員研修セミナー社会
	2月21日	現職教員研修セミナー社会
	3月21日	現職教員研修セミナー社会
	3月20日	現職研修セミナー国語
	3月21日	現職研修セミナー学校図書館
	7月13日	現職研修セミナー美術「著作権について」
	3月20日	現職研修セミナー美術「評価について」
	10月16日	数学科授業セミナー
	11月21日	公開授業研究会
小金井中学校	11月29日	保健体育科(体育)授業セミナー
	12月4日	保健体育科(保健)授業セミナー
	1月15日	美術科授業セミナー
	1月15日	美術科授業セミナー
	1月15日	美術科授業セミナー
竹早中学校	年10回	美術造形センター教育研究会
高等学校	授業期間中随時	授業公開
	5月29日	地理における野外実習の実際
	6月26日	高校国語科における演劇の鑑賞指導
	7月9～11日	夏季特別実験講座物理 体験講習会
	7月9～11日	夏季特別実験講座化学 体験講習会
	7月9～11日	夏季特別実験講座生物 体験講習会
	10月28～29日	地学科公開研究会 野外観察講座
	11月29日	第24回公開教育研究大会
	11月29日	スーパーサイエンスハイスクール事業報告会
	1月21日	第12回授業実践研究会【生成AI・教育工学】
	2月7日	教員ITC
	3月30日	一体化に焦点化した単元計画と、主体的に学習に取り組む態度の評価についての実践事例
	1月21日	令和7年度 授業研究会
	1月21日	SSH情報交換会 ～独自の学習領域「国際教養」における6年間の体系的な研究活動指導とISSチャレンジについて～
国際中等 教育学校	随時	各教科授業参観・研修
	通年	IB教員長期研修
	10月～3月	教職大学院IB教員養成特別プログラム MYPコース
	10月～3月	教職大学院IB教員養成特別プログラム DPコース
	10月～3月	教職大学院IB教員養成特別プログラム DPコース
特別支援学校	7月29日	東京学芸大学生活支援ネットワークフォーラム 第19回ネットフォーラム
	9月5日	特別なニーズのある幼児を育てる

IV. 国際交流活動

Ⅳ－(1)大学間交流協定校

(令和7年度)

協定大学名		国・地域名	締結年	学術 交流	学生 交流	受入 学生数	派遣 学生数
1	新羅大学校	韓国	1995	○	○		
2	全南大学校	韓国	1997	○	○	3	
3	公州大学校	韓国	1998	○	○		
4	ソウル市立大学校	韓国	1998	○	○	2	1
5	京畿大学校	韓国	2002	○	○	4	
6	ソウル教育大学校	韓国	2003	○	○	1	2
7	忠南大学校	韓国	2004	○	○	1	
8	韓国教員大学校	韓国	2005	○	○	1	
9	京仁教育大学校	韓国	2008	○	○		
10	清州教育大学校	韓国	2009	○	○	1	
11	済州大学校	韓国	2009	○	○	2	
12	韓国国立伝統文化大学校	韓国	2009	○			
13	ソウル大学校師範大学	韓国	2014	○	○	1	2
14	北京師範大学	中国	1995	○	○	3	1
15	東北師範大学	中国	1996	○	○		
16	蘇州大学	中国	1999	○	○	2	
17	香港中文大学	中国	1999	○	○	1	3
18	香港教育大学	中国	2025	○			
19	華東師範大学	中国	2002	○	○	1	1
20	上海師範大学	中国	2003	○	○	5	
21	華中師範大学	中国	2009	○	○	1	
22	南京師範大学	中国	2009	○	○	4	
23	湖南師範大学	中国	2009	○	○		
24	北京外国語大学	中国	2016	○	○	1	
25	国立台湾大学	台湾	2002	○	○	4	4
26	国立台湾師範大学	台湾	2005	○	○	1	
27	国立台中教育大学	台湾	2008	○	○	2	
28	モンゴル国立教育大学	モンゴル	2007	○			
29	モンゴル国立大学	モンゴル	2007	○			
30	タマサート大学	タイ	2000	○	○	2	
31	シラパコーン大学	タイ	2000	○	○	15	
32	コンケン大学	タイ	2015	○	○	2	
33	チェンマイ・ラーチャバット大学	タイ	2020	○	○		
34	インドネシア教育大学	インドネシア	2006	○	○		1
35	フィリピン教育大学	フィリピン	2006	○	○		
36	ベトナム国家大学ハノイ校 人文社会科学大学	ベトナム	2015	○	○	3	
37	ベトナム国家大学ハノイ校 外国語大学	ベトナム	2016	○	○		
38	ブノンベン教員養成大学	カンボジア	2023	○			
39	バットアンバン教員養成大学	カンボジア	2023	○			
40	アグハルカル研究所	インド	2017	○			
41	キャンベラ大学	オーストラリア	1995	○	○	1	1
42	西シドニー大学	オーストラリア	1997	○	○		1
43	モナッシュ大学教育学部	オーストラリア	2019	○			
44	カーセジ大学	アメリカ	1996	○	○	2	
45	ポールステイト大学	アメリカ	1998	○	○		2
46	ハワイ大学ヒロ校	アメリカ	2002	○	○		1
47	ブリッジウォーター州立大学	アメリカ	2016	○	○		1
48	ニューヨーク州立大学コートランド校	アメリカ	2017	○			
49	ミシガン州立大学教育学部	アメリカ	2017	○			
50	セントラル・ワシントン大学	アメリカ	2019	○	○	1	1
51	チアパス州立芸術科学大学	メキシコ	2013	○	○	3	
52	トリア大学第Ⅱ学部	ドイツ	1997	○	○	2	3
53	ハイデルベルク大学	ドイツ	1999		○	5	4
54	ミュンヘン音楽・演劇大学	ドイツ	2004	○	○		2
55	フリードリッヒアレクサンダー大学 エアランゲンニュルンベルク	ドイツ	2005	○	○		
56	ハンブルク大学人文学部	ドイツ	2008	○	○	3	1
57	ザルツブルク・モーツァルトウム大学	オーストリア	2024	○			
58	ヤギェウォ大学国際政治学部	ポーランド	2008	○	○	2	2
59	国立東洋言語文化大学	フランス	1997	○	○	2	
60	パリ・シテ大学	フランス	2016	○	○	2	
61	オルレアン大学	フランス	2016	○	○		2
62	グルノーブル・アルプ大学	フランス	2017	○	○	1	
63	トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学	フランス	2023	○	○	2	
64	ストラスブール大学	フランス	2024	○	○		
65	ロンドン大学東洋アフリカ研究院	英国	2023	○	○	6	1
66	ヨテボリ大学人文学部	スウェーデン	2000	○	○	1	5
67	ウメオ大学教養学部	スウェーデン	2009	○	○		2
68	ダルエスサラーム大学教育学部	タンザニア	2006	○	○		
69	アスワン大学	エジプト	2018	○	○		
				計		96	44

Ⅳ－(2)協定校派遣留学状況

①教育系・学校教育系

類	選修・専攻・ コース（プログラム）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
A類	国語		1	1	1	
	社会	2	2	2	1	1
	数学		1			1
	理科			1		2
	音楽				1	
	美術			1	1	1
	保健体育					
	家庭					
	英語			3	2	6
	学校教育			1	2	1
	学校心理			1	3	
	国際教育		2	5	5	1
	情報教育					
	環境教育		1		1	1
	ものづくり技術					
	幼児教育					
B類	国語					
	社会	1	1			
	数学					
	理科					
	音楽					1
	美術					1
	保健体育				1	
	家庭	1	1			
	技術					
	英語		1	3		1
	書道	1			1	
C類	特別支援教育	1				
D類	養護教育		1			1
計		6	11	18	19	18

②教養系・教育支援系

類	コース	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
E類	生涯学習コース	1	1	2	1	
	カウンセリングコース					1
	ソーシャルワークコース					1
	多文化共生教育コース	5	16	13	23	19
	情報教育コース					1
	表現教育コース					
	生涯スポーツコース		1	1		
計		6	18	16	24	22

③修士課程

専攻	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
次世代日本型教育システム研究開発専攻	3	1		1	1
教育支援協働実践開発専攻			1	2	
計	3	1	1	3	1

④教職大学院

専攻	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育実践専門職高度化専攻		4	2	3	3
計	0	4	2	3	3

総計	15	34	37	49	44
----	----	----	----	----	----

該当年度派遣留学生数：前年度の選考により該当年度派遣留学生として確定した数（途中辞退者を除く。また、新型コロナウイルス感染拡大により翌年度以降へ延期した者は留学開始年度に計上する。新型コロナウイルスの影響によりオンライン留学となった者も計上する。）

Ⅳ－(3)短期留学状況

(留学期間別)

(令和7年度)

	1ヶ月未満	1～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年以上	計
学校教育系・ 学校教育教員養成課程	64	3	16	0	83
教育支援系・ 教育支援課程	16	5	19	0	40
大学院修士課程	1	1	1	0	3
教職大学院	4	1	2	0	7
計	85	10	38	0	133

(地域別・男女別)

(令和7年度)

	男	女	計
アジア	17	43	60
(うち中国)	3	8	11
(うち韓国)	2	9	11
北米	6	11	17
中南米	0	0	0
ヨーロッパ	7	17	24
オセアニア	3	28	31
中東・アフリカ	1	0	1
計	34	99	133

Ⅳ－(4)外国人留学生受入状況

(令和7年10月1日現在)

国(地域)名	正規生					非正規生														合 計	
	大学院生			学部生	小 計	研究生			教員研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	日本語予備教育生	特別聴講生					特別研究生（大学院）	科目等履修生（大学院）	科目等履修生（学部）		小 計
	博 士	修 士	教職大学院			研究留学生	研究生（大学院）	研究生（学部）				交換留学生（大学院）	一般プログラム	交換留学生（学部）・ （7＋1）プログラム	交換留学生（学部）・ I S E Pプログラム						
アメリカ					0										1					1	1
イギリス					0									6						6	6
イタリア					0									1						1	1
インド					0				1											1	1
インドネシア					0	1			1											2	2
ヴァヌアツ					0															0	0
ウズベキスタン					0															0	0
エジプト					0	1														1	1
オーストラリア					0											1				1	1
オーストリア					0															0	0
カザフスタン					0				1	1										2	2
コスタリカ					0									1						1	1
スウェーデン					0									1						1	1
タイ					0	1				2				6						9	9
ドイツ					0									7						7	7
トルコ					0					1										1	1
ナイジェリア					0				2											2	2
ナミビア					0				1											1	1
ノルウェー					0															0	0
ハンガリー		1			1															0	1
ブラジル				1	1				2											2	3
フランス					0							1	4		2					7	7
ベトナム		1			1	1				2			3							6	7
ベラルーシ					0	1														1	1
ポーランド					0							1								1	1
ボツワナ					0				1											1	1
マレーシア					0				2											2	2
ミャンマー				1	1															0	1
メキシコ					0										3					3	3
ヨルダン					0						1									1	1
韓国		1		2	3				9				10							19	22
台湾		3		1	4			1				1	4		2					8	12
中国	3	55	12	6	76		2	13		1		1	13			1		1		32	108
香港		1			1								1							1	2
計	3	62	12	11	88	5	2	14	20	7	1	4	57	0	9	1	0	1	1	121	209
国費留学生内数				1	1	5			20	7	1									33	34

IV－(5)教員・研究者の派遣受入状況

①教員海外派遣状況(6ヶ月以上)

(令和7年度)

	総合教育 科学系	人文社会 科学系	自然科学系	芸術・スポーツ 科学系	教職大学院	機構・センター
研究専念制度	1	0	0	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	1	0	1

※令和6年度にかけて6ヶ月以上となる場合も含む。

②外国人研究者受入状況(2週間以上)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
協定校	0	0	0	1	2
JICA研修員	0	0	0	0	0
その他	2	7	10	8	10
計	2	7	10	9	12

IV－(6)国際交流／留学生センター事業

(令和7年度)

事業名		概要	対象
特別研修プログラム	日本語日本文化研修プログラム	日研生特別演習の実施（日本語研修および日本文化理解のためのセミナー・見学・交流活動等の企画・運営）、個人研究の指導、研究レポート集の発行等	日本語日本文化研修留学生（日研生）
	教員研修プログラム	日本語研修、教研生特別演習、研究発表会、研究報告集の発行、見学・交流等専門研修以外の活動の企画・運営等	教員研修留学生（教研生）
	留学生教育プログラム（ISEP）	英語を教授言語とした日本理解科目（ISEP科目）の開設、個人研究の指導、日本理解・国際理解のためのワークショップ・セミナー等の企画・運営、研究レポートの発行	留学生教育プログラム生（ISEP生）
	シラパコン大学7＋1プログラム	日本語研修、特別演習の実施、見学・体験・交流行事の企画運営、作文集の発行等	シラパコン大学7＋1プログラム生
教育支援	日本語教育	日本語科目の開講（春学期計42枠、秋学期計48枠）、日本語プレースメントテスト実施（4月、9月）、授業評価アンケート実施（7月、2月）	全学留学生
	日本理解教育	日本理解科目の開講（春学期計4枠、秋学期計4枠）、多文化共修科目の開講（春学期3枠、秋学期4枠）、但し日本理解科目1科目と多文化共修科目1科目は同一、Global Japan Studiesの開講（春学期3枠、秋学期3枠）	全学留学生、全学学生
主な日本理解・国際理解関連行事	歌舞伎鑑賞教室	7月23日	教研生・日研生・研究生・シラパコン大学7＋1プログラム生
	大相撲トーナメント見学	2月8日	全学留学生・全学学生
	浴衣着付け教室	7月4日	全学留学生・全学学生
	文楽鑑賞教室	12月17日	全学留学生・全学学生
	長瀬・川越1日バスツアー	12月3日	全学留学生・全学学生
学内および地域交流	東京都高大連携事業による公立学校との交流授業	都立武蔵野北高校：12月23日 都立小金井北高校：12月24日	教研生、日研生、全学留学生
	附属小学校との交流授業	竹早小学校：11月20日 小金井小学校：12月11日（教研生・ISEP生）、12月10日・1月14日（日研生）	教研生・ISEP生・日研生
	留学生歓迎交流会	4月17日、10月16日	全学留学生・全学学生
	留学生カフェ	春学期：毎週木曜日昼休み（計5回）、 秋学期：毎週木曜日昼休み（計7回） もちパーティ：1月16日	全学留学生、全学学生
	日本語トークルーム	春学期：5回、秋学期：週5コマ開催	全学留学生、全学学生
生活支援関連行事	全学留学生オリエンテーション	春・秋学期に各1回開催	全学留学生
	防災体験学習	立川防災館：4月16日 池袋防災館：11月5日	シラパコン大学7＋1プログラム生・日研生・国費留学生
海外留学支援関連	海外留学相談	春学期：週2回開室 秋学期：週2回開室 （長期休み期間は、対面またはオンラインの面談）	全学学生
	海外留学セミナーの開催	第1回セミナー「留学とキャリア」：5月28日 第2回セミナー「TOEFL説明会」：7月25日	全学学生
	留学帰国生によるトークセッション	留学経験者によるトークセッションの開催 2回	全学学生
	国際課と連携した留学推進のイベント開催	短期研修説明会（4月） 海外留学フェア（6月） トビタテ奨学金説明会（12月）	全学学生
その他	留学生ネットワークの運営	留学生向けのメーリングリストの更新と利用	留学生（非正規生）
		ソーシャルメディアを利用した修了生ネットワークの運営	修了留学生
		国際交流／留学生センターのホームページのリニューアル	全学留学生
	留学生の生活アンケート	学期中に留学生の生活と勉強アンケートの実施	全学留学生（非正規生）
	地域との連携	第13回小金井市日本語スピーチコンテスト後援と審査員派遣（12月14日）	全学留学生

V. 大学運営

第1回 令和7年4月9日（水）

- 1 令和7年度国立大学法人東京学芸大学会計監査人候補者の選定について

第2回 令和7年4月23日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第34条に基づく取扱いについて
- 2 サイバーセキュリティ対策基本計画の実施状況及び次期計画（案）について
- 3 国立大学法人東京学芸大学ネーミングライツ事業実施要項の一部改正（案）について
- 4 名義使用許可申請について

第3回 令和7年5月14日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒にかかる調査委員会の設置及び委員指名について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（当初案）について
- 3 令和7年度における余裕金の運用管理方針（案）について

第4回 令和7年6月11日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（最終案）について
- 2 東京学芸大学基金管理運営規程の一部改正（案）について
- 3 令和6年度（第21期事業年度）決算（当初案）について
- 4 名義使用許可申請について

第5回 令和7年6月18日（水）

- 1 設備マスタープランの改訂について

第6回 令和7年6月25日（水）

- 1 令和6年度（第21期事業年度）決算（案）について
- 2 令和8年度概算要求事項（案）について

第7回 令和7年7月9日（水）

- 1 タウン情報サービス社有料広告について

第8回 令和7年7月23日（水）

- 1 令和8年度附属学校教員・事務系職員の再雇用及び継続雇用について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（当初案）について
- 3 名義使用許可申請について

第9回 令和7年9月10日（水）

- 1 大学教員の総合的業績管理結果報告書（令和6年度）（案）について
- 2 客員教授等候補者の選考について

第10回 令和7年9月24日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（最終案）について
- 2 名義使用許可申請について

第11回 令和7年10月8日（水）

- 1 令和7年度自己点検評価結果（案）について
- 2 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和7年度）（案）について
- 3 株式会社ジェイ・エス・ビーネットワーク有料広告について
- 4 名義使用許可申請について

第12回 令和7年10月22日（水）

- 1 東京学芸大学小金井地区構内自転車駐輪要項の一部改正（案）について
- 2 名義使用許可申請について

第13回 令和7年11月12日（水）

- 1 株式会社エスペラントシステム有料広告について
- 2 早期退職制度による令和8年3月退職者の認定について

第14回 令和7年11月26日（水）

- 1 名義使用許可申請について

第15回 令和7年12月10日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学カスタマー・ハラスメントに対する基本方針（案）について
- 2 東京学芸大学放射性同位元素総合実験施設の廃止に向けた手続きについて
- 3 名義使用許可申請について

第16回 令和7年12月17日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒にかかる調査委員会の設置及び委員指名について

第17回 令和8年1月14日（水）

- 1 令和7年人事院勧告及び令和8年度学内当初予算編成への対応方針（当初案）について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（当初案）について
- 3 名義使用許可申請について

第18回 令和8年1月28日（水）

- 1 教員候補者選考委員会開設申請（戦略的配置教員）について
- 2 令和7年人事院勧告及び令和8年度学内当初予算編成への対応方針（案）について
- 3 令和7年度収支予算（補正）（案）について
- 4 令和8年度東京学芸大学予算配分の基本方針（案）について
- 5 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒にかかる調査委員会の設置及び委員指名について

第19回 令和8年2月26日（木）

- 1 国立大学法人東京学芸大学年俸制給与に関する規則の適用を受ける職員について
- 2 一般事業主行動計画の策定について
- 3 クロスアポイントメント制度の適用について
- 4 今後の喫煙場所の在り方について
- 5 役員の退職手当に係る業績勘案分について（学長分）（中島理事分）

第20回 令和8年2月27日（金）

- 1 令和8年度学部入試（前期日程）合格予定者数（原案）について

第21回 令和8年3月11日（水）

- 1 令和8年度における余裕金の運用管理方針（案）について
- 2 教員候補者選考委員会開設申請（戦略的配置教員）について
- 3 寄附講義の更新について
- 4 名義使用許可申請について
- 5 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（最終案）について
- 6 監事（非常勤）の非常勤役員手当（案）について
- 7 再雇用職員（附属学校教員）の職務の級について
- 8 再雇用職員（事務職員）の採用等及び職務の級について

第22回 令和8年3月16日（月）

- 1 令和8年度学部入試（後期日程）合格予定者数（原案）について

第23回 令和8年3月25日（水）

- 1 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 2 国立大学法人東京学芸大学組織運営規程の一部改正（案）について
- 3 国立大学法人東京学芸大学教員人事会議規程の一部改正（案）について
- 4 一般事業主行動計画の策定について
- 5 令和8年度東京学芸大学公的研究費不正防止計画の策定について
- 6 令和8年度国立大学法人東京学芸大学会計監査人候補者の選定について
- 7 令和8年度東京学芸大学収支予算（案）について
- 8 公式ウェブサイトに係る有料広告について
- 9 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒にかかる調査委員会報告及び同規則34条に基づく取扱いについて

V－(2)経営協議会 議題一覧

第1回 令和7年6月23日（月）

- 1 令和6年度（第21期事業年度）決算（案）について
- 2 令和8年度概算要求事項（案）について

第2回 令和7年9月18日（木）

- 1 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和7年度）（案）及び各原則の実施状況の確認について
- 2 令和7年度自己点検評価結果（案）について
- 3 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（案）について

第3回 中止

第4回 令和8年1月26日（月）

- 1 令和7年人事院勧告及び令和8年度学内当初予算編成への対応方針（案）について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（案）について
- 3 令和7年度収支予算（補正）（案）について
- 4 令和8年度東京学芸大学予算配分の基本方針（案）について

第5回 令和8年3月23日（月）

- 1 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 2 令和8年度東京学芸大学収支予算（案）について

第1回 令和7年4月9日（水）

- 1 東京学芸大学キャンパス・アジア推進室規程の一部改正（案）について

第2回 令和7年4月23日（水）

- 1 東京学芸大学一般選抜（後期日程）の廃止（予告案）について
- 2 インソースDX交流プログラムの開講について

第3回 令和7年5月28日（水）

- 1 大学間交流協定更新について

第4回 令和7年6月11日（水）

- 1 令和8年度東京学芸大学入学者選抜要項（案）について
- 2 令和8年度編入学試験実施要項（案）について

第5回 令和7年7月23日（水）

- 1 令和10年度大学入学者選抜（令和9年度実施）（予告）（第一報）（案）について
- 2 大学間交流協定更新について

第6回 令和7年9月24日（水）

- 1 東京学芸大学研究員受入規程の一部改正（案）について
- 2 令和7年度自己点検評価結果（案）について
- 3 大学間交流協定更新について

第7回 令和7年10月8日（水）

- 1 令和8（2026）年度授業暦（案）について

第8回 令和7年11月12日（水）

- 1 学生の懲戒に関する規程及び懲戒等実施細則の一部改正（案）について
- 2 令和10年度大学入学者選抜（令和9年度実施）（予告）（第二報）（案）について

第9回 令和7年11月26日（水）

- 1 東京学芸大学附属学校運営規程の一部改正（案）について
- 2 大学間交流協定更新について

第10回 令和8年1月14日（水）

- 1 東京学芸大学紀要出版規程の一部改正（案）について
- 2 東京学芸大学論叢出版規程の一部改正（案）について
- 3 大学院教育学研究科特別研究学生交流規程に基づく学生の派遣について

第11回 令和8年1月28日（水）

- 1 名誉教授候補者について
- 2 東京学芸大学教職大学院実務家教員選考基準の一部改正（案）について
- 3 クロスアポイントメント制度の適用について

第12回 令和8年2月26日（水）

- 1 大学院教育学研究科規程の一部改正（案）について
- 2 大学間交流協定更新について

第13回 令和8年3月13日（水）

- 1 東京学芸大学転類等に関する取扱要項の一部改正（案）について
- 2 東京学芸大学大学院学則の一部改正（案）について
- 3 東京学芸大学大学院教育学研究科学生交流規程の一部改正（案）について
- 4 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構規程の一部改正（案）について
- 5 東京学芸大学教員の任期に関する規程の一部改正（案）について
- 6 東京学芸大学教職大学院専任教員等選考要項の一部改正（案）について
- 7 国立大学法人東京学芸大学附属学校における重大事案調査委員会要項の一部改正（案）について
- 8 令和8年度「教育研究経費」予算額及び予算配分方法等（案）について

第14回 令和8年3月25日（水）

- 1 東京学芸大学教育学部運営規程の一部改正（案）について
- 2 国立大学法人東京学芸大学放射線障害予防規程の一部改正及び東京学芸大学放射性同位元素総合実験施設規程の一部改正について
- 3 授業料及び寄宿料の免除及び徴収猶予に関する規程の一部改正について

V-(4)委員会等一覧

①法人関係

令和7年10月17日時点

※「◎」は委員長等、「○」は副委員長等

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	教職大学院	機構	事務局
学長特別補佐		奥住秀之		坂口謙一 中野幸夫		堀田龍也		
学長補佐		倉持伸江 関口貴裕 萬羽郁子	加瀬進 齋藤ひろみ 菅美弥 日高智彦	竹内伸子 原田和雄	中地雅之	浅野あい子 大谷忠 西村圭一 藤野智子 矢嶋昭雄 吉田伊津美	金子嘉宏 荻上健太郎	
1 全学戦略・広報本部	◎ 中島裕昭 川手圭一 鈴木聡	奥住秀之		中野幸夫 坂口謙一				
① 評価部会	◎ 中島裕昭	奥住秀之		中野幸夫 坂口謙一				経営企画室長 戦略担当課長
② 広報部会	◎ 川手圭一 鈴木聡	奥住秀之		中野幸夫			荻上健太郎	総務課広報・基金室 長
2 カリキュラム改革推進本部	◎ 小嶋茂稔 ◎ 佐々木幸寿 濱田豊彦 國仙久雄	君塚仁彦	木村守	坂口謙一 西田尚央		矢嶋昭雄 渡辺理文	岩田康之	○ 学務部長
① ICT関連科目授業運営部会	◎ 佐々木幸寿 ◎ 小嶋茂稔		木村守	○ 竹内伸子 南葉宗弘 樋山淳雄		登本洋子 堀田龍也 西村圭一	加藤直樹 山下雅代	学務課長
② 大学院教育学研究科カリキュラム検討部会	◎ 佐々木幸寿 松田恵示		加瀬進	中野幸夫	小森伸一	○ 福本みちよ	金子嘉宏	経営企画室長 戦略担当課長 大学院課長
3 教育実践研究推進本部	◎ 國仙久雄 狩野賢司 川手圭一 濱田豊彦	松尾直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			○ 財務・研究推進部長 研究・連携推進課長 財務課長
① 各学系紀要編集会議		◎ 松尾直博 ○ 関口貴裕 前田稔 大庭綾 渡瀬典子	◎ 木村守 ○ 疋田雅昭 阿部始子 出口雅敏 加瀬進	◎ 土橋一仁 ○ 竹内伸子 ○ 荒川悦雄 原田和雄 坂口謙一	◎ 欽矢悦朗 ○ 竹鼻ゆかり 清水和高 高瀬政弘 鈴木明哲	◎ 濱田豊彦 ○ 藤野智子 原口るみ	◎ 川手圭一 ○ 大森直樹 藤村祐子 許夏玲 入江優子	
② 論叢編集会議	◎ 國仙久雄	平野麻衣子 梶井芳明	稲見正浩 小澤英実 梅山佐和	清野辰彦 原田和雄 江原遥 日高慎	石川裕司 奥村基生 荒川雅子	○ 藤野博 福本みちよ 浅部航太 藤野博 倉持清美 中村和弘 西村德行	榊原知美	
4 国際戦略推進本部	○ 中島裕昭 ◎ 川手圭一		木村守 樺真智子 菅美弥 日倉美里 范文玲	原田和雄			岩田康之 有澤知乃 見世千賀子 下田誠 秋庭裕子	国際課長
5 社会連携推進本部	◎ 中島裕昭 ○ 松田恵示	杉森伸吉	小西公大					○ 財務・研究推進部長 研究・連携推進課長
6 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部	○ 中島裕昭 ◎ 竹鼻ゆかり ○ 高橋正敏 鈴木聡 関田義博(附属参事)	松尾直博 萬羽郁子		原田和雄			池田順之介	瀬川結美 田家和樹
7 PD推進本部	◎ 中島裕昭 ○ 小嶋茂稔 増田正弘	松尾 直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			○ 事務局長 学務部長 総務部長
8 情報基盤整備推進本部	◎ 國仙久雄 関田義博(附属参事)		澤田康徳	○ 竹内伸子 樋山淳雄	正木賢一		加藤直樹 森本康彦	総務課長 財務課長 情報基盤課長
9 教員人事会議	理事、副学長	松尾直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			
10 アドミッションオフィス	◎ 濱田豊彦 小嶋茂稔	工藤浩二	○ 日高智彦 青木久 加瀬進	前田優 中野幸夫	石崎秀和 小森伸一	大谷忠		入試課長 広報・基金室長
11 DX推進本部	◎ 学長 理事、副学長 (○國仙久雄)			竹内伸子		堀田龍也		学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
12 教育者研修推進本部	◎ 狩野賢司 関田義博(附属参事) 附属学校副校長1名	柴田彩千子	阿部始子	中野幸夫		○ 伊東哲(特任教授) 増田謙太郎	永田繁雄 下田誠 橋本創一 金子嘉宏 山下雅代	○ 学務部長 先端教育推進課長
13 教育研究評議会	◎ 学長 理事、副学長 (○中島裕昭)	松尾直博 澤隆史 君塚仁彦	木村守 千田洋幸	土橋一仁 樋山淳雄	欽矢悦朗 高橋宏文	矢嶋昭雄	宮内卓也	
① 予算専門委員会	◎ 高橋正敏	松尾直博	木村守	○ 土橋一仁	欽矢悦朗	矢嶋昭雄	宮内卓也	財務・研究推進部長
14 学長選考・監察会議	松田恵示 増田正弘 経営協議会学外委員5名		木村守		欽矢悦朗			事務局長
15 危機管理会議	◎ 学長 理事、副学長 (○中島裕昭)	松尾直博 澤隆史	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
16 施設整備会議	中島裕昭 濱田豊彦 川手圭一 増田正弘 ◎ 高橋正敏	○ 松尾直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			財務・研究推進部長
17 情報公開・個人情報保護会議	◎ 学長 ○ 中島裕昭 川手圭一(図書館長)	松尾直博 澤隆史	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			事務局長
18 地球温暖化対策会議	理事、副学長	松尾直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			学務部長 総務部長 財務・研究推進部長 施設課長
19 発明審査会議	◎ 中島裕昭 ○ 國仙久雄							
20 安全衛生委員会	◎ 中島裕昭	松尾直博 品田瑞穂	千田洋幸	土橋一仁 荒川悦雄	尾関幸	西村德行	平山哲 大森直樹	事務局長 石井克彦 武田邦宏

②大学関係

委員会等名		学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	教職大学院	機構	事務局
1	部局長会	◎ 学長 理事、副学長	松尾直博 澤隆史	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
2	教授会 ※講座主任のみ掲載		前田稔 関口貴裕 大庭綾	加瀬進 疋田雅昭 阿部始子 出口雅敏	竹内伸子 荒川悦雄 原田和雄 坂口謙一	清水和高 古瀬政弘 鈴木明哲 竹鼻ゆかり	矢嶋昭雄		
3	全学教室主任会	小嶋茂稔 鈴木聡	松尾直博 遠座知恵 関口貴裕 平野麻衣子 橋本美保 大庭綾 萬羽郁子 柴田彩千子 福井里江 平田正吾	木村守 澤田康徳 斉藤昭子 齋木郁乃 樺真智子 露木信介 小西公大	土橋一仁 山本卓宏 原田和雄 藤井和人 樋山淳雄	欽矢悦朗 野田清隆 朝野浩行 高橋宏文 荒川雅子 嶋崎裕美 奥村基生	加藤泰弘	森本康彦	
4	大学院教育学研究科運営委員会	佐々木幸寿 濱田豊彦 鈴木聡	松尾直博 村山拓 工藤浩二	木村守 加瀬進 近藤弘幸	土橋一仁 田中心 小林晋平 堂園いくみ	欽矢悦朗 吉川文 佐藤耕平	藤野智子 浅野あい子 渡辺貴裕 倉持清美 中村純子 田中比呂志 西村徳行 加藤泰弘 鈴木秀人 大谷忠 粕谷恭子 堀田龍也 吉田伊津美 鈴木琴子 米本和弘	吉富友恭 小林玄	
①	入試部会		◎ 村山拓 前田稔	露木信介	○ 田中心	森山進一郎	吉田伊津美 鈴木琴子	小林玄	
5	教員養成高度化プロジェクト実施委員会		池田吉史 ○ 星野亜由美	出口雅敏 山口恵子	李璿 西浦慎悟	正木賢一 仲宗根森敦	◎ 米本和弘		学務課長
6	大学院連合学校教育学研究科委員会	小嶋茂稔	◎ 澤隆史		前田優	石橋史生 鈴木明哲			
7	大学院連合学校教育学研究科運営委員会	◎ 小嶋茂稔	澤隆史 関口貴裕 杉森伸吉 林尚示 平田正吾 渡瀬典子	湯浅佳子 大田信良 青木久 浅野智彦	前田優 堂園いくみ 坂口謙一	○ 石橋史生 ○ 鈴木明哲 相田隆司 遠藤徹 高橋宏文 奥村基生	堀田龍也 藤野博 西村圭一		
8	学校教育学研究論集編集委員会		小山英恵 大庭綾	佐藤雄一郎	西田尚央 ○ 宮寺庸造 前田優	中地雅之 森山進一郎	◎ 中村和弘	橋本創一	
9	附属学校運営会議	◎ 狩野賢司 増田正弘 古家真(附属参事) 関田義博(附属参事) 小寺康裕(附属参事) 山田有希子(附属幼稚園長) 馬場哲生(附属竹早中学校長)							事務局長
①	附属学校校長・副校長会	◎ 狩野賢司 増田正弘 古家真(附属参事) 関田義博(附属参事) 小寺康裕(附属参事) 山田有希子(附属幼稚園長) 及川研(附属世田谷小学校長) 小森伸一(附属小金井小学校長) 青山直志(附属大泉小学校長) 樺真智子(附属竹早小学校長) 前原健二(附属世田谷中学校長) 川島清美(附属小金井中学校長) 馬場哲生(附属竹早中学校長) 羽田邦弘(附属高校長) 雨宮真一(附属国際中学校長) 奥住秀之(附属特別支援学校長) 附属学校副校園長12名							
②	附属学校スクールライフ委員会	◎ 増田正弘 ○ 古家真(附属参事) 関田義博(附属参事) 小寺康裕(附属参事) 山田有希子(附属幼稚園長) 及川研(附属世田谷小学校長) 小森伸一(附属小金井小学校長) 青山直志(附属大泉小学校長) 樺真智子(附属竹早小学校長) 前原健二(附属世田谷中学校長) 川島清美(附属小金井中学校長) 馬場哲生(附属竹早中学校長) 羽田邦弘(附属高校長) 雨宮真一(附属国際中学校長) 奥住秀之(附属特別支援学校長)							附属学校課長
10	高大接続による教員養成プログラム実施委員会	◎ 濱田豊彦 関田義博(附属参事) 羽田邦弘(附属高校長) 雨宮真一(附属国際中学校長) 附属学校教員2名	腰越滋	日高智彦	○ 植松 晴子	鈴木聡			学務部長

	委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	教職大学院	機構	事務局
11	教務委員会		◎ 腰越滋 倉持伸江	○ 疋田雅昭	FERJANI Ali	清水和高			学務課長
	① 諸資格取得指導部会		◎ 倉持伸江 君塚仁彦 柴田彩千子 前田稔	○ 及川英二郎 橋村修 近藤弘幸 澤田康徳	日高慎 新免蔵靖 荒川悦雄	古瀬政弘 草津祐介		吉富友恭	
12	教育実習委員会	古家真(附属参事) 関田義博(附属参事)	山田雅彦	◎ 高山芳樹	望月高昭	久保田浩史		櫻井真治 宮内卓也 林正太	学務課長
	① 教育実習実施部会	◎ 小嶋茂稔 古家真(附属参事) 関田義博(附属参事) 附属学校教員12名	品田瑞穂 遠座知恵 内海友加利	原瑞穂 臼倉美里	相原琢磨 荒川悦雄 西田尚央	小林大作 石井壽郎 齋藤従道	渡部竜也	○ 櫻井真治 宮内卓也 林正太 大森美湖	学務課長
13	学生委員会		村山拓	若林恵 ◎ 中村康子	相原琢磨 堂園いくみ	○ 中野孝紀 田中愛	中村純子		学生課長
14	学部入試委員会		◎ 林尚示 杉森伸吉	吉米地伸 押井那歩	佐藤尚毅 山ノ内毅彦	石橋史生 石井壽郎			○ 入試課長
15	学術情報会議	◎ 川手圭一	松尾直博 前田稔	○ 木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			総務部長
16	研究倫理委員会	◎ 國仙久雄			山本昭範	吉川文	鈴木秀人	○ 金子真理子 平山哲	
17	情報セキュリティ会議	◎ 國仙久雄 増田正弘	松尾直博	木村守	○ 竹内伸子 土橋一仁	欽矢悦朗			事務局長
18	環境安全委員会				狩野賢司 ○ 原田和雄 佐藤公法 ◎ 前田優				研究・連携推進課長 財務課長 施設課長
19	キャンパスライフ委員会	鈴木聡	犬塚美輪	角田慰子 長谷川真史 及川英二郎	山田道夫 堂園いくみ ◎ 小林晋平	笠原広一 ○ 佐藤耕平	矢嶋昭雄	上杉嘉見 平山哲	学務部長 総務部長
	① 心理的支援のための専門委員		岩崎美奈子 福井里江					大森美湖	
	② 相談員		古屋恵太 塚崎舞	川上知里 川崎誠司 高山芳樹 范文玲 李修京	鈴木新太郎 松本益明	花家彩子 仲宗根森敦			小島友紀子 七条太郎 渡部雪華
20	学生相談室	特命教授 4名 特命講師 3名	◎ 松尾直博						学生課長
21	学生キャリア支援室	◎ 鈴木聡 特命教授 13名	梶井芳明 倉持伸江 山田雅彦 平野麻衣子 小山英恵 村尾愛美 塚崎舞 前田稔 岩崎美奈子 犬塚美輪	伊藤かおり 鈴木猛 日高智彦 梅真智子 及川英二郎 井ノ口哲也 佐藤雄一郎 羽方康恵 浅野智彦 露木信介 若林恵 近藤弘幸	前田優 山本昭範 成田慎之介 森本康彦 渡辺理文 Voegeli Wolfgang 中野孝夫 原田和雄 高橋修 江原遥 樋山淳雄	小森伸一 野田清隆 尾関幸 石井健 高橋宏文 荒川雅子 花家彩子 奥村基生	原口るみ 中村和弘 渡部竜也 西村徳行 堀田龍也 鈴木琴子	橋本創一 金子真理子 見世千賀子 吉富友恭	キャリア支援課長
22	障がい学生支援室	◎ 鈴木聡	大鹿綾	及川英二郎	中野幸夫	朝野浩行		大森美湖 池田順之介	学務課長 学生課長
23	大学院第一種奨学金返還免除候補者 選考協議会	学長 ◎ 鈴木聡	松尾直博 澤隆史	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗			学生課長
24	利益相反会議	◎ 國仙久雄	松尾直博	木村守	土橋一仁	欽矢悦朗	濱田豊彦	川手圭一	事務局長 財務・研究推進部長

V－(5) 令和7年度収入・支出予算額

(単位:千円)

区 分	令和7年度 当初予算	令和7年度 補正予算	令和8年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
(収入の部)	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
自己収入	3,742,035	3,788,336	3,763,026	20,991	
学生納付金	3,417,675	3,421,612	3,426,538	8,863	
授業料収入	2,972,092	2,972,092	2,965,277	△ 6,815	
授業料収入減(休学・除籍)	△ 74,114	△ 57,644	△ 61,476	12,638	
授業料収入減(定員未充足分)	0	△ 7,880	0	0	
入学料収入	411,353	406,700	414,962	3,609	
検定料収入	108,344	108,344	107,775	△ 569	
その他の収入	324,360	366,724	336,488	12,128	
職員宿舍貸付料収入	59,548	62,868	66,390	6,842	
寄宿料収入	16,974	17,599	17,101	127	
学校財産貸付料収入	161,152	157,970	164,351	3,199	
刊行物等受払代	983	983	811	△ 172	
講習料収入	864	5,151	1,195	331	
不用物品売払代	179	179	0	△ 179	
大学入試センター試験実施経費収入	10,808	10,808	10,897	89	
科学研究費補助金等間接経費収入	51,000	43,390	51,000	0	
受託研究・共同研究間接経費収入	2,000	17,518	2,000	0	
雑入	20,852	50,258	22,743	1,891	
運営費交付金	7,609,209	7,961,631	7,921,233	312,024	
収入計	11,351,244	11,749,968	11,684,259	333,015	

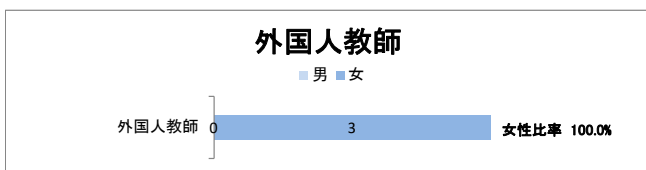
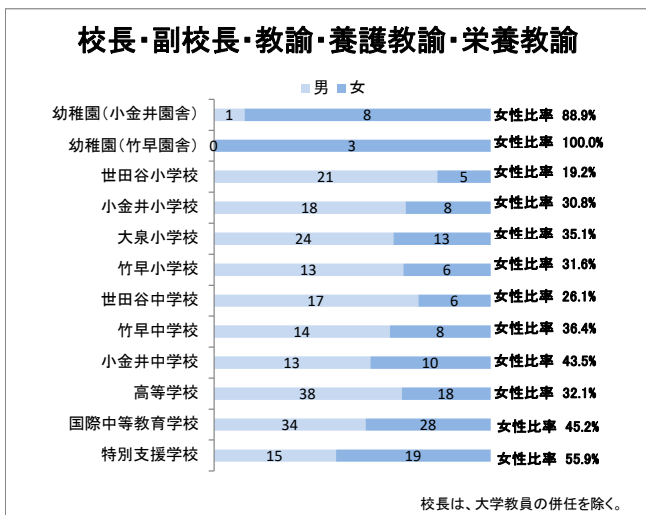
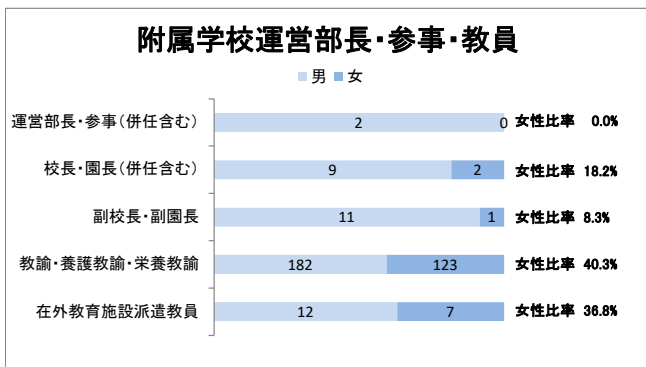
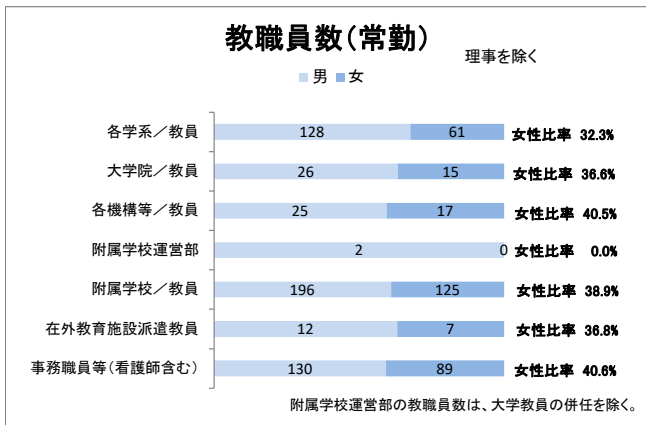
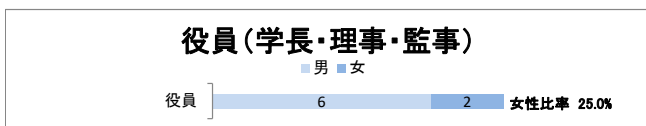
(単位:千円)

区 分	令和7年度 当初予算	令和7年度 補正予算	令和8年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
(支出の部)	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
大学分	7,490,062	7,509,692	7,774,183	284,121	
人件費	5,892,402	5,933,391	6,099,903	207,501	
役員人件費	69,073	69,945	93,315	24,242	
教員人件費	3,002,372	3,041,227	3,025,120	22,748	
職員人件費	1,703,288	1,727,194	1,721,488	18,200	
退職手当	262,492	262,492	404,046	141,554	
外国人教師給与	33,443	33,443	35,698	2,255	
外国人研究員給与	0	0	0	0	
非常勤講師給与	521,591	498,947	560,638	39,047	
非常勤職員給与	300,143	300,143	259,598	△ 40,545	
物件費	1,597,660	1,576,301	1,674,280	76,620	
教育経費	571,250	572,600	592,133	20,883	
うち授業料免除実施経費	(39,167)	(53,319)	(69,119)	(29,952)	
研究経費	163,669	156,006	217,847	54,178	
教育研究支援経費	166,508	166,508	174,436	7,928	
一般管理費	696,233	681,187	689,864	△ 6,369	
附属学校分	3,676,120	3,773,041	3,725,015	48,895	
教員人件費	3,075,139	3,174,147	3,173,592	98,453	
非常勤講師給与	91,603	97,721	91,603	0	
教育経費	509,378	501,173	459,820	△ 49,558	
連合大学院分	92,061	86,295	92,061	0	
教育経費	92,061	86,295	92,061	0	
トップマネジメント経費	83,000	83,000	83,000	0	
調整費	10,000	52,674	10,000	0	
業務達成基準適用事業	0	245,267	0	0	
大学運営DX推進事業	0	100,718	0	0	
教育研究環境緊急整備事業	0	68,475	0	0	
設備省エネ化緊急対策事業	0	46,254	0	0	
設備マスタープラン推進事業	0	15,220	0	0	
附属学校教育安全環境管理整備事業	0	14,600	0	0	
支出計	11,351,244	11,749,968	11,684,259	333,015	

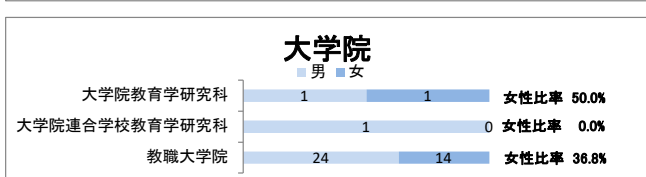
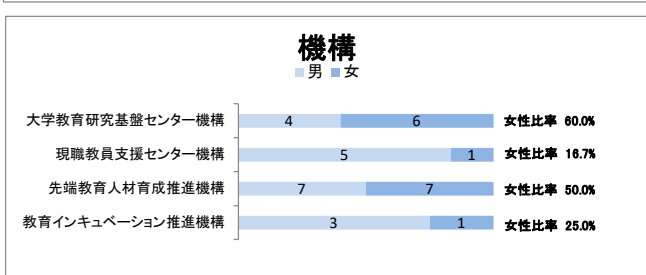
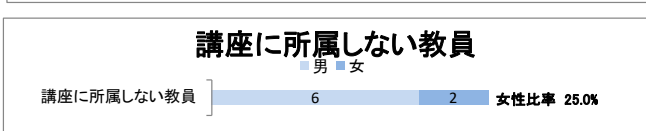
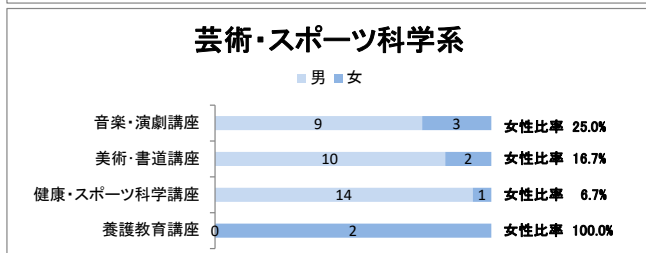
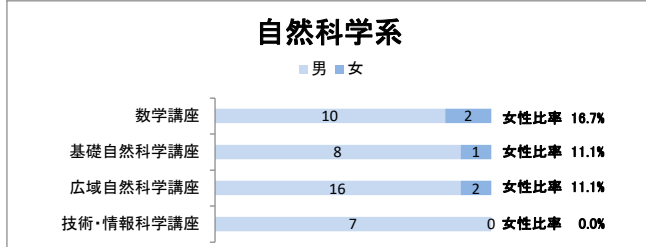
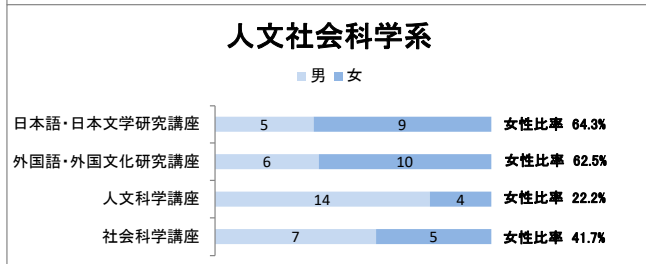
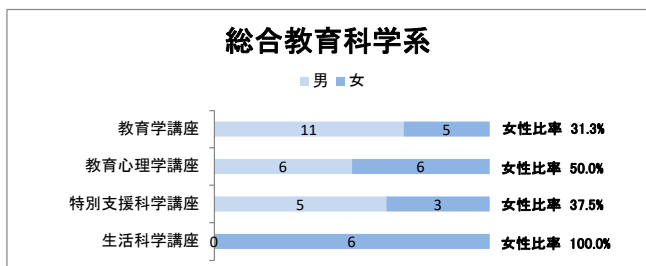
※本収支予算額は、運営費交付金対象事業を対象としており、受託事業等対象事業、施設整備・設備整備費対象事業等は含まない。
※単位未満四捨五入のため、合計額が合わない場合がある。

V-(6)男女共同参画の現状

①役員・教職員の女性比率



②講座・機構等別女性比率



令和7年10月1日現在
大学教員には、役員を含めない。
教員数は専任教員のみで、併任者及び兼務者を除く。

③講座・機構等別女性比率

<教育学部> (理事除く)

学部	講座	教授				准教授				講師・助教				計			
		計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
総合 教育科学 系	教育学講座	6	5	1	16.7	9	5	4	44.4	1	1	0	0.0	16	11	5	31.3
	教育心理学講座	8	5	3	37.5	1	0	1	100.0	3	1	2	66.7	12	6	6	50.0
	特別支援科学講座	2	2	0	0.0	4	3	1	25.0	2	0	2	100.0	8	5	3	37.5
	生活科学講座	2	0	2	100.0	2	0	2	100.0	2	0	2	100.0	6	0	6	100.0
	計	18	12	6	33.3	16	8	8	50.0	8	2	6	75.0	42	22	20	47.6
人文社会 科学系	日本語・日本文学研究講座	6	2	4	66.7	5	2	3	60.0	3	1	2	66.7	14	5	9	64.3
	外国語・外国文化研究講座	9	5	4	44.4	4	1	3	75.0	3	0	3	100.0	16	6	10	62.5
	人文科学講座	11	9	2	18.2	6	5	1	16.7	1	0	1	100.0	18	14	4	22.2
	社会科学講座	7	5	2	28.6	3	2	1	33.3	2	0	2	100.0	12	7	5	41.7
	計	33	21	12	36.4	18	10	8	44.4	9	1	8	88.9	60	32	28	46.7
自然 科学系	数学講座	5	4	1	20.0	4	3	1	25.0	3	3	0	0.0	12	10	2	16.7
	基礎自然科学講座	5	4	1	20.0	3	3	0	0.0	1	1	0	0.0	9	8	1	11.1
	広域自然科学講座	9	8	1	11.1	6	5	1	16.7	3	3	0	0.0	18	16	2	11.1
	技術・情報科学講座	5	5	0	0.0	2	2	0	0.0	0	0	0	-	7	7	0	0.0
	計	24	21	3	12.5	15	13	2	13.3	7	7	0	0.0	46	41	5	10.9
芸術・ 科学ス ポーツ	音楽・演劇講座	8	7	1	12.5	4	2	2	50.0	0	0	0	-	12	9	3	25.0
	美術・書道講座	9	8	1	11.1	2	2	0	0.0	1	0	1	-	12	10	2	16.7
	健康・スポーツ科学講座	6	6	0	0.0	7	7	0	0.0	2	1	1	50.0	15	14	1	6.7
	養護教育講座	1	0	1	100.0	0	0	0	-	1	0	1	-	2	0	2	100.0
	計	24	21	3	12.5	13	11	2	15.4	4	1	3	75.0	41	33	8	19.5
講座に所属しない教員		2	2	0	0.0	0	0	0	-	6	4	2	33.3	8	6	2	25.0
教育学部 計		101	77	24	23.8	62	42	20	32.3	34	15	19	55.9	197	134	63	32.0
機構	大学教育研究基盤センター機構	7	4	3	42.9	3	0	3	100.0	0	0	0	-	10	4	6	60.0
	現職教員支援センター機構	5	5	0	0.0	1	0	1	100.0	0	0	0	-	6	5	1	16.7
	先端教育人材育成推進機構	7	6	1	14.3	7	1	6	85.7	0	0	0	-	14	7	7	50.0
	教育インキュベーション推進機構	1	1	0	0.0	2	1	1	50.0	1	1	0	0.0	4	3	1	25.0
	計	20	16	4	20.0	13	2	11	84.6	1	1	0	0.0	34	19	15	44.1
大学 学院	大学院教育学研究科	2	1	1	50.0	0	0	0	-	0	0	0	-	2	1	1	50.0
	大学院連合学校教育学研究科	1	1	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-	1	1	0	0.0
	教職大学院	23	16	7	30.4	13	7	6	46.2	2	1	1	50.0	38	24	14	36.8
	計	26	18	8	30.8	13	7	6	46.2	2	1	1	50.0	41	26	15	36.6
機構・大学院 計		46	34	12	26.1	26	9	17	65.4	3	2	1	33.3	75	45	30	40.0
総 計		147	111	36	24.5	88	51	37	42.0	37	17	20	54.1	272	179	93	34.2

④過去5年間の女性比率の状況

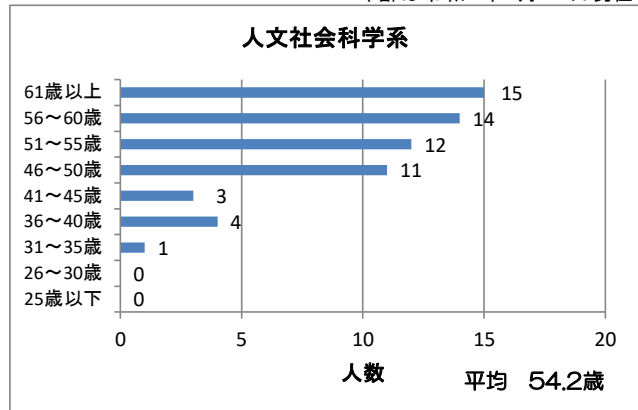
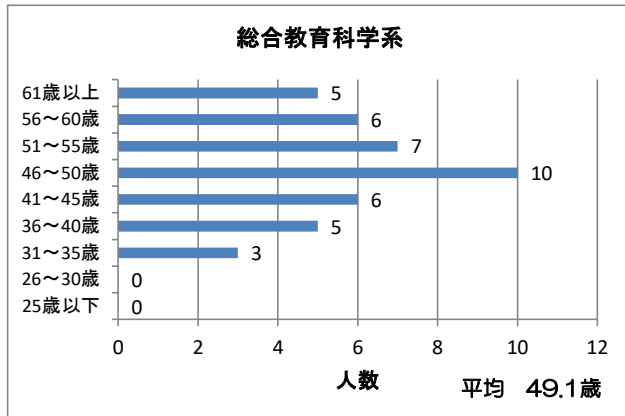
	令和3年10月1日現在				令和4年10月1日現在				令和5年10月1日現在				令和6年10月1日現在				令和7年10月1日現在			
	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
大学教員(常勤) (理事除く)	279	200	79	28.3	263	189	74	28.1	277	189	88	31.8	274	183	91	33.2	272	179	93	34.2
事務職員等(常勤)	210	129	81	38.6	214	134	80	37.4	222	136	86	38.7	228	139	89	39.0	219	130	89	40.6
附属学校運営部・ 附属学校教員(常勤)	323	199	124	38.4	324	198	126	38.9	320	201	119	37.2	315	196	119	37.8	323	198	125	38.7
計	812	528	284	35.0	801	521	280	35.0	819	526	293	35.8	817	518	299	36.6	814	507	307	37.7

附属学校運営部・附属学校教員(常勤)には、在外教育施設派遣教員を除く。

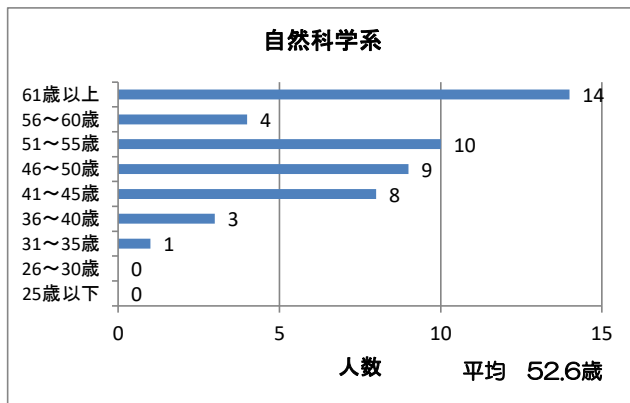
附属学校運営部には、大学教員の併任を除く。

V-(7)教職員の年齢構成

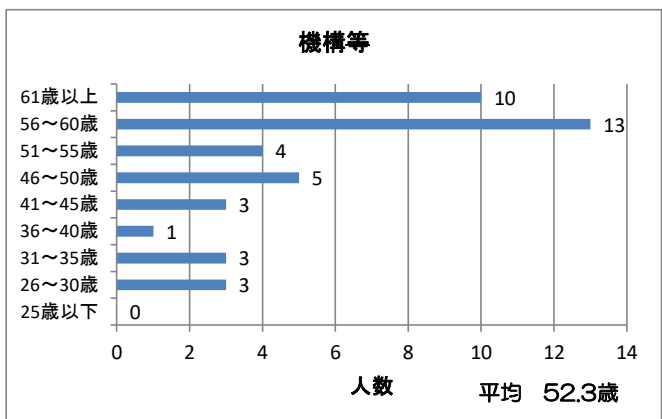
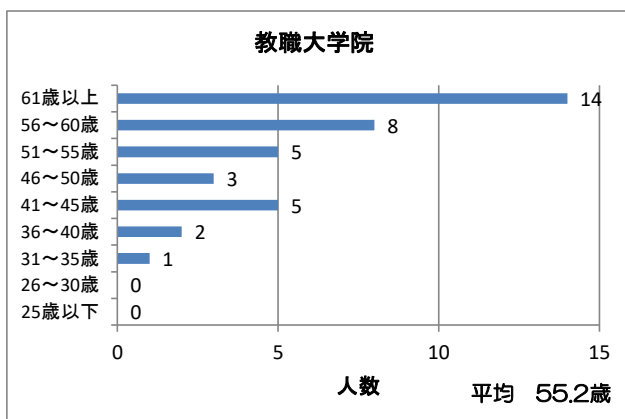
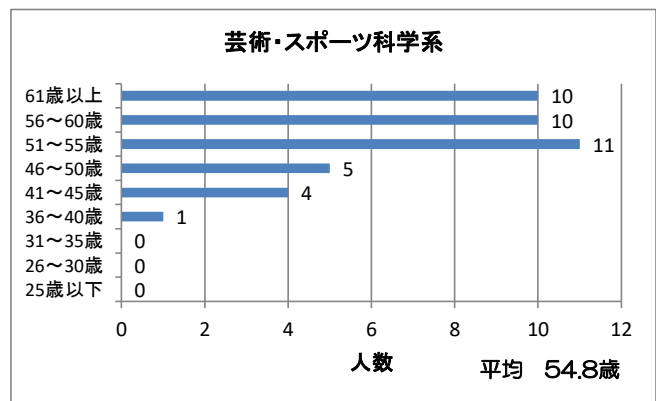
常勤教職員人数(理事除く)は令和7年10月1日現在
年齢は令和8年3月31日現在



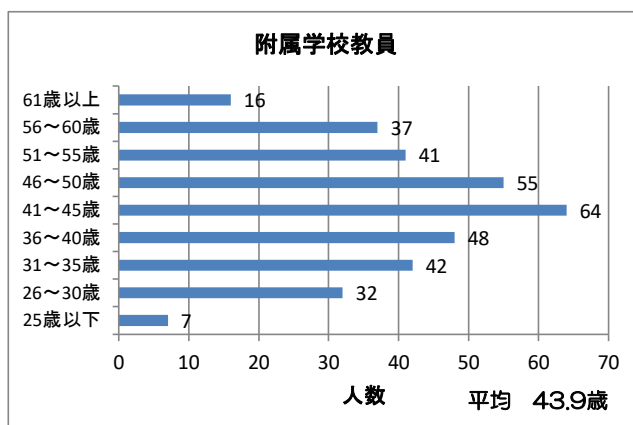
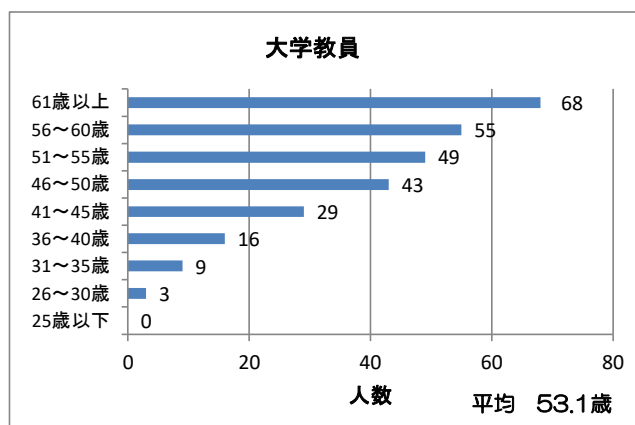
外国人教師を含む。



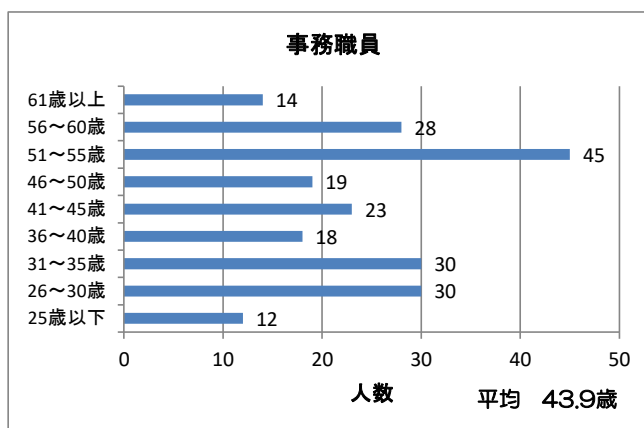
大学院教育学研究科及び大学院連合学校教育学研究科を含む。



教育学部及び障がい学生支援室を含む。



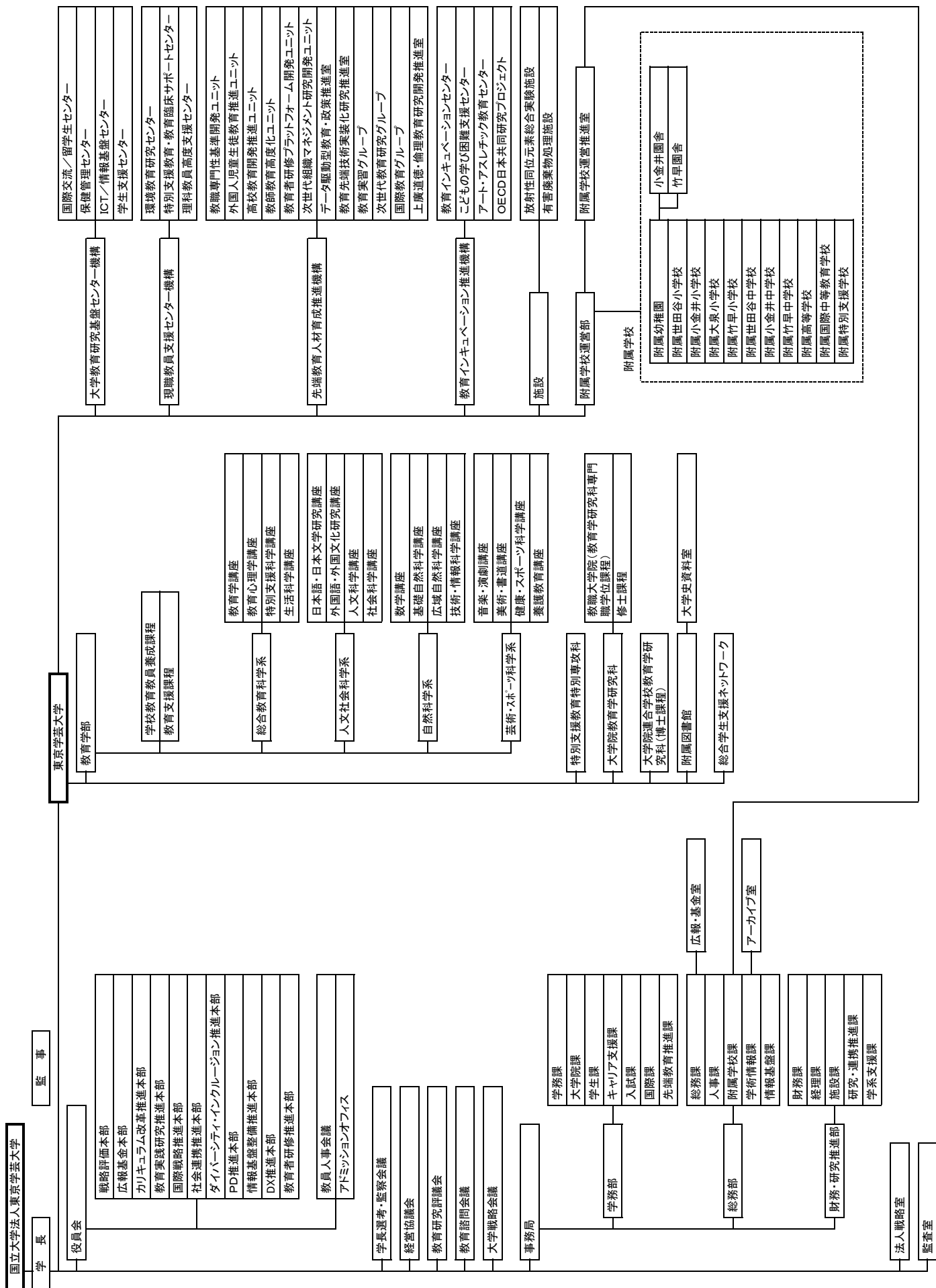
運営参事を含む。ただし、大学教員の併任を除く。
在外教育施設派遣教員及び再雇用職員を含む。



再雇用職員を含む。

付：關係資料

機 構 図（令和8年度4月1日現在）



(2) 役職員

令和8年5月1日現在

役員等

学長	佐々木 幸 寿
理事・副学長(全体統括・附属学校統括担当)	君 塚 仁 彦
理事・副学長(教育・研究・現職研修担当)	矢 嶋 昭 雄
理事・副学長(総務・財務・労務担当)・事務局長	高 橋 正 敏
理事(大学運営担当)	森 富 子
理事(学校運営担当)	栗 原 卯田子
監事	木 田 幸 紀
監事	森 本 周 子
副学長(附属学校担当)	増 田 正 弘
副学長(先端教育人材育成推進・F U事業・情報担当)	堀 田 龍 也
副学長(学生支援・連合大学院担当)	鈴 木 聡
副学長(学部教育・国際担当)	木 村 守
副学長(法人戦略担当)・総務部長	清 水 研 司
副学長(広報・基金・インキュベーション推進・社会連携担当)	金 子 嘉 宏
副学長(大学院修士課程・入試担当)	中 野 幸 夫
副学長(カリキュラム・研究・ダイバーシティ推進担当)	犬 塚 美 輪

学長補佐

総合教育科学系	柴 田 彩千子
総合教育科学系	関 口 貴 裕
総合教育科学系	倉 持 伸 江
人文社会科学系	齋 藤 ひろみ
人文社会科学系	日 高 智 彦
自然科学系	小 林 晋 平
芸術・スポーツ科学系	中 地 雅 之
教職大学院	浅 野 あい子
教職大学院	大 谷 忠
教職大学院	西 村 圭 一
教職大学院	藤 野 智 子
教職大学院	吉 田 伊津美
教育インキュベーション推進機構	荻 上 健太郎
先端教育人材育成推進機構	大 塚 千 尋

学系等

総合教育科学系長	松 尾 直 博
人文社会科学系長	菅 美 弥
自然科学系長	土 橋 一 仁
芸術・スポーツ科学系長	小 森 伸 一
大学院連合学校教育学研究科長	関 口 貴 裕
附属図書館長	君 塚 仁 彦

機構長・センター長等

大学教育研究基盤センター機構長	君 塚 仁 彦
国際交流／留学生センター長	木 村 守
保健管理センター長	君 塚 仁 彦
I C T／情報基盤センター長	木 村 守
学生支援センター長	鈴 木 聡
現職教員支援センター機構長	中 野 幸 夫
環境教育研究センター長	矢 嶋 昭 雄
特別支援教育・教育臨床サポートセンター長	矢 嶋 昭 雄
理科教員高度支援センター長	中 野 幸 夫
先端教育人材育成推進機構長	堀 田 龍 也
教職専門性基準開発ユニット長	関 口 貴 裕
外国人児童生徒教育推進ユニット長	齋 藤 ひろみ
高校教育開発推進ユニット長	西 村 圭 一
データ駆動型教育・政策推進室長	柴 田 彩千子
教育先端技術実装化研究推進室長	大 谷 忠
教師教育高度化ユニット長	吉 田 伊津美
教育者研修プラットフォーム開発ユニット長	小 林 晋 平
次世代組織マネジメント研究開発ユニット長	浅 野 あい子
教育インキュベーション推進機構長	金 子 嘉 宏
教育インキュベーションセンター長	荻 上 健太郎
こどもの学び困難支援センター長	倉 持 伸 江
アート・アスレチック教育センター長	中 地 雅 之
有害廃棄物処理施設長	土 橋 一 仁
放射性同位元素総合実験施設長	國 仙 久 雄

学系・教職大学院・機構選出評議員

総合教育科学系	柴 田 彩千子
人文社会科学系	近 藤 弘 幸
自然科学系	前 田 優
芸術・スポーツ科学系	清 水 和 高
教職大学院	藤 野 智 子
先端教育人材育成推進機構	岩 田 康 之

附属学校運営部

附属学校運営部長	増 田 正 弘
附属学校運営参事	関 田 義 博
附属学校運営参事	小 寺 康 裕
附属学校運営参事	神 田 恭 司

附属学校

附属幼稚園長	山 田 有希子
附属幼稚園竹早園舎長	椿 真智子
附属幼稚園副園長	山 崎 奈 美
附属世田谷小学校長	及 川 研
附属世田谷小学校副校長	齊 藤 豊
附属小金井小学校長	西 村 徳 行
附属小金井小学校副校長	濱 田 信 哉
附属大泉小学校長	青 山 直 志
附属大泉小学校副校長	細 井 宏 一
附属竹早小学校長	椿 真智子
附属竹早小学校副校長	佐 藤 洋 平
附属世田谷中学校長	増 田 謙太郎
附属世田谷中学校副校長	高 田 太 樹
附属小金井中学校長	川 島 清 美
附属小金井中学校副校長	村 上 潤
附属竹早中学校長	岩 田 康 之
附属竹早中学校副校長	浦 山 浩 史
附属高等学校長	羽 田 邦 弘
附属高等学校副校長	大 谷 晋 一
附属国際中等教育学校長	雨 宮 真 一
附属国際中等教育学校副校長	後 藤 貴 裕
附属国際中等教育学校副校長	山 根 正 博
附属特別支援学校長	奥 住 秀 之
附属特別支援学校副校長	中 村 昌 宏

事務局

事務局長	高 橋 正 敏
学務部長	志 摩 智 徳
学務課長	後 藤 智 和
大学院課長	鋤 柄 雄 之
学生課長	川 上 努
キャリア支援課長	小 島 格
入試課長	朝 生 慶 昭
国際課長	松 岡 晃 代
先端教育推進課長	小 勝 幸 治
総務部長	清 水 研 司
総務課長	石 井 智絵子
人事課長	伊 藤 雅 勝
附属学校課長	山 本 誠 哉
学術情報課長	鈴 木 剛 紀
情報基盤課長	鈴 木 有 史
財務・研究推進部長	出 塩 進
財務課長	平 島 由 梨
経理課長	井 上 知 巳
施設課長	坪 田 聡 子
研究・連携推進課長	佐 藤 健一郎
学系支援課長	杉 山 順 子

法人戦略室

法人戦略室長	中 澤 重 夫
--------	---------

監査室

監査室長	小 室 史 朗
------	---------

(3)第4期中期目標・中期計画

(前文)法人の基本的な目標

東京学芸大学は、「人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成すること」を目的として掲げている。世界規模で社会の持続可能性が問われる中で、日本の教員・教育支援者養成の中核的大学として、国民の期待に応え、有為の教育者を養成することは、本学の使命である。

第4期中期目標期間においては、教育を通してより良い社会への変革を主導する全国的拠点大学として、「先進的な取組を支え、新たな先進的な取組の創出を推進する組織マネジメント」により、「個人の幸福と社会の持続的発展に貢献できる教育者を養成」、「日本の学校教育の最先端化を先導する研究及び研修を実施」、「広く国内外において教育に関する研究成果を発信」することを目標とし、大学経営を行っていく。

(1)個人の幸福と社会の持続的発展に貢献できる教育者を養成

教学IRの成果を活用して、社会から求められている資質・能力を育成するため、エビデンスベースで教育活動及び入学選抜の改善に取り組む。

学部については、現代的教育課題に自律的・主体的に取り組むことのできる教員及び教育支援者を養成するため、教育組織を整備し、カリキュラム改訂を行う。

教職大学院及び修士課程については、令和元年度の組織再編の成果を検証し、より効果的な教育内容とするため、カリキュラムの見直しを行う。

(2)日本の学校教育の最先端化を先導する研究及び研修を実施

令和元年度に設置した教育インキュベーションセンターにおいて、外部資源を活用した研究及び研究成果の活用を推進するとともに、教育に関する社会課題を解決し、社会変革につながる研究を行う。

現職教員研修においては、学校現場の課題に先導的に対応する内容のコンテンツを充実させ、現職教員の資質・能力向上に貢献する。

(3)広く国内外において教育に関する研究成果を発信

教育委員会や学校、企業等のステークホルダーとの対話の場を積極的に設け、本学の教育研究活動を発信するとともに、様々なネットワークを通じて、本学及び日本の教育に関する研究成果を国内外に発信する。

(4)先進的な取組を支え、新たな先進的な取組の創出を推進する組織マネジメント

ステークホルダーからの意見を経営改善に活かしていくことや具体的改善へ繋げていく自己点検・評価の実施、戦略的な人員の配置等を通じた人的資源の効果的活用などの取組により、効果的な組織マネジメントを行う。

◆ 中期目標の期間

中期目標の期間は、令和4年4月1日～令和10年3月31日までの6年間とする。

中 期 目 標	中 期 計 画		評 価 指 標
I 教育研究の質の向上に関する事項	I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		
1 社会との共創	1 社会との共創に関する目標を達成するための措置		
(1)我が国の持続的な発展を志向し、目指すべき社会を見据えつつ、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を社会に対して積極的に発信することで社会からの人的・財政的投資を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築する。③	(1)世界規模で社会の持続可能性が問われる中で、個人の幸福と社会の持続的発展に貢献できる児童・生徒を育成する学校教育を実現する必要がある。その実現のため、変化が激しく予測困難な時代に対応することのできる力を児童・生徒に育成することができるとともに、学校教育をより良く変革することに自律的・主体的に取り組むことができる教師の育成が必要である。 そのような教師に必要な資質・能力とその資質・能力を育成するために必要な方策を研究により明らかにし、本学の学部・大学院教育、現職教員研修において必要な方策を取り入れる。	①令和4年度から令和6年度において、必要な資質・能力と育成するための方策を研究により、明らかにする。令和7年度から令和9年度においては、明らかにした方策を、本学の学部・大学院教育、現職教員研修において取り入れる。	
	(2)Society5.0における日本の学校教育の最先端化を目指し、令和元年度に、産官学の協働的な取り組みを促進するプラットフォームを運用して、教育におけるオープンイノベーションを先導的に進める目的で、教育インキュベーションセンターを設置した。 第4期中期目標期間においては、同センターの活動により、教育委員会や学校、企業等の外部機関と連携し、人的・財政的投資を活用して、研究成果の大学・学校等での活用を内容とする研究を推進し、成果を大学・学校等で活用する。	①教育インキュベーションセンターにおいて、教育委員会や学校、企業等の外部機関と連携し、人的・財政的投資を受ける契約を結んだプロジェクトで、成果が大学・学校等で活用されたプロジェクト件数を第4期中に8件以上とする。	

中期目標	中期計画	評価指標
(2)OECDのEducation2030プロジェクトと連携し、マルチステークホルダー（国内外の教員養成・研修・学校教育現場だけでなく、実社会の関係者も含む）による対話（エコシステム）を通して日本の教育の強みと新たな課題を見える化するとともに、既存の世界水準に適合し、日本の国際的役割を果たす、自律分散交流型の新しい教育研究推進システムを社会とともに創出し、学校教育・社会教育における新たな価値を先導的・実践的に創造し共有すること（コレクティブインパクト）を目指す。【独自】	(3)コレクティブインパクト（※1）をもたらしことを目的として、エコシステムを通じて、児童・生徒のエージェンシー（※2）とWell-being（※3）に焦点を当てた教育効果指標を開発する。また、教育効果指標に沿った新たなカリキュラムや教育実践モデルを開発するとともに、教育現場で活用し、コレクティブインパクトの効果を明らかにし、事業成果を国内外に発信する。 ※1コレクティブインパクト： セクターを超えた様々なステークホルダーとの対話を基盤としたシステムを通じて、新たな価値を先導的・実践的に創造し、社会と共有すること ※2エージェンシー： 自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく力 〔2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）より抜粋〕 ※3Well-being： 「OECDの国際報告書では、"well-being"を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働き（functioning）と潜在能力（capabilities）である」と定義している。」 〔国立教育政策研究所「PISA2015年調査『生徒のwell-being（生徒の「健やかさ・幸福度」）』報告書」より抜粋〕	①児童・生徒のエージェンシーとWell-beingに関する文献のレビューを行って整理し、児童・生徒のエージェンシーとWell-beingに焦点を当てた教育効果指標を令和7年度までに開発する。 ②新たなカリキュラムや教育実践モデルを第4期中に6か所以上の教育委員会で活用して、コレクティブインパクトの効果を測定するとともに、比較分析を行い、コレクティブインパクトをもたらしするための促進／阻害要因を明らかにする。 ③OECD Education2030の会議やウェブサイトにおける発表により、第4期中に24回以上国内外で事業成果を発信する。
2 教育	2 教育に関する目標を達成するための措置	
(1)医師や学校教員など、特定の職業に就く人材養成を目的とした課程において、当該職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、教育課程を高度化することで、当該職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。⑩	(4)学校教員の養成を主目的とする学校教育系と教育支援職を養成する教育支援系からなる教育学部において、有為の教育者を養成してきた。第4期においては、下記の取組を行い、引き続き、社会から求められている資質・能力を有する人材を育成する。 特に学部卒業生については、複数免許を取得した学生の学校教員就職とともに、教育支援職（※）への就職、また、大学院進学も含め、教育に関わる高度専門職業人となるためのキャリア形成を支援する。 ※教育支援職：「学び」の支援に関わる業務がある職、または、学校・教育現場における課題解決への提案、協働等を行っている業務がある職（具体例：スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、博物館学芸員、地方公務員など） 1) 教学IRの成果を活用して、エビデンスベースで教育課程、入学者選抜を改善する仕組みを検討し、令和5年度より、毎年度、教育課程及び入学者選抜の検証を行い、必要な改善に取り組む。 2) 現代的教育課題に自律的・主体的に取り組むことのできる教育者の養成と、小中連携を進める学校教育改革の動向に対応した複数免許取得の促進のため、令和5年度に学部のカリキュラム改訂を実施する。 3) 質の高い教育実習を実現するため、令和5年度より、eポートフォリオのデジタルデータを教育実習において活用する。 4) 志願者の大学入学後の学びについての理解を深め、入学後の効果的な学習につなげ、社会に求められる人材を育成するため、令和6年度より、より多面的・総合的な評価を行い、教員・教育支援職への意欲・適性をより重視した入学者選抜方法を、学部入試に導入する。	①令和5年度より、毎年度、教育課程及び入学者選抜の検証を行い、必要な改善に取り組む。 ②令和5年度に、現代的教育課題に対する知識の修得と課題解決に向けた自律性・主体性の育成を目指す「教育創成科目」の学校教育系と教育支援系への共通開設、履修基準の変更を内容としたカリキュラム改訂を実施する。 ③令和8、9年度の学校教育系の卒業生における、中学校教諭及び高等学校教諭免許の取得を卒業要件とする専攻の小学校教諭免許の取得率を、平成28年度から令和2年度卒業生の平均から倍増させ、平均29%以上とする。 ④令和5年度より、eポートフォリオのデジタルデータを、大学教員、附属学校教員、他の実習先の指導者が共有し、教育実習の指導において活用することを原則とする仕組みを構築し、運用する。 ⑤令和6年度より、教員・教育支援職への意欲・適性をより重視した入試方法を導入する。 ⑥第4期中の学校教育系卒業生に占める教員就職者を平均で60%以上に（進学者を卒業生から除き、在外教育施設への教員就職者及び保育士就職者は教員就職へ含める）。 ⑦第4期中の教育支援系卒業生に占める教育支援職への就職者を平均で70%以上に（進学者を卒業生から除き、教員への就職（在外教育施設への教員就職者を含む）は教育支援職への就職へ含める）。 ⑧第4期中の教育学部卒業生に占める教員、教育支援職への就職者及び進学者を平均で80%以上に（在外教育施設への教員就職者は教員就職へ含める）。

中期目標	中期計画	評価指標
	(5)令和元年度に大学院組織を再編し、教職大学院は新たに教科領域指導、特別支援教育の高度化、教育課題や現代的テーマに対応するためのプログラムを拡充し、学校教育に関するニーズに広く対応できる総合型の教職大学院となり、高度な実践的指導力を備えたスクールリーダーとなる教員を養成している。 第4期においては、下記の取組を行い、引き続き、社会から求められている資質・能力を有する人材を育成する。 1)令和元年度からの新たな教職大学院における人材養成の成果の検証を行い、カリキュラムの見直しを実施するとともに、教学IRの成果を活用して、エビデンスベースで教育課程を改善する仕組みを検討し、令和5年度より、毎年度、教育課程の検証を行い、必要な改善に取り組む。	①令和元年度からの新たな教職大学院における人材養成の成果の検証を行い、カリキュラムの見直しを実施するとともに、令和5年度より、毎年度、教育課程の検証を行い、必要な改善に取り組む。 ②第4期中の教職大学院修了生に占める教員就職者を平均で80%以上にする(無期雇用の者及び有期雇用の者のうち雇用契約期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者を教員就職者とする。在外教育施設への教員就職者は教員就職へ含める。現職教員・進学者・留学生を修了生から除く)。
	(6)令和元年度に大学院組織を再編し、未来の教育を創造することのできる専門性と研究力を備えた教育支援人材を養成する修士課程となった。 第4期においては、下記の取組を行い、引き続き、社会から求められている資質・能力を有する人材を育成する。 1)令和元年度からの新たな修士課程における人材養成の成果の検証を行い、カリキュラムの見直しを実施するとともに、教学IRの成果を活用して、エビデンスベースで教育課程を改善する仕組みを検討し、令和5年度より、毎年度、教育課程の検証を行い、必要な改善に取り組む。	①令和元年度からの新たな修士課程における人材養成の成果の検証を行い、カリキュラムの見直しを実施するとともに、令和5年度より、毎年度、教育課程の検証を行い、必要な改善に取り組む。 ②第4期中の修士課程修了生に占める教育支援職への就職者、研究職への就職者及び進学者を平均で75%以上にする(教員を教育支援職への就職に含み、現職教員及び留学生を修了生から除く)。
	(7)大学の研究成果である多数の教職員向けコンテンツをアーカイブし、よりわかりやすく、探しやすい形で学外へ発信する新たなプラットフォームを構築し、新たなコンテンツを開発・発信していく。	①教職員向けコンテンツを、よりわかりやすく、探しやすい形で学外へ発信する新たなプラットフォームを構築し、本学公式ウェブサイトからアクセスできるようにする。 ②第4期中において、学校現場の課題に先導的に対応する内容の新たな動画コンテンツを年度平均5個開発し、プラットフォームに掲載して、発信する。
(2)データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、現職教員向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、現職教員のキャリアアップを支援する。⑪	(8)令和3年度より、教育委員会と連携して、現職教員向け研修として、教職大学院の科目を受講できる取組を試行的に開始している。第4期においては、この取組を本格実施し、現職教員の資質・能力の向上に貢献する。	①教育委員会との連携に基づき、現職教員向け研修として、教職大学院の科目を受講できる取組を継続的に実施し、第4期中に540名(累計)以上の科目受講者とする。
3 研究	3 研究に関する目標を達成するための措置	
(1)地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮	(9)教育を受けること自体が困難なこどもたちへの支援強化が必要な中、こどもの学び困難支援センターにおいて、貧困、虐待、不登校などにより教育を受けることが困難なこどもたちの課題を解決するために、事例のアーカイブを構築するとともに、学校のあり方や教員・教育支援職の養成・研修のあり方等を研究・開発し、その成果を大学、教育委員会、学校現場等に発信・展開する。	①支援事例を集積・類型化し、令和6年度を目途にアーカイブを構築する。 ②養成・研修の教材をモデルフィールドの教育委員会等と協働で開発・評価を行い、第4期中に5か所以上の教育委員会等で活用を行う。
	(10)高等学校における探究的な学びを実現するための、教科及び教科横断的な学びに関する授業モデルや探究プログラム、教師教育モデルを開発し、高等学校現場でのモデルやプログラムの実践へつなげるとともに、探究型授業の実践的指導力を育成するため、新たな科目を教職大学院に設ける。	①複数の都道府県等教育委員会と連携し、教科及び教科横断的な学びに関する授業モデルや探究プログラム、教師教育モデルを開発し、第4期中に8か所以上の教育委員会で活用する。 ②令和6年度より、教職大学院において探究型授業の実践的指導力を育成する科目を開発する。
	(11)急激な社会変化やSDGs(持続可能な開発目標)の実現を目指す社会動向も踏まえ、より良い社会への変革を主導するため、機動的に、教職員が協働して研究できる体制を整備し、近未来の教育や教員養成制度等の改革へ向けた研究を行う。	①学内の既設センター組織の再編を実施し、令和8年度までに新たなセンター組織とし、新たなセンターにおいて近未来の教育や教員養成制度等の改革へ向けた研究を行う。

中期目標	中期計画	評価指標
(2)若手、女性、外国人など研究者の多様性を高めることで、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築する。⑪	(12)組織として新たな価値を創出し、発展し続けるため、若手研究者への研究支援や男女共同参画へ向けた取組を引き続き実施するとともに、令和5年度よりテニユアトラック制度を導入し、若手研究者(40歳未満)の採用を拡大する。	①若手教員等研究支援費による若手研究者への支援件数を第4期中に40件以上とする。 ②第3期に引き続いて、第4期においても育児等支援制度の充実や意識啓発活動の推進、女性の積極的な採用などの男女共同参画へ向けた取組を引き続き実施する。 ③令和5年度からのテニユアトラック制度の導入により、令和5年度から令和9年度までの常勤研究者の採用における若手研究者の採用比率を50%以上(研究プロジェクトでの採用、クロスアポイントメント制度による採用、専ら附属学校運営に携わる者の採用は除く)にする。
4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項	4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置	
(1)学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、全国あるいは地域における先進的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。(附属学校)⑩	(13)大学と附属学校が連携して、各地区の附属学校において特色ある教育研究を実施し、その成果を発信するとともに、学生のデジタルデータ化した学びの記録を大学教員と附属学校教員が共有し、教育実習の見える化を行うことで、個々の資質・能力や経験に応じたより質の高い教育実習を実現する。 また、教職大学院生の高度な実践力育成のため、附属学校園を教職大学院生の教育実践の場として開発し、大学教員と附属学校教員が連携して、それぞれの教職大学院生の課題に合った教育実践を行う。 大学教員の教育実践に関する理解向上と、附属学校教員の研究能力向上へ向けて、大学教員と附属学校教員が共同した形での研究プロジェクトを推進する。	①各地区の附属学校における特色ある教育研究の実施状況や成果を毎年度まとめ、本学公式ウェブサイトの附属学校園のページに毎年度公表する。 ②令和5年度より、教育実習において、eポートフォリオのデジタルデータを、大学教員、及び附属学校教員、他の実習先の指導者が共有し、教育実習の指導において活用することを原則とする仕組みを構築し、運用する。(再掲) ③令和6年度より、附属学校園を本学教職大学院生の教育実践の場として、教職大学院生の課題に応じた教育実践を実施するシステムを構築する。 ④大学として積極的に推進すべき教育実践に関する研究を大学教員と附属学校教員が連携して進めるプロジェクトの、第4期中の実施件数を70件以上とする。
II 業務運営の改善及び効率化に関する事項	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1)内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。⑫	(14)内部統制機能の強化と新たな視点からの業務改善を行うため、監事は、原則として毎年度、自己点検・評価結果に対して、監事独自の重点課題を設定し、当該課題を調査し、調査結果を学長へ報告する。大学は当該調査結果を受け、調査結果を検討し、業務改善へ結び付けていく。	①原則として毎年度、監事による調査結果を検討し、業務改善に取り組む。
	(15)学長のリーダーシップのもとで、外部の知見を経営活動の改善に活かすため、学長の指示した重点課題について、副学長が、ステークホルダーより課題についての意見をヒアリングする。ヒアリング結果は一元的に集約し、学長・副学長間で共有・検討し、経営活動の改善へ結び付けていく。	①毎年度、ヒアリング結果を受けて、経営活動の改善に取り組む。
(2)大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。⑬	(16)本学の教育研究の基盤となる施設の基本的な計画である「キャンパスマスタープラン」や「文部科学省インフラ長寿命化計画」を踏まえ策定した「東京学芸大学インフラ長寿命化計画(行動計画、個別施設計画)」に基づき、計画的かつ戦略的な施設の整備・活用を進めるとともに施設の長寿命化を実施する。 また、保有施設・設備の積極的な有効活用を実施する。 設備の整備については、大学の機能強化に資する設備を計画的に整備すべく、各部署の要望を踏まえつつマスタープランを策定し、社会情勢や財政状況等を踏まえて改定しながら整備を進める。	①本学の「行動計画」及び「個別施設計画」に基づいた基盤整備実施。 ②学内の空きスペースを調整し、外部資金を獲得した研究プロジェクトの研究実施スペースとして利用できるオープンラボスペース(仮称)を令和7年度までに確保・整備し、令和8年度より研究プロジェクトを当該ラボスペースに、受け入れる。 ③設備マスタープランに基づく基盤的設備の整備実施。

中期目標	中期計画	
		評価指標
Ⅲ 財務内容の改善に関する事項	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。 ^{②③}	(17) 科学研究費補助金をはじめとした競争的資金の獲得に向けた従来の取組の検証を行いつつ、競争的資金の受入れ拡大へ向けてより効果的な取組を実施する。Society5.0における日本の学校教育の最先端化を目指し、令和元年度に設置した教育インキュベーションセンターの活動により、教育委員会や学校、企業等の外部機関と連携し、人的・財政的投資を活用した研究を推進するとともに、教育研究活動に支障のない範囲で土地をはじめとした保有資産の学外への積極的な有効活用等により、財源の多様化を進める。 一方で、学内の資源配分の最適化を進めるため、健全な財務状況の維持に向けた財務データの分析を踏まえつつ、学長裁量経費による取組の成果検証により、学内の資源配分の改善を行う。	① 第4期中の、外部資金受入額(附属学校への寄附金を除く)及び雑収入額の合計額を年度平均5億円以上にする。 ② 学長裁量経費による主な取組等におけるエビデンスベースの成果の検証を、理事や副学長を含めた体制で毎年度実施することなどを通じ、事業の廃止を含めた見直しを行うなど、学内の資源配分の必要な改善に取り組む。
Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項	Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。 ^④	(18) エビデンスベースでの経営改善を実現するため、経営協議会の意見を取り入れつつ、教育研究に関するデータや、財務等に関する経営情報や教学IRの成果などの客観的なデータも踏まえて、具体的改善行動を計画し、その後の改善状況をフォローアップする形で、毎年度、戦略評価推進本部を中心に学長・副学長が主体的に関わる体制で、自己点検・評価を実施し、結果を本学公式ウェブサイトで公表する。 (19) 社会の持続的発展に貢献するため、社会からの視点で経営活動を改善するため、教育委員会や学校、企業等のステークホルダーとの対話の場を積極的に設け、本学のエビデンスを含めた経営活動の成果を発信するとともに、経営活動への意見をヒアリングする。ヒアリング結果は一元的に集約し、学長・副学長間で共有・検討し、経営活動の改善へ結び付けていく。	① 客観的なデータを踏まえて、具体的改善行動を計画し、その後の改善状況をフォローアップする形で、毎年度、自己点検・評価を実施し、結果を本学公式ウェブサイトで公表する。 ② 毎年度、ヒアリング結果を受けて、経営活動の改善に取り組む。
Ⅴ その他業務運営に関する重要事項	Ⅴ その他業務運営に関する重要事項に関する目標を達成するためにとるべき措置	
(1) AI・RPA (Robotic Process Automation)をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。 ^⑤	(20) デジタルキャンパスの推進を目指すべく、社会の情勢やステークホルダーの状況に鑑み、「ペーパーレス化・脱押印の実現」「オンライン・コミュニケーションの推進」「リモートワークの実施環境の整備」等を行い、業務全般の継続性の確保と業務実施の高度化・効率化を実現するとともに、多様で柔軟な働き方が選択できるよう体制を整備する。 また、情報セキュリティの確保のため、ガイドラインの整備や学生・教職員への研修等を継続的に行う。	① 第4期中に、学内委員会のうち80%以上でペーパーレスでの会議を実現する。 ② 第4期中に、学内決裁手続きにおいて、原則として押印なし、ペーパーレスとする仕組みを整備・実施する。 ③ 第4期中に、リモートワークの実施環境と制度を整備する。 ④ 情報セキュリティに関するガイドラインの整備を行うとともに、毎年度、教職員及び学生を対象としたセキュリティ研修を実施する。

※中期目標の末尾の番号は、「第4期中期目標期間における国立大学法人中期目標大綱」において選択した大綱の番号

(4)大学の目的

● 学則第1条

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的とする。

(5)行動規範

● 国立大学法人東京学芸大学行動規範

平成 22 年 3 月 24 日制定

私たち国立大学法人東京学芸大学の役員及び職員は、教員養成を担う大学の一員であることを深く自覚し、次の諸点を行動規範として、自らの行動を厳しく律します。

1. 私たちは、日本の諸法令や本学の諸規程を遵守し、良識に従って行動します。
2. 私たちは、職場や社会において、人権を尊重し、あらゆる差別やハラスメントを許さず、行動します。
3. 私たちは、国民から付託された資産や資金を適正かつ効率的に管理し、経費の不正使用がないようにします。
4. 私たちは、高い倫理観をもって教育研究活動及びそれを支える活動に従事し、教育研究活動上のあらゆる不正行為がないようにします。
5. 私たちは、児童生徒・学生・職員の個人情報適切に保護するとともに、情報の開示に積極的に努めます。
6. 私たちは、本学の児童生徒や学生の教育を受ける権利を保障し、指導責任を果たすように努めます。
7. 私たちは、入学者の選抜を公平・公正かつ厳正に行うと共に、危機管理意識を高めてあらゆる事柄に対処します。
8. 私たちは、さまざまな関係者の意見に真摯に耳を傾け、誠意をもってこれに対応できるように努めます。
9. 私たちは、地域社会や諸機関・諸団体と相互信頼に基づくパートナーシップを築き、積極的に社会貢献できるよう努めます。
10. 私たちは、職場の環境改善に努めるとともに、職場における良好な人間関係を築くように努めます。

(6)点検評価規程

国立大学法人東京学芸大学点検評価規程

平成22年 5 月13日

規 程 第 1 9 号

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 東京学芸大学学則（平成16年学則第 2 号）第 2 条に規定する大学が自ら行う点検及び評価（以下「自己点検評価」という。）、学校教育法（昭和22年法律第26号）第109条第 2 項及び第 3 項に規定する認証評価（以下「認証評価」という。）、国立大学法人法（平成15年法律第112号）第31条の 2 第 1 項に規定する中期目標の期間における業務の実績に関する評価（以下「法人評価」という。）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）第22条の 8 に規定する認定課程の自己点検評価（以下「教職課程評価」という。）の実施等に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

第 2 章 実施・責任体制

(統括責任者)

第 2 条 自己点検評価、認証評価、法人評価及び教職課程評価（以下「点検評価」という。）に関する業務を統括し、最終責任を負う者として、統括責任者を置く。

2 統括責任者は、学長をもって充てる。

(点検評価責任者)

第 3 条 点検評価の責任者として、点検評価責任者を置く。

2 点検評価責任者は、理事・副学長（全体統括・総務・社会連携担当）をもって充てる。

(大学での実施体制)

第 4 条 大学において点検評価に必要な業務は、役員会の求めに応じて、全学戦略・広報本部（以下「本部」という。）が行う。

(附属学校での実施体制)

第 5 条 附属学校において自己点検評価を実施する業務は、役員会の求めに応じて、附属学校運営会議（以下「運営会議」という。）が行う。

第 3 章 大学での実施

第 1 節 自己点検評価

(自己点検評価の実施)

第 6 条 自己点検評価は、次に掲げることについて、年度単位で実施するものとする。

(1) 大学における諸活動等の点検評価（大学における教育活動，研究活動，社会

貢献活動、国際交流活動及び大学運営（以下「大学における諸活動等」という。）についての組織的な状況に関する点検及び評価をいう。）

(2) 教員の総合的業績管理（大学教員に係る大学における諸活動等の状況について総合的に行う点検及び業績の管理をいう。）

（大学における諸活動等の点検評価）

第7条 大学における諸活動等の点検評価に係る実施対象は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 中期目標・中期計画の進捗状況
- (2) 教育の内部質保証に係るデータ
- (3) アニュアルレポートに係るデータ
- (4) 委員会等活動報告書
- (5) その他、学長が指示する事項

2 前項第1号及び第3号から第5号までの点検評価は、本部が点検評価を行う組織の単位、点検評価の項目、様式、手続の詳細その他必要な事項を定め、実施する。

3 第1項第2号に係る点検評価の実施方法等は、学長が別に定める。

4 大学における諸活動等の点検評価を行う責任者は、所定の期日までに自己点検結果を全学戦略・広報本部長に提出する。

5 本部は、前項の自己点検結果を整理し学内に公表するとともに、自己点検結果を分析し、学長に報告する。

6 学長は、前項の報告に基づき評価結果案を作成し、経営協議会又は教育研究評議会の議を経て、評価結果を決定する。

7 前項までの規定のほか、大学院連合学校教育学研究科は、大学における諸活動等の点検評価を実施することができる。

8 大学院連合学校教育学研究科を代表する者は、前項の大学における諸活動等の点検評価を実施し、評価結果を決定したときは、学長に報告しなければならない。
（教員の総合的業績管理）

第8条 教員の総合的業績管理は、常勤の大学教員を対象として各学系、教職大学院、大学教育研究基盤センター機構、現職教員支援センター機構、先端教育人材育成推進機構及び教育インキュベーション推進機構（以下「各学系等」という。）が、実施する。

2 前項の教員の総合的業績管理の実施については、役員会が定める指針及び基準等によるほか、必要な事項は、役員会又は各学系等において別に定める。

（自己点検評価結果の公表）

第9条 自己点検評価のうち大学における諸活動等の点検評価結果は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。

2 総合的業績管理の実施結果は、学内に公表する。ただし、教員個別の結果は、本人、学長及び学長が必要と認めた者以外に対して公表しない。

（自己点検評価結果の活用）

第10条 学長は、自己点検評価の評価結果に基づき、優れた取組み及び改善を要する事項に対して所要の措置を講ずるものとする。

（外部評価）

第11条 学長が必要と認めるときは、自己点検評価の結果に基づき、外部評価（自己点検評価の一環として行う学外者による評価及び検証をいう。）を行うことができる。

2 外部評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 認証評価及び法人評価

（認証評価及び法人評価への対応）

第12条 認証評価及び法人評価を受けるにあたっては、評価機関等の示す実施要領等に基づき、本部が、本学の対応について、その詳細を定めるものとする。

2 本部は、学内の組織に対して、認証評価及び法人評価への対応のために必要な点検及び評価の実施、資料・データの提出等を求めることができる。

（評価結果の公表）

第13条 認証評価及び法人評価の評価結果等は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。

（評価結果の活用）

第14条 学長は、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき、改善が必要なものについては、その改善に努めなければならない。

第3節 教職課程評価

（教職課程評価の実施）

第15条 本部は、カリキュラム改革推進本部の協力を得て、本学の教職課程についての自己点検評価を実施する。

2 前項の教職課程評価の実施については、評価結果の公表及び活用を含め、本部が別に定める。

第4節 改善措置等

第16条 本部は、自己点検評価、認証評価、法人評価及び教職課程評価の評価に基づき、学長に対し、改善を要する事項等に関する改善措置等の提言を行うことができる。

2 学長は、前項の提言を踏まえて改善策を決定し、本部を通じて該当する部局等に改善を指示するものとする。

3 本部は、前項の改善策について、その進捗状況を点検評価し、学長に報告しなければならない。

（監事の監査）

第17条 監事は、自己点検評価、認証評価及び法人評価の評価に基づき策定された改善措置の有効性について、監査する。

(本部員等の義務)

第18条 自己点検評価の実施にかかわる全学戦略・広報本部員その他の者は、自己点検評価の対象となる者の基本的人権に配慮するとともに、守秘義務を遵守しなければならない。

(評価資料及びデータ)

第19条 自己点検評価、認証評価、法人評価及び教職課程評価に当たり収集した資料及びデータは、本部が適切な方法で管理する。

2 前項の資料及びデータについては、役員会の議を経て、大学運営のための基礎資料として活用することができる。

第4章 附属学校での実施

第1節 自己点検評価

(自己点検評価の実施)

第20条 自己点検評価は、次に掲げることについて、年度単位で実施するものとする。

(1) 附属学校における諸活動等の点検評価（附属学校における教育活動、学校運営、学生の教育・支援活動、研究活動及び社会貢献活動（以下「附属学校における諸活動等」という。）についての組織的な状況に関する点検及び評価をいう。）

(2) 教員の総合的業績評価（附属学校教員に係る附属学校における諸活動等の個人業績について総合的に行う点検及び評価をいう。）

(附属学校における諸活動等の点検評価)

第21条 各附属学校にあっては、附属学校における諸活動等の点検評価を実施することができる。

2 各附属学校を代表する者は、附属学校における諸活動等の点検評価を実施し、評価結果を決定したときは、附属学校運営部長を通じて学長に報告しなければならない。

(教員の総合的業績評価)

第22条 教員の総合的業績評価は、附属学校教員を対象として各附属学校が実施する。

2 前項の総合的業績評価の実施については、役員会が定める指針及び基準等によるほか、必要な事項は、各附属学校において別に定める。

(自己点検評価結果の公表)

第23条 自己点検評価のうち附属学校における諸活動等の点検評価結果は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表する

ものとする。

- 2 総合的業績評価結果は、学内に公表する。ただし、教員個別の評価結果は、本人、学長及び学長が必要と認めた者以外に対して公表しない。

（自己点検評価結果の活用）

- 第24条 学長は、自己点検評価の評価結果に基づき、優れた取組及び改善を要する事項に対して所要の措置を講ずるものとする。

（外部評価）

- 第25条 学長が必要と認めるときは、自己点検評価の結果に基づき、外部評価（自己点検評価の一環として行う学外者による評価及び検証をいう。）を行うことができる。

- 2 外部評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 改善措置等

（改善措置の提言）

- 第26条 運営会議は、自己点検評価の結果に基づき、学長に対し、改善を要する事項等に関する改善措置等の提言を行うことができる。

（監事の監査）

- 第27条 監事は、自己点検評価の結果に基づき策定された改善措置の有効性について、監査する。

（運営会議委員等の義務）

- 第28条 自己点検評価の実施にかかわる運営会議委員その他の者は、自己点検評価の対象となる者の基本的人権に配慮するとともに、守秘義務を遵守しなければならない。

（評価資料及びデータ）

- 第29条 自己点検評価に当たり収集した資料及びデータは、運営会議が適切な方法で管理する。

- 2 前項の資料及びデータについては、役員会の議を経て、大学運営のための基礎資料として活用することができる。

第5章 補則

（規程の改廃）

- 第30条 この規程の改廃は、役員会の議を経て学長が定める。

（補則）

- 第31条 この規程に定めるもののほか、点検評価に関し必要な事項は、学長が別に定める。

令和 8 年 度 戦 略 評 価 本 部

本部長	清水 研司	副学長（法人戦略担当）
本部員	中野 幸夫	副学長（大学院修士課程・入試担当）
本部員	日高 智彦	学長補佐
本部員	吉田 伊津美	学長補佐
本部員	大塚 千尋	学長補佐

アニュアル・レポート 2026

令和 8 年 7 月 発行

編集 国立大学法人 東京学芸大学
戦略評価本部

発行 国立大学法人 東京学芸大学
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町 4-1-1
電話（042）329-7111（代表）

